

1. 障害児支援を行う職員についての実態調査

ア.回収結果

都道府県	回答数	施設数 (R2)	回答率	都道府県	回答数	施設数 (R2)	回答率
北海道	377	1803	20.9%	滋賀県	34	193	17.6%
青森県	74	217	34.1%	京都府	76	408	18.6%
岩手県	23	198	11.6%	大阪府	251	2771	9.1%
宮城県	58	338	17.2%	兵庫県	213	1123	19.0%
秋田県	32	90	35.6%	奈良県	35	407	8.6%
山形県	33	164	20.1%	和歌山県	48	199	24.1%
福島県	70	323	21.7%	鳥取県	34	103	33.0%
茨城県	87	585	14.9%	島根県	26	135	19.3%
栃木県	132	344	38.4%	岡山県	97	399	24.3%
群馬県	58	347	16.7%	広島県	231	652	35.4%
埼玉県	244	1222	20.0%	山口県	29	216	13.4%
千葉県	322	1179	27.3%	徳島県	51	244	20.9%
東京都	486	1456	33.4%	香川県	21	147	14.3%
神奈川県	177	1488	11.9%	愛媛県	28	229	12.2%
新潟県	57	214	26.6%	高知県	40	110	36.4%
富山県	38	219	17.4%	福岡県	178	1066	16.7%
石川県	42	227	18.5%	佐賀県	48	219	21.9%
福井県	28	120	23.3%	長崎県	92	378	24.3%
山梨県	0	116	0.0%	熊本県	176	517	34.0%
長野県	56	255	22.0%	大分県	82	241	34.0%
岐阜県	39	386	10.1%	宮崎県	82	227	36.1%
静岡県	114	618	18.4%	鹿児島県	122	567	21.5%
愛知県	103	1595	6.5%	沖縄県	209	723	28.9%
三重県	71	324	21.9%	全国	4924	25102	19.6%

※施設数は令和2年度社会福祉施設等調査よりセンター及び児童発達支援と放課後等デイサービスを合算した数

イ.基礎情報について

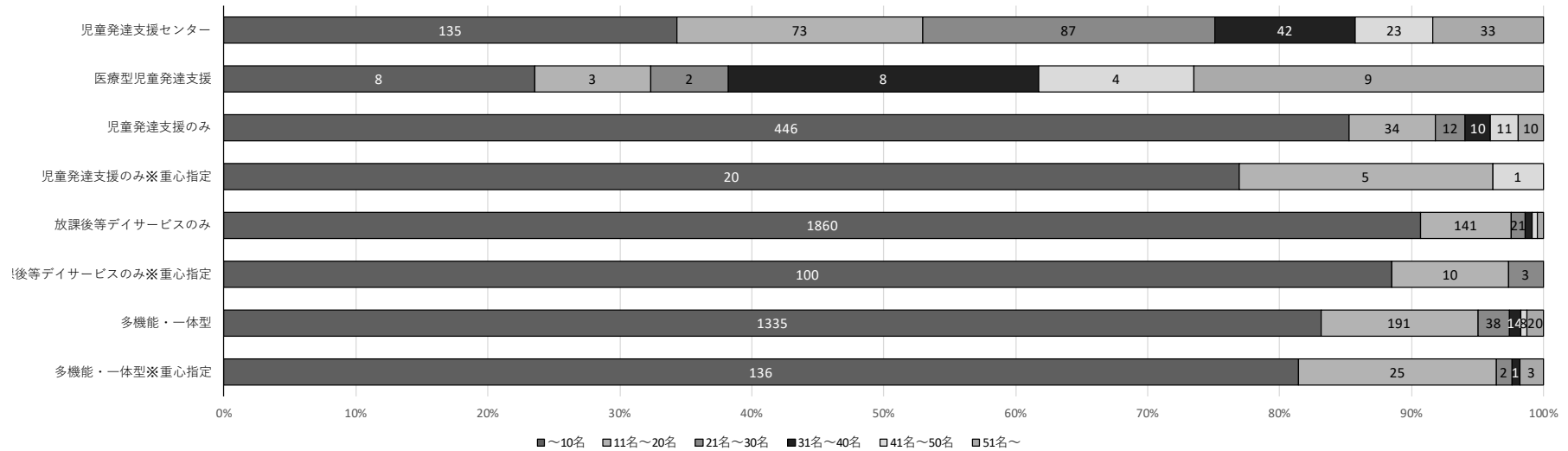
(1) 事業所の種類

(1) 事業所の種類	全体
児童発達支援センター	407
児童発達支援事業	2435
放課後等デイサービス事業	4075
保育所等訪問支援	478
居宅訪問型児童発達支援	61
医療型児童発達支援	34
その他	41
児童発達支援のみ（センター除く）	549
放課後等デイサービスのみ	2164
多機能・一体型	1773

(2) 重症心身型の指定の有無

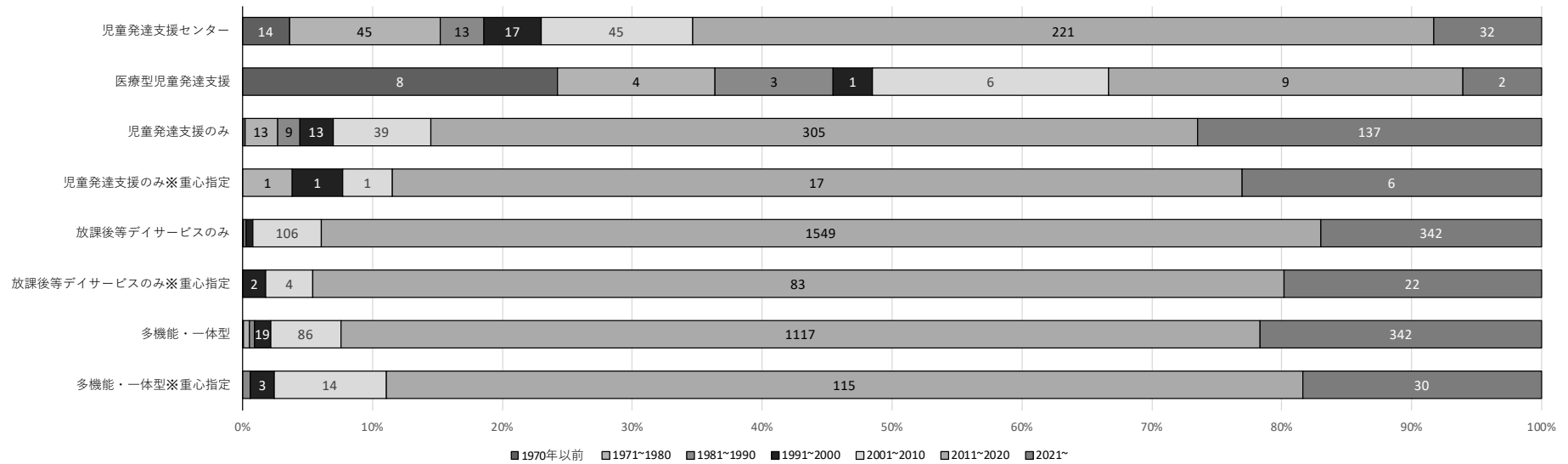
(2) 重症心身型の指定の有無	全体		児童発達支援センター		医療型児童発達支援		児童発達支援のみ		放課後等デイサービスの のみ		多機能・一体型	
指定あり	357	(7%)	37	(9%)	12	(35%)	26	(5%)	113	(5%)	167	(9%)
指定なし	4567	(93%)	356	(91%)	22	(65%)	523	(95%)	2051	(95%)	1606	(91%)
合計	4924	(100%)	393	(100%)	34	(100%)	549	(100%)	2164	(100%)	1773	(100%)

(5) 事業所の定員数



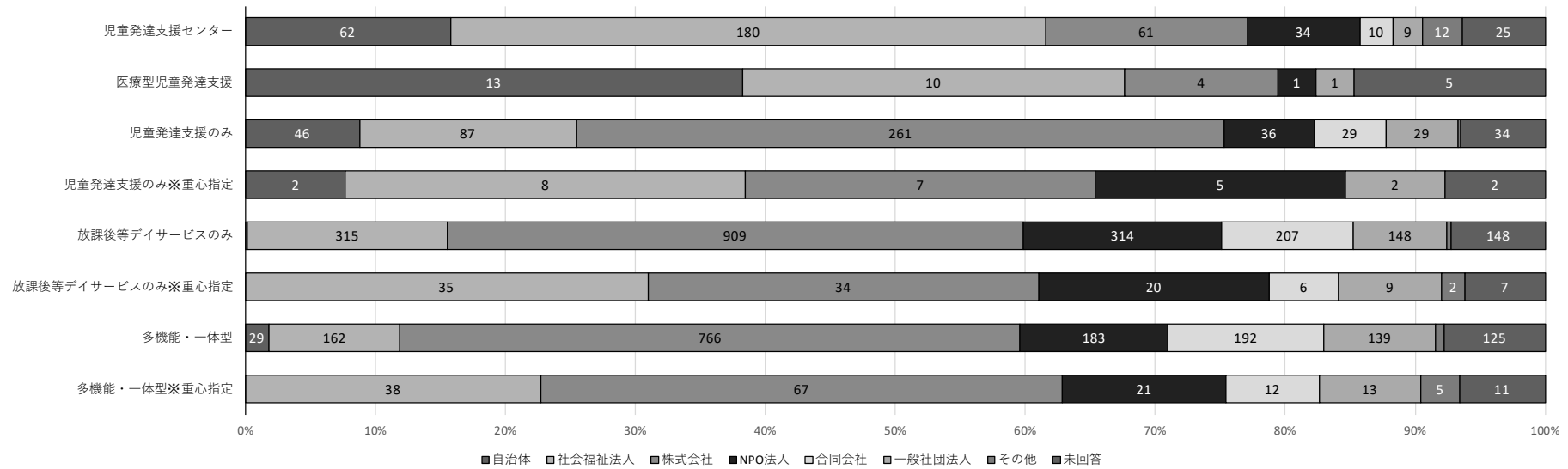
(5) 事業所の定員数	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等デイサービスのみのみ	放課後等デイサービスのみの※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
~10名	4043 (82%)	135 (34%)	8 (24%)	446 (85%)	20 (77%)	1860 (91%)	100 (88%)	1335 (83%)	136 (81%)
11名~20名	484 (10%)	73 (19%)	3 (9%)	34 (7%)	5 (19%)	141 (7%)	10 (9%)	191 (12%)	25 (15%)
21名~30名	167 (3%)	87 (22%)	2 (6%)	12 (2%)	0 (0%)	21 (1%)	3 (3%)	38 (2%)	2 (1%)
31名~40名	87 (2%)	42 (11%)	8 (24%)	10 (2%)	0 (0%)	11 (1%)	0 (0%)	14 (1%)	1 (1%)
41名~50名	57 (1%)	23 (6%)	4 (12%)	11 (2%)	1 (4%)	9 (0%)	0 (0%)	8 (0%)	0 (0%)
51名~	86 (2%)	33 (8%)	9 (26%)	10 (2%)	0 (0%)	9 (0%)	0 (0%)	20 (1%)	3 (2%)
合計	4924	393	34	523	26	2051	113	1606	167

(6) 事業所の開設年



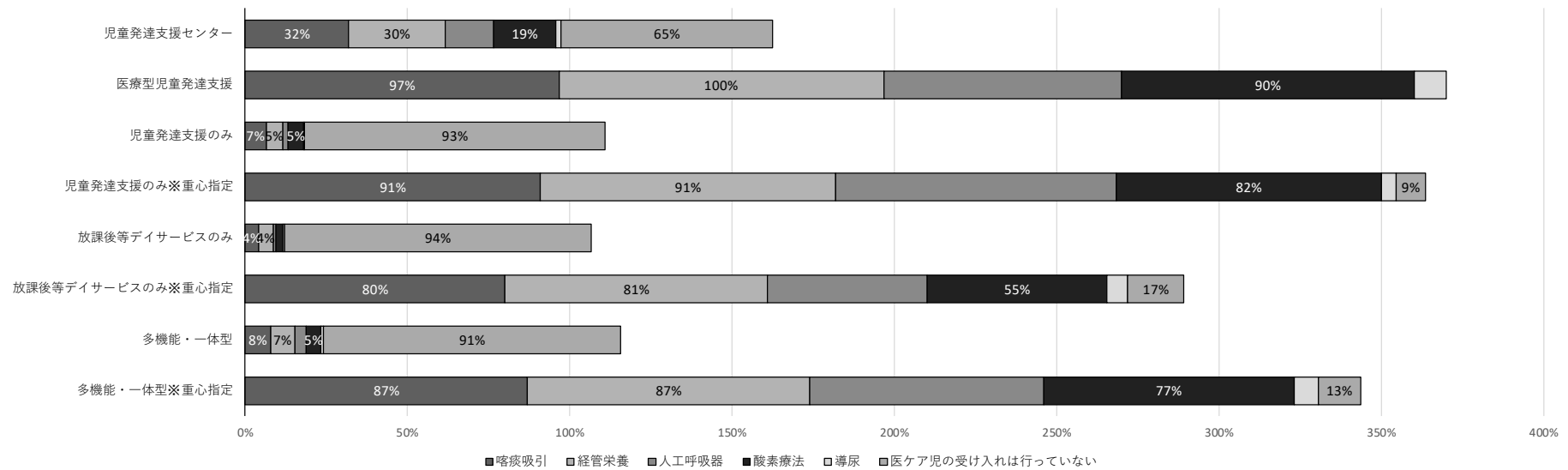
(6) 事業所の開設年 (西暦)	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等デイサービスのみのみ	放課後等デイサービスのみのみ※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
1970年以前	24 (0%)	14 (4%)	8 (24%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)
1971~1980	72 (1%)	45 (11%)	4 (12%)	13 (2%)	1 (4%)	1 (0%)	0 (0%)	7 (0%)	0 (0%)
1981~1990	38 (1%)	13 (3%)	3 (9%)	9 (2%)	0 (0%)	5 (0%)	0 (0%)	7 (0%)	1 (1%)
1991~2000	66 (1%)	17 (4%)	1 (3%)	13 (2%)	1 (4%)	10 (0%)	2 (2%)	19 (1%)	3 (2%)
2001~2010	301 (6%)	45 (11%)	6 (18%)	39 (7%)	1 (4%)	106 (5%)	4 (4%)	86 (5%)	14 (8%)
2011~2020	3423 (70%)	221 (56%)	9 (26%)	305 (58%)	17 (65%)	1549 (76%)	83 (73%)	1117 (70%)	115 (69%)
2021~	915 (19%)	32 (8%)	2 (6%)	137 (26%)	6 (23%)	342 (17%)	22 (19%)	342 (21%)	30 (18%)
未回答	85 (2%)	6 (2%)	1 (3%)	6 (1%)	0 (0%)	38 (2%)	2 (2%)	27 (2%)	4 (2%)
合計	4924	393	34	523	26	2051	113	1606	167

(7) 運営主体



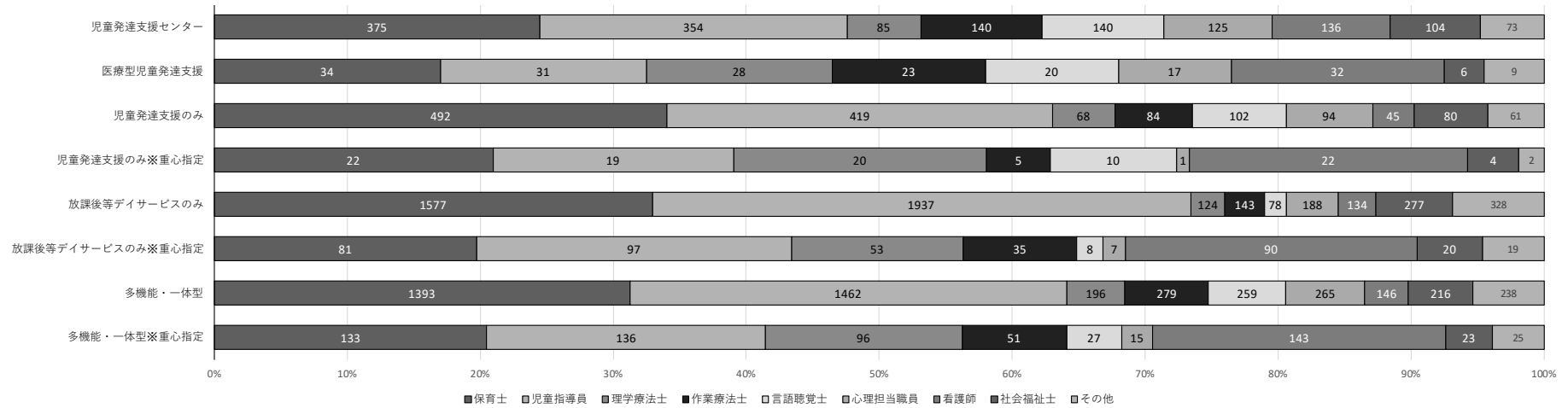
(7) 運営主体	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重点指定	放課後等デイサービスののみ	放課後等デイサービスののみ※重点指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重点指定
自治体	157 (3%)	62 (16%)	13 (38%)	46 (9%)	2 (8%)	3 (0%)	0 (0%)	29 (2%)	0 (0%)
社会福祉法人	838 (17%)	180 (46%)	10 (29%)	87 (17%)	8 (31%)	315 (15%)	35 (31%)	162 (10%)	38 (23%)
株式会社	2109 (43%)	61 (16%)	4 (12%)	261 (50%)	7 (27%)	909 (44%)	34 (30%)	766 (48%)	67 (40%)
NPO法人	616 (13%)	34 (9%)	1 (3%)	36 (7%)	5 (19%)	314 (15%)	20 (18%)	183 (11%)	21 (13%)
合同会社	457 (9%)	10 (3%)	0 (0%)	29 (6%)	0 (0%)	207 (10%)	6 (5%)	192 (12%)	12 (7%)
一般社団法人	352 (7%)	9 (2%)	1 (3%)	29 (6%)	2 (8%)	148 (7%)	9 (8%)	139 (9%)	13 (8%)
その他	41 (1%)	12 (3%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	7 (0%)	2 (2%)	10 (1%)	5 (3%)
未回答	354 (7%)	25 (6%)	5 (15%)	34 (7%)	2 (8%)	148 (7%)	7 (6%)	125 (8%)	11 (7%)
合計	4924	393	34	523	26	2051	113	1606	167

(8) 行える医療行為



(8) 行える医療行為	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等デイサービスのみのみ	放課後等デイサービスのみのみ※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
喀痰吸引	585 (14%)	102 (32%)	29 (97%)	27 (7%)	20 (91%)	71 (4%)	88 (80%)	103 (8%)	140 (87%)
経管栄養	573 (14%)	95 (30%)	30 (100%)	21 (5%)	20 (91%)	78 (4%)	89 (81%)	95 (7%)	140 (87%)
人工呼吸器	333 (8%)	48 (15%)	22 (73%)	7 (2%)	19 (86%)	16 (1%)	54 (49%)	47 (4%)	116 (72%)
酸素療法	408 (10%)	61 (19%)	27 (90%)	20 (5%)	18 (82%)	34 (2%)	61 (55%)	59 (5%)	124 (77%)
導尿	51 (1%)	5 (2%)	3 (10%)	1 (0%)	1 (5%)	12 (1%)	7 (6%)	10 (1%)	12 (7%)
ケア児の受け入れは行っていない	3467 (84%)	209 (65%)	0 (0%)	384 (93%)	2 (9%)	1638 (94%)	19 (17%)	1190 (91%)	21 (13%)
その他	205 (5%)	38 (12%)	2 (7%)	41 (10%)	6 (27%)	44 (3%)	8 (7%)	51 (4%)	14 (9%)
未回答	542 (13%)	29 (9%)	1 (3%)	56 (13%)	3 (14%)	221 (13%)	3 (3%)	225 (17%)	3 (2%)
回答数	4104	320	30	415	22	1736	110	1301	161

(9) 職員配置 (管理者・児発管を除く直接支援職員)



(9) 職員配置 (管理者・児発管を除く直接支援職員)

	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等サービスのみのみ	放課後等サービスのみのみ※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
保育士	4114 (84%)	375 (95%)	34 (100%)	492 (94%)	22 (85%)	1577 (77%)	81 (72%)	1393 (87%)	133 (80%)
児童指導員	4459 (91%)	354 (90%)	31 (91%)	419 (80%)	19 (73%)	1937 (94%)	97 (86%)	1462 (91%)	136 (81%)
理学療法士	672 (14%)	85 (22%)	28 (82%)	68 (13%)	20 (77%)	124 (6%)	53 (47%)	196 (12%)	96 (57%)
作業療法士	764 (16%)	140 (36%)	23 (68%)	84 (16%)	5 (19%)	143 (7%)	35 (31%)	279 (17%)	51 (31%)
言語聴覚士	645 (13%)	140 (36%)	20 (59%)	102 (20%)	10 (38%)	78 (4%)	8 (7%)	259 (16%)	27 (16%)
心理担当職員	713 (14%)	125 (32%)	17 (50%)	94 (18%)	1 (4%)	188 (9%)	7 (6%)	265 (17%)	15 (9%)
看護師	753 (15%)	136 (35%)	32 (94%)	45 (9%)	22 (85%)	134 (7%)	90 (80%)	146 (9%)	143 (86%)
社会福祉士	731 (15%)	104 (26%)	6 (18%)	80 (15%)	4 (15%)	277 (14%)	20 (18%)	216 (13%)	23 (14%)
その他	757 (15%)	73 (19%)	9 (26%)	61 (12%)	2 (8%)	328 (16%)	19 (17%)	238 (15%)	25 (15%)
未回答	20 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	12 (1%)	0 (0%)	6 (0%)	1 (1%)

ウ.調査結果（職種共通）

次の内容（発達支援・家族支援・地域支援・事業運営等）について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員が該当しますか。

発達支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	306 (6%)	897 (19%)	1388 (29%)	1092 (23%)	585 (12%)	580 (12%)	4848
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	173 (6%)	582 (19%)	965 (31%)	701 (23%)	310 (10%)	340 (11%)	3071
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	582 (12%)	1076 (23%)	1318 (28%)	961 (20%)	396 (8%)	418 (9%)	4751
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	443 (10%)	1053 (23%)	1365 (30%)	957 (21%)	379 (8%)	395 (9%)	4592
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	272 (7%)	764 (20%)	1151 (31%)	837 (22%)	343 (9%)	398 (11%)	3765
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	356 (7%)	959 (20%)	1494 (31%)	1076 (23%)	436 (9%)	461 (10%)	4782
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	398 (9%)	1001 (22%)	1437 (31%)	982 (21%)	414 (9%)	406 (9%)	4638
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	431 (9%)	1092 (22%)	1479 (30%)	1042 (21%)	410 (8%)	409 (8%)	4863
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	372 (8%)	1074 (22%)	1521 (31%)	1063 (22%)	423 (9%)	414 (9%)	4867
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	379 (8%)	1100 (23%)	1497 (31%)	1041 (22%)	401 (8%)	405 (8%)	4823
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	273 (6%)	898 (19%)	1531 (32%)	1175 (24%)	462 (10%)	487 (10%)	4826
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	265 (5%)	873 (18%)	1520 (31%)	1201 (25%)	487 (10%)	489 (10%)	4835
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	290 (6%)	935 (19%)	1550 (32%)	1176 (24%)	476 (10%)	437 (9%)	4864
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	239 (5%)	847 (18%)	1500 (31%)	1192 (25%)	498 (10%)	522 (11%)	4798
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	174 (4%)	682 (15%)	1398 (30%)	1246 (26%)	592 (13%)	610 (13%)	4702
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	199 (4%)	665 (15%)	1397 (31%)	1139 (25%)	528 (12%)	551 (12%)	4479
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	342 (8%)	875 (19%)	1311 (29%)	1034 (23%)	462 (10%)	495 (11%)	4519
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）]	350 (7%)	1033 (22%)	1521 (32%)	1063 (22%)	386 (8%)	397 (8%)	4750
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [知的障害]	388 (8%)	1080 (23%)	1497 (32%)	1009 (21%)	380 (8%)	396 (8%)	4750
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [肢体不自由]	182 (7%)	512 (21%)	731 (29%)	580 (23%)	225 (9%)	265 (11%)	2495
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [重症心身障害]	100 (6%)	246 (16%)	457 (29%)	402 (26%)	149 (10%)	211 (13%)	1565
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [医療的ケア]	92 (7%)	193 (16%)	348 (28%)	312 (25%)	114 (9%)	174 (14%)	1233
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [聴覚障害]	150 (9%)	349 (21%)	466 (28%)	378 (23%)	135 (8%)	174 (11%)	1652
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [視覚障害]	128 (10%)	265 (20%)	367 (28%)	325 (25%)	109 (8%)	126 (10%)	1320
⑱理解し適切な配慮と支援をしている [マルチリートメント（虐待等）]	164 (6%)	447 (16%)	805 (29%)	669 (24%)	313 (11%)	353 (13%)	2751

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	491 (10%)	1115 (24%)	1296 (28%)	969 (21%)	410 (9%)	416 (9%)	4697
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	231 (5%)	799 (18%)	1271 (28%)	1086 (24%)	508 (11%)	566 (13%)	4461
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	133 (3%)	564 (12%)	1232 (27%)	1274 (28%)	671 (14%)	754 (16%)	4628
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	163 (3%)	629 (13%)	1298 (27%)	1300 (27%)	671 (14%)	753 (16%)	4814
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	105 (2%)	460 (10%)	1146 (25%)	1289 (29%)	708 (16%)	794 (18%)	4502
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	76 (2%)	350 (11%)	824 (25%)	889 (27%)	509 (16%)	596 (18%)	3244
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	148 (4%)	511 (12%)	1094 (26%)	1124 (27%)	603 (14%)	708 (17%)	4188

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	169 (4%)	617 (13%)	1254 (27%)	1253 (27%)	649 (14%)	733 (16%)	4675
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	110 (2%)	459 (10%)	1113 (24%)	1307 (28%)	764 (16%)	901 (19%)	4654
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	109 (2%)	445 (10%)	1140 (26%)	1236 (28%)	704 (16%)	777 (18%)	4411
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	58 (2%)	232 (10%)	535 (23%)	634 (27%)	359 (15%)	523 (22%)	2341
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	53 (2%)	207 (8%)	502 (20%)	677 (28%)	395 (16%)	619 (25%)	2453
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	86 (3%)	312 (9%)	708 (21%)	889 (27%)	540 (16%)	800 (24%)	3335

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	266 (5%)	831 (17%)	1413 (29%)	1179 (24%)	560 (12%)	609 (13%)	4858
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	160 (3%)	609 (13%)	1217 (25%)	1286 (27%)	697 (15%)	836 (17%)	4805
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	330 (7%)	1066 (22%)	1415 (29%)	1112 (23%)	461 (10%)	465 (10%)	4849
④PDCAを意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	290 (6%)	899 (19%)	1391 (29%)	1178 (25%)	515 (11%)	486 (10%)	4759
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	263 (5%)	878 (18%)	1399 (29%)	1204 (25%)	538 (11%)	537 (11%)	4819
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	717 (15%)	928 (19%)	1168 (24%)	1037 (21%)	503 (10%)	529 (11%)	4882
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	597 (12%)	1012 (21%)	1313 (27%)	1032 (21%)	456 (9%)	469 (10%)	4879
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	342 (7%)	932 (20%)	1385 (30%)	1040 (23%)	440 (10%)	422 (9%)	4561
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	371 (8%)	706 (16%)	1128 (26%)	1018 (23%)	539 (12%)	648 (15%)	4410
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	648 (13%)	1038 (21%)	1229 (25%)	1005 (21%)	470 (10%)	482 (10%)	4872
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	608 (12%)	1079 (22%)	1288 (26%)	1004 (21%)	453 (9%)	445 (9%)	4877
⑫組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	263 (6%)	630 (13%)	1116 (24%)	1207 (26%)	647 (14%)	831 (18%)	4694
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	219 (5%)	616 (13%)	1144 (24%)	1245 (26%)	665 (14%)	859 (18%)	4748

【事業種別】

○発達支援

職種共通_事業種別_児童発達支援センター

発達支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	25 (6%)	75 (19%)	114 (29%)	79 (20%)	48 (12%)	48 (12%)	389
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	14 (5%)	53 (17%)	106 (35%)	59 (19%)	31 (10%)	40 (13%)	303
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	42 (11%)	97 (26%)	102 (27%)	66 (17%)	32 (8%)	40 (11%)	379
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	26 (7%)	96 (25%)	120 (32%)	68 (18%)	30 (8%)	37 (10%)	377
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	16 (5%)	65 (19%)	101 (30%)	70 (21%)	37 (11%)	48 (14%)	337
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	23 (6%)	71 (18%)	118 (30%)	86 (22%)	38 (10%)	53 (14%)	389
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	26 (7%)	82 (21%)	120 (31%)	77 (20%)	39 (10%)	42 (11%)	386
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	28 (7%)	89 (23%)	128 (33%)	75 (19%)	33 (8%)	38 (10%)	391
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	24 (6%)	82 (21%)	125 (32%)	79 (20%)	41 (10%)	41 (10%)	392
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	25 (6%)	87 (22%)	128 (33%)	73 (19%)	37 (10%)	38 (10%)	388
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	17 (4%)	60 (15%)	127 (32%)	98 (25%)	44 (11%)	46 (12%)	392
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	16 (4%)	62 (16%)	116 (30%)	102 (26%)	42 (11%)	52 (13%)	390
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	17 (4%)	64 (16%)	127 (32%)	94 (24%)	45 (11%)	45 (11%)	392
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	13 (3%)	58 (15%)	118 (30%)	96 (25%)	45 (12%)	57 (15%)	387
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	7 (2%)	38 (10%)	105 (28%)	103 (27%)	62 (16%)	63 (17%)	378
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	10 (3%)	41 (11%)	95 (26%)	95 (26%)	53 (15%)	70 (19%)	364
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	28 (8%)	70 (19%)	106 (29%)	73 (20%)	40 (11%)	50 (14%)	367
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	24 (6%)	73 (19%)	124 (32%)	86 (22%)	41 (11%)	37 (10%)	385
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	28 (7%)	75 (19%)	127 (33%)	79 (21%)	37 (10%)	39 (10%)	385
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	11 (5%)	38 (16%)	83 (34%)	52 (21%)	24 (10%)	36 (15%)	244
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	6 (4%)	18 (11%)	48 (29%)	43 (26%)	16 (10%)	32 (20%)	163
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	8 (5%)	16 (10%)	44 (29%)	43 (28%)	19 (12%)	23 (15%)	153
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	9 (6%)	26 (16%)	45 (28%)	32 (20%)	18 (11%)	30 (19%)	160
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	6 (5%)	18 (15%)	34 (28%)	30 (24%)	16 (13%)	19 (15%)	123
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリポートメント（虐待等）】	9 (4%)	30 (12%)	69 (27%)	65 (25%)	31 (12%)	51 (20%)	255

職種共通_事業種別_医療型・重症児

発達支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	16 (5%)	54 (16%)	92 (28%)	72 (22%)	42 (13%)	56 (17%)	332
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	11 (4%)	50 (19%)	74 (29%)	51 (20%)	27 (10%)	46 (18%)	259
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	27 (8%)	72 (22%)	83 (25%)	61 (18%)	32 (10%)	55 (17%)	330
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	23 (7%)	63 (20%)	92 (29%)	60 (19%)	38 (12%)	44 (14%)	320
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	12 (4%)	66 (21%)	79 (25%)	70 (23%)	30 (10%)	54 (17%)	311
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	16 (5%)	57 (18%)	89 (28%)	69 (22%)	34 (11%)	53 (17%)	318
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	20 (7%)	51 (17%)	95 (31%)	61 (20%)	31 (10%)	45 (15%)	303
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	20 (6%)	67 (21%)	90 (28%)	66 (20%)	35 (11%)	44 (14%)	322
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	21 (6%)	67 (20%)	91 (27%)	73 (22%)	33 (10%)	47 (14%)	332
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	17 (5%)	65 (21%)	91 (29%)	70 (23%)	28 (9%)	40 (13%)	311
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	14 (5%)	54 (18%)	84 (28%)	67 (22%)	34 (11%)	50 (17%)	303
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	15 (5%)	50 (16%)	84 (27%)	72 (24%)	35 (11%)	50 (16%)	306
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	17 (5%)	59 (18%)	93 (29%)	74 (23%)	35 (11%)	43 (13%)	321
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	15 (5%)	54 (17%)	87 (27%)	75 (23%)	36 (11%)	54 (17%)	321
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	10 (3%)	43 (14%)	77 (25%)	70 (23%)	47 (15%)	61 (20%)	308
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	10 (4%)	39 (15%)	78 (29%)	59 (22%)	37 (14%)	45 (17%)	268
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	28 (9%)	58 (18%)	87 (26%)	64 (19%)	37 (11%)	55 (17%)	329
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	19 (8%)	35 (16%)	63 (28%)	52 (23%)	22 (10%)	34 (15%)	225
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	24 (9%)	57 (21%)	66 (24%)	58 (21%)	27 (10%)	39 (14%)	271
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	21 (7%)	54 (18%)	81 (28%)	54 (18%)	32 (11%)	50 (17%)	292
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	17 (6%)	49 (16%)	82 (27%)	58 (19%)	37 (12%)	57 (19%)	300
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	16 (6%)	47 (16%)	86 (30%)	55 (19%)	28 (10%)	58 (20%)	290
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	18 (10%)	32 (18%)	49 (28%)	35 (20%)	15 (8%)	28 (16%)	177
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	17 (9%)	33 (18%)	51 (28%)	37 (21%)	17 (9%)	24 (13%)	179
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリポートメント（虐待等）】	18 (10%)	22 (12%)	58 (31%)	35 (19%)	18 (10%)	34 (18%)	185

職種共通_事業種別_児童発達支援のみ※重症児除く

発達支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	43 (8%)	116 (23%)	130 (25%)	106 (21%)	56 (11%)	64 (12%)	515
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	14 (5%)	51 (19%)	76 (28%)	63 (23%)	34 (13%)	31 (12%)	269
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	69 (14%)	121 (24%)	127 (26%)	91 (18%)	41 (8%)	46 (9%)	495
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	47 (10%)	116 (25%)	129 (28%)	93 (20%)	39 (8%)	44 (9%)	468
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	38 (9%)	86 (21%)	113 (28%)	80 (20%)	32 (8%)	53 (13%)	402
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	53 (10%)	116 (22%)	149 (29%)	102 (20%)	43 (8%)	53 (10%)	516
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	54 (11%)	117 (23%)	143 (28%)	102 (20%)	44 (9%)	46 (9%)	506
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	60 (12%)	118 (23%)	145 (28%)	106 (20%)	42 (8%)	49 (9%)	520
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	51 (10%)	115 (22%)	152 (29%)	108 (21%)	45 (9%)	50 (10%)	521
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	47 (9%)	122 (24%)	146 (29%)	99 (19%)	45 (9%)	52 (10%)	511
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	44 (9%)	110 (21%)	145 (28%)	115 (22%)	46 (9%)	57 (11%)	517
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	43 (8%)	101 (19%)	154 (30%)	111 (21%)	49 (9%)	61 (12%)	519
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	47 (9%)	107 (21%)	151 (29%)	114 (22%)	50 (10%)	51 (10%)	520
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	43 (8%)	106 (21%)	140 (27%)	112 (22%)	53 (10%)	63 (12%)	517
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	18 (4%)	82 (17%)	119 (25%)	113 (23%)	66 (14%)	87 (18%)	485
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	25 (5%)	86 (19%)	129 (28%)	99 (21%)	45 (10%)	78 (17%)	462
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	41 (9%)	98 (22%)	115 (26%)	88 (20%)	41 (9%)	67 (15%)	450
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	49 (9%)	126 (24%)	153 (29%)	107 (21%)	43 (8%)	42 (8%)	520
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	49 (10%)	122 (24%)	156 (31%)	99 (20%)	38 (7%)	43 (8%)	507
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	13 (7%)	41 (21%)	54 (28%)	41 (21%)	18 (9%)	28 (14%)	195
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	8 (7%)	20 (17%)	30 (25%)	31 (26%)	10 (8%)	22 (18%)	121
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	8 (8%)	16 (17%)	22 (23%)	29 (30%)	6 (6%)	15 (16%)	96
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	12 (7%)	31 (19%)	42 (25%)	47 (28%)	10 (6%)	23 (14%)	165
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	8 (7%)	20 (18%)	25 (23%)	38 (35%)	8 (7%)	11 (10%)	110
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリポートメント（虐待等）】	21 (8%)	53 (20%)	71 (27%)	54 (20%)	32 (12%)	35 (13%)	266

職種共通_事業種別_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

発達支援	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	108	(5%)	353	(17%)	590	(29%)	487	(24%)	263	(13%)	226	(11%)	2027
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	74	(6%)	242	(19%)	401	(31%)	310	(24%)	137	(11%)	121	(9%)	1285
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	232	(12%)	430	(22%)	566	(28%)	438	(22%)	183	(9%)	147	(7%)	1996
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	184	(10%)	413	(22%)	574	(30%)	426	(22%)	168	(9%)	145	(8%)	1910
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	109	(8%)	284	(20%)	434	(30%)	346	(24%)	143	(10%)	117	(8%)	1433
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	131	(7%)	377	(19%)	632	(32%)	483	(24%)	193	(10%)	163	(8%)	1979
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	150	(8%)	404	(21%)	593	(31%)	419	(22%)	177	(9%)	141	(7%)	1884
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	164	(8%)	434	(21%)	631	(31%)	472	(23%)	184	(9%)	149	(7%)	2034
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	135	(7%)	439	(22%)	658	(32%)	470	(23%)	181	(9%)	142	(7%)	2025
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	154	(8%)	451	(22%)	632	(31%)	476	(23%)	174	(9%)	139	(7%)	2026
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	99	(5%)	361	(18%)	647	(32%)	522	(26%)	212	(10%)	181	(9%)	2022
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	90	(4%)	358	(18%)	643	(32%)	536	(26%)	228	(11%)	170	(8%)	2025
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	101	(5%)	392	(19%)	648	(32%)	519	(26%)	218	(11%)	156	(8%)	2034
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	75	(4%)	328	(16%)	642	(32%)	542	(27%)	224	(11%)	184	(9%)	1995
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	69	(4%)	273	(14%)	608	(31%)	546	(28%)	256	(13%)	216	(11%)	1968
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	76	(4%)	269	(14%)	609	(32%)	507	(27%)	244	(13%)	193	(10%)	1898
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	126	(7%)	364	(19%)	558	(29%)	483	(25%)	201	(11%)	172	(9%)	1904
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	134	(7%)	426	(21%)	654	(32%)	501	(25%)	164	(8%)	149	(7%)	2028
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	152	(8%)	450	(22%)	635	(31%)	465	(23%)	169	(8%)	148	(7%)	2019
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	78	(8%)	230	(23%)	282	(28%)	241	(24%)	98	(10%)	70	(7%)	999
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	43	(8%)	85	(16%)	151	(29%)	141	(27%)	53	(10%)	45	(9%)	518
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	35	(10%)	64	(18%)	95	(27%)	90	(26%)	33	(10%)	30	(9%)	347
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	60	(10%)	154	(25%)	174	(28%)	141	(23%)	57	(9%)	35	(6%)	621
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	51	(11%)	110	(23%)	133	(28%)	115	(24%)	43	(9%)	27	(6%)	479
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリポートメント（虐待等）】	60	(5%)	207	(18%)	341	(30%)	286	(25%)	141	(12%)	118	(10%)	1153

職種共通_事業種別_多機能・一体型※重症児除く

発達支援	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	114	(7%)	298	(19%)	459	(29%)	346	(22%)	175	(11%)	183	(12%)	1575
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	60	(6%)	185	(20%)	306	(32%)	216	(23%)	81	(9%)	97	(10%)	945
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	211	(14%)	356	(23%)	437	(28%)	303	(20%)	108	(7%)	126	(8%)	1541
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	163	(11%)	364	(24%)	448	(30%)	307	(20%)	103	(7%)	122	(8%)	1507
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	97	(8%)	263	(21%)	421	(33%)	268	(21%)	100	(8%)	123	(10%)	1272
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	133	(8%)	338	(22%)	503	(32%)	333	(21%)	127	(8%)	136	(9%)	1570
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	148	(10%)	347	(22%)	483	(31%)	320	(21%)	122	(8%)	129	(8%)	1549
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	159	(10%)	383	(24%)	483	(30%)	320	(20%)	116	(7%)	125	(8%)	1586
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	141	(9%)	370	(23%)	493	(31%)	330	(21%)	123	(8%)	130	(8%)	1587
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	136	(9%)	375	(24%)	497	(32%)	320	(20%)	117	(7%)	132	(8%)	1577
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	99	(6%)	313	(20%)	524	(33%)	371	(23%)	126	(8%)	149	(9%)	1582
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	101	(6%)	301	(19%)	521	(33%)	377	(24%)	133	(8%)	152	(10%)	1585
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	108	(7%)	312	(20%)	529	(33%)	372	(23%)	128	(8%)	138	(9%)	1587
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	93	(6%)	300	(19%)	511	(33%)	364	(23%)	140	(9%)	160	(10%)	1568
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	70	(5%)	246	(16%)	487	(31%)	410	(26%)	161	(10%)	179	(12%)	1553
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	78	(5%)	230	(16%)	484	(33%)	375	(25%)	149	(10%)	161	(11%)	1477
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	119	(8%)	284	(19%)	444	(30%)	322	(22%)	143	(10%)	148	(10%)	1460
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	124	(8%)	372	(23%)	526	(33%)	314	(20%)	116	(7%)	132	(8%)	1584
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	135	(9%)	375	(24%)	512	(33%)	305	(20%)	109	(7%)	124	(8%)	1560
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	59	(8%)	148	(20%)	229	(30%)	190	(25%)	52	(7%)	79	(10%)	757
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	26	(6%)	73	(16%)	145	(32%)	126	(28%)	32	(7%)	53	(12%)	455
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	25	(7%)	49	(14%)	100	(29%)	92	(27%)	27	(8%)	46	(14%)	339
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	51	(10%)	106	(20%)	155	(30%)	121	(23%)	35	(7%)	57	(11%)	525
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	46	(11%)	84	(20%)	122	(29%)	102	(24%)	25	(6%)	43	(10%)	422
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリポートメント（虐待等）】	56	(6%)	135	(15%)	265	(30%)	225	(25%)	91	(10%)	114	(13%)	886

○家族支援

職種共通_事業種別_児童発達支援センター

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	42 (11%)	96 (25%)	120 (32%)	55 (14%)	32 (8%)	35 (9%)	380
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	21 (6%)	46 (13%)	109 (30%)	79 (22%)	46 (13%)	66 (18%)	367
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	10 (3%)	29 (8%)	96 (25%)	96 (25%)	67 (18%)	82 (22%)	380
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	13 (3%)	39 (10%)	91 (24%)	102 (26%)	64 (17%)	76 (20%)	385
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	8 (2%)	25 (7%)	91 (24%)	109 (29%)	63 (17%)	82 (22%)	378
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	4 (1%)	18 (6%)	59 (19%)	73 (24%)	57 (19%)	92 (30%)	303
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	5 (1%)	25 (7%)	87 (25%)	78 (22%)	67 (19%)	85 (24%)	347

職種共通_事業種別_医療型・重症児

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	30 (9%)	65 (20%)	85 (26%)	72 (22%)	28 (9%)	45 (14%)	325
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	12 (4%)	49 (16%)	83 (28%)	61 (21%)	35 (12%)	57 (19%)	297
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	8 (3%)	41 (13%)	79 (25%)	69 (22%)	43 (14%)	70 (23%)	310
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	9 (3%)	50 (15%)	80 (24%)	76 (23%)	45 (14%)	70 (21%)	330
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	8 (3%)	32 (11%)	66 (23%)	73 (25%)	47 (16%)	65 (22%)	291
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	6 (3%)	19 (10%)	56 (29%)	45 (23%)	33 (17%)	35 (18%)	194
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	13 (5%)	26 (10%)	78 (29%)	57 (21%)	37 (14%)	56 (21%)	267

職種共通_事業種別_児童発達支援のみ※重症児除く

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	42 (9%)	120 (26%)	114 (24%)	85 (18%)	50 (11%)	57 (12%)	468
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	24 (5%)	89 (19%)	110 (24%)	100 (22%)	53 (11%)	85 (18%)	461
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	13 (3%)	75 (15%)	129 (26%)	114 (23%)	68 (14%)	97 (20%)	496
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	22 (4%)	84 (16%)	127 (25%)	113 (22%)	70 (14%)	98 (19%)	514
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	10 (2%)	65 (13%)	121 (24%)	111 (22%)	81 (16%)	109 (22%)	497
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	8 (2%)	60 (16%)	80 (22%)	82 (22%)	54 (15%)	86 (23%)	370
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	22 (5%)	66 (15%)	102 (24%)	95 (22%)	57 (13%)	86 (20%)	428

職種共通_事業種別_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	212 (11%)	450 (22%)	559 (28%)	439 (22%)	191 (10%)	150 (7%)	2001
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	88 (5%)	338 (18%)	548 (29%)	477 (26%)	234 (13%)	180 (10%)	1865
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	47 (2%)	207 (11%)	528 (28%)	570 (30%)	289 (15%)	267 (14%)	1908
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	53 (3%)	232 (12%)	564 (28%)	574 (29%)	306 (15%)	279 (14%)	2008
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	37 (2%)	160 (9%)	481 (26%)	553 (30%)	303 (17%)	298 (16%)	1832
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	24 (2%)	116 (9%)	339 (27%)	384 (30%)	213 (17%)	188 (15%)	1264
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	46 (3%)	212 (12%)	469 (27%)	502 (29%)	266 (15%)	253 (14%)	1748

職種共通_事業種別_多機能・一体型※重症児除く

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	164 (11%)	384 (25%)	415 (27%)	315 (21%)	108 (7%)	128 (8%)	1514
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	86 (6%)	277 (19%)	419 (29%)	366 (25%)	140 (10%)	176 (12%)	1464
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	55 (4%)	212 (14%)	396 (26%)	423 (28%)	203 (13%)	234 (15%)	1523
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	66 (4%)	224 (14%)	432 (28%)	432 (28%)	186 (12%)	226 (14%)	1566
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	42 (3%)	178 (12%)	384 (26%)	440 (29%)	214 (14%)	236 (16%)	1494
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	34 (3%)	137 (12%)	287 (26%)	302 (27%)	152 (14%)	192 (17%)	1104
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	62 (4%)	181 (13%)	356 (26%)	389 (28%)	175 (13%)	226 (16%)	1389

○地域支援

職種共通_事業種別_児童発達支援センター

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	11 (3%)	37 (10%)	99 (26%)	91 (24%)	60 (16%)	79 (21%)	377
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	7 (2%)	17 (4%)	92 (24%)	86 (23%)	70 (18%)	109 (29%)	381
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	9 (2%)	24 (6%)	99 (26%)	92 (24%)	75 (20%)	80 (21%)	379
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	4 (1%)	14 (5%)	59 (20%)	61 (20%)	54 (18%)	109 (36%)	301
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	4 (1%)	9 (3%)	48 (16%)	57 (19%)	55 (19%)	121 (41%)	294
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	7 (2%)	21 (7%)	42 (14%)	56 (18%)	44 (14%)	136 (44%)	306

職種共通_事業種別_医療型・重症児

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	9 (3%)	27 (9%)	88 (29%)	79 (26%)	40 (13%)	65 (21%)	308
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	10 (3%)	27 (8%)	82 (26%)	75 (23%)	54 (17%)	73 (23%)	321
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	7 (2%)	26 (9%)	74 (26%)	66 (23%)	48 (17%)	68 (24%)	289
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	3 (2%)	13 (9%)	33 (22%)	36 (24%)	24 (16%)	40 (27%)	149
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	3 (2%)	13 (8%)	35 (22%)	42 (26%)	24 (15%)	44 (27%)	161
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	8 (3%)	20 (9%)	52 (23%)	55 (24%)	34 (15%)	60 (26%)	229

職種共通_事業種別_児童発達支援のみ※重症児除く

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	21 (4%)	73 (15%)	125 (25%)	111 (22%)	70 (14%)	101 (20%)	501
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	14 (3%)	61 (12%)	107 (22%)	108 (22%)	79 (16%)	121 (25%)	490
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	11 (2%)	59 (12%)	125 (26%)	109 (23%)	70 (15%)	107 (22%)	481
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	11 (4%)	36 (13%)	56 (21%)	55 (20%)	38 (14%)	77 (28%)	273
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	9 (3%)	38 (13%)	50 (17%)	71 (23%)	41 (14%)	94 (31%)	303
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	9 (3%)	35 (11%)	69 (22%)	62 (19%)	51 (16%)	94 (29%)	320

職種共通_事業種別_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	68 (4%)	256 (13%)	523 (27%)	531 (27%)	294 (15%)	266 (14%)	1938
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	35 (2%)	169 (9%)	471 (24%)	589 (31%)	331 (17%)	331 (17%)	1926
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	35 (2%)	166 (9%)	451 (25%)	527 (30%)	303 (17%)	291 (16%)	1773
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	19 (2%)	76 (9%)	209 (25%)	240 (29%)	132 (16%)	147 (18%)	823
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	16 (2%)	69 (8%)	187 (23%)	250 (30%)	143 (17%)	165 (20%)	830
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	28 (2%)	125 (9%)	320 (23%)	390 (28%)	248 (18%)	266 (19%)	1377

職種共通_事業種別_多機能・一体型※重症児除く

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	60 (4%)	223 (14%)	416 (27%)	438 (28%)	185 (12%)	218 (14%)	1540
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	44 (3%)	185 (12%)	357 (23%)	447 (29%)	229 (15%)	263 (17%)	1525
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	47 (3%)	170 (12%)	387 (26%)	439 (30%)	207 (14%)	228 (15%)	1478
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	21 (3%)	93 (12%)	176 (22%)	240 (30%)	111 (14%)	146 (19%)	787
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	21 (2%)	78 (9%)	180 (21%)	255 (30%)	132 (15%)	190 (22%)	856
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	34 (3%)	111 (10%)	223 (20%)	324 (30%)	162 (15%)	240 (22%)	1094

○事業運営

職種共通_事業種別_児童発達支援センター

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	13 (3%)	66 (17%)	105 (27%)	89 (23%)	42 (11%)	76 (19%)	391
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	9 (2%)	25 (6%)	88 (23%)	86 (22%)	55 (14%)	123 (32%)	386
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	22 (6%)	83 (21%)	117 (30%)	75 (19%)	42 (11%)	48 (12%)	387
④P D C A を意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	17 (4%)	64 (17%)	115 (30%)	91 (24%)	43 (11%)	51 (13%)	381
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	21 (5%)	80 (21%)	113 (29%)	79 (20%)	43 (11%)	53 (14%)	389
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	79 (20%)	76 (19%)	87 (22%)	61 (16%)	34 (9%)	56 (14%)	393
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	43 (11%)	95 (24%)	101 (26%)	69 (18%)	38 (10%)	45 (12%)	391
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	20 (5%)	71 (19%)	110 (29%)	85 (23%)	43 (12%)	44 (12%)	373
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	18 (5%)	50 (14%)	85 (23%)	60 (16%)	46 (13%)	106 (29%)	365
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	45 (12%)	82 (21%)	97 (25%)	63 (16%)	39 (10%)	64 (16%)	390
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	45 (11%)	84 (21%)	102 (26%)	74 (19%)	38 (10%)	49 (13%)	392
⑫組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	16 (4%)	34 (9%)	71 (19%)	79 (21%)	53 (14%)	121 (32%)	374
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	11 (3%)	30 (8%)	77 (20%)	76 (20%)	59 (16%)	126 (33%)	379

職種共通_事業種別_医療型・重症児

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	11 (3%)	53 (16%)	88 (26%)	71 (21%)	48 (14%)	65 (19%)	336
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	8 (2%)	42 (13%)	78 (24%)	78 (24%)	47 (14%)	78 (24%)	331
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	16 (5%)	64 (19%)	96 (29%)	76 (23%)	34 (10%)	45 (14%)	331
④P D C A を意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	17 (5%)	48 (15%)	89 (28%)	73 (23%)	40 (13%)	50 (16%)	317
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	16 (5%)	52 (15%)	90 (27%)	84 (25%)	44 (13%)	50 (15%)	336
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	39 (12%)	69 (20%)	79 (23%)	65 (19%)	35 (10%)	51 (15%)	338
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	34 (10%)	61 (18%)	88 (26%)	70 (21%)	35 (10%)	49 (15%)	337
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	21 (6%)	69 (21%)	94 (29%)	69 (21%)	33 (10%)	41 (13%)	327
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	16 (5%)	42 (14%)	87 (29%)	64 (21%)	38 (12%)	58 (19%)	305
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	35 (10%)	75 (22%)	82 (24%)	63 (19%)	33 (10%)	47 (14%)	335
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあっている	32 (9%)	73 (22%)	94 (28%)	64 (19%)	30 (9%)	44 (13%)	337
⑫ 組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	10 (3%)	44 (14%)	85 (26%)	69 (21%)	43 (13%)	70 (22%)	321
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	10 (3%)	44 (14%)	82 (25%)	76 (23%)	39 (12%)	73 (23%)	324

職種共通_事業種別_児童発達支援のみ※重症児除く

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	43 (8%)	96 (19%)	137 (27%)	102 (20%)	62 (12%)	74 (14%)	514
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	20 (4%)	69 (13%)	113 (22%)	112 (22%)	82 (16%)	117 (23%)	513
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	46 (9%)	105 (20%)	135 (26%)	109 (21%)	58 (11%)	62 (12%)	515
④P D C A を意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	47 (9%)	104 (20%)	128 (25%)	102 (20%)	62 (12%)	65 (13%)	508
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	40 (8%)	107 (21%)	125 (25%)	113 (22%)	53 (10%)	68 (13%)	506
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	85 (16%)	101 (19%)	121 (23%)	89 (17%)	54 (10%)	69 (13%)	519
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	78 (15%)	108 (21%)	132 (25%)	90 (17%)	51 (10%)	59 (11%)	518
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	44 (9%)	102 (22%)	130 (28%)	98 (21%)	46 (10%)	52 (11%)	472
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	40 (9%)	76 (17%)	107 (24%)	78 (17%)	58 (13%)	91 (20%)	450
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	78 (15%)	113 (22%)	121 (23%)	93 (18%)	54 (10%)	60 (12%)	519
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあっている	77 (15%)	114 (22%)	124 (24%)	93 (18%)	52 (10%)	59 (11%)	519
⑫ 組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	35 (7%)	71 (15%)	113 (23%)	93 (19%)	65 (13%)	109 (22%)	486
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	25 (5%)	66 (14%)	106 (22%)	97 (20%)	77 (16%)	117 (24%)	488

職種共通_事業種別_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	97 (5%)	326 (16%)	609 (30%)	526 (26%)	255 (13%)	213 (11%)	2026
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	67 (3%)	234 (12%)	533 (27%)	575 (29%)	309 (15%)	287 (14%)	2005
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	122 (6%)	439 (22%)	614 (30%)	491 (24%)	191 (9%)	172 (8%)	2029
④P D C A を意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	98 (5%)	355 (18%)	586 (29%)	539 (27%)	230 (12%)	184 (9%)	1992
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	96 (5%)	328 (16%)	607 (30%)	529 (26%)	249 (12%)	202 (10%)	2011
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	261 (13%)	366 (18%)	513 (25%)	467 (23%)	235 (12%)	195 (10%)	2037
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	221 (11%)	404 (20%)	567 (28%)	467 (23%)	203 (10%)	172 (8%)	2034
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	131 (7%)	359 (19%)	592 (31%)	465 (25%)	195 (10%)	152 (8%)	1894
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	159 (9%)	287 (15%)	479 (26%)	464 (25%)	242 (13%)	228 (12%)	1859
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	248 (12%)	419 (21%)	533 (26%)	459 (23%)	209 (10%)	161 (8%)	2029
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	239 (12%)	438 (22%)	543 (27%)	447 (22%)	213 (10%)	152 (7%)	2032
⑫ 組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	94 (5%)	262 (13%)	484 (25%)	545 (28%)	292 (15%)	285 (15%)	1962
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	81 (4%)	261 (13%)	509 (26%)	554 (28%)	291 (15%)	296 (15%)	1992

職種共通_事業種別_多機能・一体型※重症児除く

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	102 (6%)	289 (18%)	472 (30%)	388 (25%)	153 (10%)	178 (11%)	1582
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	56 (4%)	239 (15%)	403 (26%)	432 (28%)	204 (13%)	228 (15%)	1562
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	123 (8%)	375 (24%)	451 (29%)	358 (23%)	136 (9%)	137 (9%)	1580
④P D C A を意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	111 (7%)	327 (21%)	471 (30%)	369 (24%)	140 (9%)	133 (9%)	1551
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	90 (6%)	310 (20%)	462 (29%)	396 (25%)	147 (9%)	162 (10%)	1567
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	252 (16%)	316 (20%)	366 (23%)	351 (22%)	143 (9%)	156 (10%)	1584
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	221 (14%)	343 (22%)	422 (27%)	333 (21%)	129 (8%)	142 (9%)	1590
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	126 (8%)	330 (22%)	456 (31%)	320 (22%)	122 (8%)	130 (9%)	1484
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	138 (10%)	251 (18%)	367 (26%)	348 (24%)	154 (11%)	163 (11%)	1421
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	242 (15%)	348 (22%)	393 (25%)	324 (20%)	134 (8%)	147 (9%)	1588
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	215 (14%)	369 (23%)	422 (27%)	323 (20%)	119 (8%)	138 (9%)	1586
⑫ 組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	108 (7%)	219 (14%)	360 (23%)	418 (27%)	193 (13%)	243 (16%)	1541
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	92 (6%)	215 (14%)	367 (24%)	439 (28%)	198 (13%)	245 (16%)	1556

【運営法人別】○発達支援

職種共通_運営法人_自治体

発達支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	7 (4%)	20 (13%)	41 (26%)	28 (18%)	26 (17%)	34 (22%)	156
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	5 (5%)	13 (12%)	37 (33%)	15 (14%)	14 (13%)	27 (24%)	111
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	17 (11%)	23 (15%)	37 (25%)	22 (15%)	23 (15%)	27 (18%)	149
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	10 (7%)	25 (17%)	39 (27%)	24 (16%)	21 (14%)	28 (19%)	147
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	7 (5%)	17 (13%)	32 (24%)	20 (15%)	20 (15%)	37 (28%)	133
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	9 (6%)	19 (12%)	38 (25%)	26 (17%)	26 (17%)	35 (23%)	153
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	9 (6%)	19 (12%)	39 (25%)	29 (19%)	27 (18%)	31 (20%)	154
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	8 (5%)	25 (16%)	47 (30%)	25 (16%)	25 (16%)	26 (17%)	156
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	8 (5%)	19 (12%)	47 (30%)	30 (19%)	26 (17%)	27 (17%)	157
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	8 (5%)	21 (14%)	44 (29%)	26 (17%)	27 (18%)	27 (18%)	153
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	6 (4%)	18 (11%)	41 (26%)	32 (20%)	30 (19%)	30 (19%)	157
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	6 (4%)	20 (13%)	38 (24%)	31 (20%)	30 (19%)	31 (20%)	156
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	6 (4%)	17 (11%)	41 (26%)	32 (21%)	29 (19%)	30 (19%)	155
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	6 (4%)	17 (11%)	39 (25%)	33 (21%)	29 (18%)	33 (21%)	157
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	3 (2%)	15 (10%)	30 (19%)	33 (21%)	36 (23%)	37 (24%)	154
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	3 (2%)	15 (11%)	33 (23%)	26 (18%)	24 (17%)	40 (28%)	141
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	9 (6%)	19 (13%)	31 (21%)	25 (17%)	25 (17%)	38 (26%)	147
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	11 (7%)	17 (11%)	41 (27%)	28 (18%)	29 (19%)	28 (18%)	154
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	12 (8%)	19 (13%)	38 (25%)	29 (19%)	26 (17%)	28 (18%)	152
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	4 (4%)	14 (13%)	30 (27%)	22 (20%)	13 (12%)	27 (25%)	110
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	3 (4%)	9 (11%)	16 (19%)	21 (25%)	9 (11%)	27 (32%)	85
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	3 (4%)	6 (8%)	14 (18%)	18 (23%)	13 (16%)	25 (32%)	79
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	3 (4%)	8 (10%)	19 (23%)	19 (23%)	11 (13%)	22 (27%)	82
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	3 (4%)	8 (12%)	17 (25%)	16 (23%)	6 (9%)	19 (28%)	69
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリポートメント（虐待等）】	3 (3%)	16 (15%)	24 (23%)	19 (18%)	18 (17%)	25 (24%)	105

職種共通_運営法人_社会福祉法人

発達支援	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	54	(6%)	142	(17%)	251	(30%)	161	(19%)	103	(12%)	121	(15%)	832
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	38	(6%)	108	(17%)	214	(34%)	135	(21%)	67	(11%)	75	(12%)	637
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	111	(14%)	178	(22%)	218	(27%)	149	(18%)	77	(9%)	86	(11%)	819
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	74	(9%)	176	(22%)	260	(32%)	149	(18%)	70	(9%)	80	(10%)	809
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	38	(6%)	104	(16%)	208	(32%)	151	(23%)	72	(11%)	86	(13%)	659
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	55	(7%)	136	(17%)	255	(31%)	181	(22%)	86	(11%)	99	(12%)	812
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	56	(7%)	162	(20%)	258	(33%)	156	(20%)	86	(11%)	75	(9%)	793
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	60	(7%)	179	(22%)	265	(32%)	171	(21%)	73	(9%)	80	(10%)	828
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	57	(7%)	162	(20%)	260	(31%)	189	(23%)	81	(10%)	79	(10%)	828
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	50	(6%)	171	(21%)	269	(33%)	176	(21%)	83	(10%)	72	(9%)	821
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	34	(4%)	135	(17%)	248	(30%)	209	(26%)	94	(11%)	98	(12%)	818
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	29	(4%)	136	(17%)	238	(29%)	213	(26%)	97	(12%)	106	(13%)	819
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	38	(5%)	148	(18%)	252	(31%)	204	(25%)	102	(12%)	81	(10%)	825
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	33	(4%)	121	(15%)	237	(29%)	205	(25%)	109	(13%)	107	(13%)	812
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	18	(2%)	101	(13%)	198	(25%)	223	(28%)	125	(16%)	136	(17%)	801
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	25	(3%)	90	(12%)	213	(28%)	197	(26%)	118	(15%)	119	(16%)	762
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	59	(7%)	151	(19%)	231	(29%)	172	(21%)	92	(11%)	96	(12%)	801
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	45	(6%)	146	(19%)	265	(34%)	178	(23%)	76	(10%)	70	(9%)	780
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	58	(7%)	178	(22%)	259	(32%)	167	(21%)	73	(9%)	70	(9%)	805
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	26	(5%)	95	(20%)	150	(31%)	105	(22%)	46	(10%)	59	(12%)	481
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	14	(4%)	48	(15%)	89	(27%)	84	(26%)	33	(10%)	56	(17%)	324
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	13	(5%)	30	(11%)	78	(29%)	68	(26%)	33	(12%)	44	(17%)	266
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	21	(7%)	58	(19%)	99	(33%)	59	(20%)	26	(9%)	36	(12%)	299
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	15	(6%)	44	(18%)	71	(30%)	56	(23%)	22	(9%)	31	(13%)	239
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリポートメント（虐待等）】	23	(5%)	61	(13%)	131	(27%)	113	(24%)	64	(13%)	86	(18%)	478

職種共通_運営法人_株式会社

発達支援	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	159	(8%)	406	(20%)	612	(30%)	493	(24%)	226	(11%)	171	(8%)	2067
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	77	(6%)	241	(20%)	380	(32%)	289	(24%)	112	(9%)	90	(8%)	1189
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	275	(14%)	478	(24%)	583	(29%)	428	(21%)	139	(7%)	122	(6%)	2025
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	227	(12%)	458	(24%)	578	(30%)	412	(21%)	136	(7%)	113	(6%)	1924
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	157	(10%)	358	(22%)	521	(32%)	355	(22%)	111	(7%)	109	(7%)	1611
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	197	(10%)	451	(22%)	666	(33%)	452	(22%)	150	(7%)	127	(6%)	2043
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	219	(11%)	448	(23%)	637	(32%)	420	(21%)	137	(7%)	117	(6%)	1978
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	243	(12%)	481	(23%)	646	(31%)	452	(22%)	145	(7%)	115	(6%)	2082
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	204	(10%)	494	(24%)	671	(32%)	453	(22%)	141	(7%)	121	(6%)	2084
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	220	(11%)	494	(24%)	658	(32%)	438	(21%)	136	(7%)	118	(6%)	2064
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	160	(8%)	425	(21%)	687	(33%)	499	(24%)	159	(8%)	140	(7%)	2070
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	157	(8%)	417	(20%)	691	(33%)	499	(24%)	168	(8%)	143	(7%)	2075
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	168	(8%)	442	(21%)	695	(33%)	501	(24%)	154	(7%)	128	(6%)	2088
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	141	(7%)	408	(20%)	679	(33%)	510	(25%)	166	(8%)	149	(7%)	2053
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	104	(5%)	337	(17%)	666	(33%)	524	(26%)	203	(10%)	167	(8%)	2001
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	112	(6%)	336	(18%)	657	(34%)	485	(25%)	177	(9%)	147	(8%)	1914
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	165	(9%)	386	(20%)	585	(31%)	457	(24%)	156	(8%)	149	(8%)	1898
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	192	(9%)	498	(24%)	676	(33%)	450	(22%)	132	(6%)	114	(6%)	2062
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	202	(10%)	490	(24%)	655	(32%)	439	(22%)	132	(6%)	114	(6%)	2032
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	93	(10%)	210	(22%)	292	(30%)	233	(24%)	79	(8%)	63	(6%)	970
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	45	(8%)	95	(17%)	180	(32%)	139	(25%)	51	(9%)	45	(8%)	555
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	46	(11%)	78	(18%)	125	(29%)	106	(25%)	38	(9%)	39	(9%)	432
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	69	(10%)	165	(25%)	192	(29%)	166	(25%)	46	(7%)	31	(5%)	669
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	59	(11%)	119	(23%)	148	(29%)	129	(25%)	38	(7%)	22	(4%)	515
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリポートメント（虐待等）】	90	(8%)	214	(18%)	365	(31%)	293	(25%)	119	(10%)	94	(8%)	1175

職種共通_運営法人_NPO法人

発達支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	24 (4%)	91 (15%)	159 (26%)	146 (24%)	88 (14%)	99 (16%)	607
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	12 (3%)	76 (19%)	111 (28%)	98 (24%)	44 (11%)	61 (15%)	402
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	58 (10%)	115 (19%)	160 (27%)	130 (22%)	60 (10%)	73 (12%)	596
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	43 (7%)	112 (19%)	165 (29%)	131 (23%)	58 (10%)	67 (12%)	576
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	17 (4%)	79 (17%)	128 (28%)	110 (24%)	59 (13%)	71 (15%)	464
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	29 (5%)	100 (17%)	176 (29%)	147 (25%)	67 (11%)	79 (13%)	598
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	36 (6%)	104 (18%)	173 (30%)	125 (22%)	70 (12%)	73 (13%)	581
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	36 (6%)	117 (19%)	175 (29%)	140 (23%)	68 (11%)	73 (12%)	609
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	30 (5%)	111 (18%)	182 (30%)	135 (22%)	72 (12%)	78 (13%)	608
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	31 (5%)	116 (19%)	180 (30%)	139 (23%)	62 (10%)	76 (13%)	604
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	20 (3%)	80 (13%)	182 (30%)	151 (25%)	81 (13%)	89 (15%)	603
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	17 (3%)	76 (13%)	174 (29%)	165 (27%)	82 (14%)	91 (15%)	605
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	23 (4%)	83 (14%)	188 (31%)	158 (26%)	79 (13%)	78 (13%)	609
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	19 (3%)	78 (13%)	167 (28%)	161 (27%)	83 (14%)	92 (15%)	600
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	14 (2%)	54 (9%)	163 (27%)	159 (27%)	91 (15%)	116 (19%)	597
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	17 (3%)	50 (9%)	154 (27%)	154 (27%)	87 (15%)	101 (18%)	563
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	33 (6%)	105 (18%)	156 (27%)	120 (21%)	77 (13%)	84 (15%)	575
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	32 (5%)	104 (18%)	179 (30%)	137 (23%)	63 (11%)	76 (13%)	591
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	36 (6%)	125 (21%)	174 (29%)	121 (20%)	60 (10%)	78 (13%)	594
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	19 (6%)	69 (20%)	87 (25%)	76 (22%)	39 (11%)	52 (15%)	342
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	8 (4%)	36 (16%)	53 (24%)	54 (24%)	30 (14%)	41 (18%)	222
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	7 (4%)	33 (20%)	42 (26%)	38 (23%)	14 (9%)	28 (17%)	162
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	15 (7%)	39 (19%)	51 (25%)	42 (21%)	22 (11%)	35 (17%)	204
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	13 (8%)	32 (20%)	38 (23%)	37 (23%)	19 (12%)	25 (15%)	164
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリートメント（虐待等）】	22 (7%)	39 (12%)	81 (25%)	74 (22%)	45 (14%)	69 (21%)	330

職種共通_運営法人_合同会社

発達支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	24 (5%)	77 (17%)	135 (30%)	107 (24%)	49 (11%)	54 (12%)	446
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	16 (6%)	50 (18%)	89 (32%)	64 (23%)	27 (10%)	31 (11%)	277
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	38 (9%)	100 (23%)	121 (28%)	102 (23%)	33 (8%)	42 (10%)	436
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	33 (8%)	94 (22%)	126 (29%)	102 (24%)	33 (8%)	40 (9%)	428
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	16 (5%)	75 (22%)	111 (32%)	83 (24%)	29 (8%)	31 (9%)	345
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	22 (5%)	79 (18%)	139 (31%)	118 (27%)	40 (9%)	44 (10%)	442
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	26 (6%)	82 (19%)	135 (32%)	109 (26%)	35 (8%)	35 (8%)	422
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	23 (5%)	99 (22%)	140 (31%)	113 (25%)	37 (8%)	38 (8%)	450
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	21 (5%)	98 (22%)	144 (32%)	112 (25%)	41 (9%)	36 (8%)	452
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	23 (5%)	99 (22%)	143 (32%)	109 (24%)	35 (8%)	40 (9%)	449
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	18 (4%)	73 (16%)	155 (35%)	121 (27%)	36 (8%)	45 (10%)	448
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	18 (4%)	72 (16%)	146 (32%)	130 (29%)	41 (9%)	43 (10%)	450
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	17 (4%)	77 (17%)	146 (32%)	128 (28%)	40 (9%)	44 (10%)	452
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	13 (3%)	76 (17%)	150 (34%)	119 (27%)	40 (9%)	48 (11%)	446
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	15 (3%)	54 (12%)	138 (32%)	132 (30%)	50 (11%)	46 (11%)	435
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	17 (4%)	55 (13%)	139 (33%)	114 (27%)	47 (11%)	47 (11%)	419
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	24 (6%)	68 (17%)	127 (31%)	112 (27%)	35 (8%)	46 (11%)	412
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	24 (5%)	95 (21%)	148 (33%)	112 (25%)	30 (7%)	38 (9%)	447
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	28 (6%)	95 (21%)	149 (33%)	106 (24%)	30 (7%)	37 (8%)	445
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	8 (4%)	51 (23%)	53 (24%)	71 (33%)	16 (7%)	19 (9%)	218
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	10 (7%)	23 (16%)	42 (29%)	48 (33%)	8 (6%)	14 (10%)	145
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	12 (11%)	16 (15%)	29 (27%)	32 (29%)	4 (4%)	16 (15%)	109
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	14 (9%)	29 (19%)	42 (28%)	39 (26%)	12 (8%)	14 (9%)	150
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	14 (11%)	24 (19%)	35 (28%)	36 (29%)	7 (6%)	10 (8%)	126
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリートメント（虐待等）】	15 (6%)	42 (16%)	81 (31%)	73 (28%)	29 (11%)	24 (9%)	264

職種共通_運営法人_一般社団法人

発達支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①個別支援計画の作成を児童発達支援管理責任者に提案・協力し、計画に沿った支援を適切に行っている	20 (6%)	80 (23%)	83 (24%)	73 (21%)	47 (14%)	45 (13%)	348
②食育のねらいを理解し、健康状態、発育・発達段階に応じた食事内容、食物形態、偏食指導などを工夫して適切に支援している	12 (6%)	50 (23%)	66 (31%)	47 (22%)	15 (7%)	25 (12%)	215
③日々の心身の健康状態（発熱等）を把握し、健康状態のチェック（視診）と必要な対応を行っている	34 (10%)	92 (27%)	97 (28%)	62 (18%)	27 (8%)	30 (9%)	342
④睡眠、食事、排泄、着脱、清潔などの基本的な生活スキルを獲得できるよう個々に応じて適切に支援している	21 (6%)	95 (28%)	96 (28%)	68 (20%)	25 (7%)	33 (10%)	338
⑤日常生活に必要な姿勢保持や上下肢の運動、動作の改善、関節の拘縮変形予防、筋力の維持・強化等に対して適切な方法で支援している	18 (7%)	66 (25%)	75 (29%)	58 (22%)	16 (6%)	27 (10%)	260
⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さに対する適切な支援を行っている	19 (5%)	86 (25%)	102 (29%)	73 (21%)	27 (8%)	39 (11%)	346
⑦指差し、身振り、サインなどを用いて意志の伝達ができるよう、話し言葉や文字、絵、写真などを用いて受容し表出する支援を適切に行っている	24 (7%)	88 (26%)	95 (28%)	70 (21%)	23 (7%)	36 (11%)	336
⑧子どもが周囲の大人や子どもと安定した関係を形成するために適切に支援している	26 (7%)	95 (27%)	99 (28%)	68 (19%)	26 (7%)	35 (10%)	349
⑨子どもの遊びの発達を理解し、発達段階や興味関心に応じて適切な方法を工夫して支援している	23 (7%)	90 (26%)	106 (30%)	71 (20%)	25 (7%)	34 (10%)	349
⑩集団活動に参加するための手順やルールを分かりやすくする工夫をして適切に支援をしている	20 (6%)	98 (28%)	99 (29%)	71 (21%)	24 (7%)	34 (10%)	346
⑪子どもの行動の課題（多動・他害・自傷等を含む）の原因を理解して、適切な方法で支援をしている	14 (4%)	84 (24%)	103 (30%)	77 (22%)	25 (7%)	41 (12%)	344
⑫子どもの困り感に対して、環境や人との関係性との相互作用、発達段階及び発達特性を捉えて適切に支援を行っている	16 (5%)	82 (24%)	108 (31%)	79 (23%)	29 (8%)	33 (10%)	347
⑬子どもの行動や特徴を理解して、気持ちや情動のコントロールができるように適切な支援している	15 (4%)	85 (25%)	113 (33%)	71 (21%)	29 (8%)	33 (10%)	346
⑭子ども理解のための各年齢やライフステージでの標準的な発達を理解している	14 (4%)	76 (22%)	112 (32%)	77 (22%)	24 (7%)	43 (12%)	346
⑮移行期（幼児期から小学校、小学校から中学校、就労など）の環境変化の不安や期待・課題等を捉え、連携も含めた適切な支援をしている	11 (3%)	66 (19%)	96 (28%)	81 (24%)	35 (10%)	51 (15%)	340
⑯子どもの心理的課題・メンタルヘルス（摂食障害等の心身症、睡眠障害、自傷、情緒不安定、反抗挑発等）を理解し、適切に支援している	11 (3%)	65 (21%)	92 (29%)	76 (24%)	28 (9%)	43 (14%)	315
⑰服薬やアレルギー、てんかん発作等のこどもの健康等に関する状況を把握している	21 (7%)	72 (23%)	84 (27%)	69 (22%)	30 (9%)	40 (13%)	316
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD）】	19 (6%)	92 (27%)	97 (29%)	76 (22%)	22 (6%)	34 (10%)	340
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【知的障害】	22 (6%)	95 (28%)	98 (28%)	72 (21%)	23 (7%)	34 (10%)	344
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【肢体不自由】	13 (8%)	40 (24%)	51 (30%)	32 (19%)	11 (7%)	21 (13%)	168
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【重症心身障害】	12 (12%)	18 (17%)	33 (32%)	22 (21%)	7 (7%)	12 (12%)	104
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【医療的ケア】	6 (8%)	15 (19%)	24 (30%)	21 (27%)	3 (4%)	10 (13%)	79
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【聴覚障害】	18 (14%)	27 (21%)	27 (21%)	28 (22%)	10 (8%)	18 (14%)	128
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【視覚障害】	14 (15%)	23 (25%)	23 (25%)	21 (23%)	3 (3%)	9 (10%)	93
⑱理解し適切な配慮と支援をしている【マルチリートメント（虐待等）】	5 (3%)	42 (22%)	52 (28%)	43 (23%)	15 (8%)	32 (17%)	189

○家族支援

職種共通_運営法人_自治体

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	11 (7%)	25 (17%)	37 (25%)	22 (15%)	27 (18%)	26 (18%)	148
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	9 (6%)	13 (9%)	34 (24%)	24 (17%)	25 (17%)	38 (27%)	143
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	4 (3%)	13 (8%)	30 (19%)	31 (20%)	33 (21%)	43 (28%)	154
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	3 (2%)	15 (10%)	33 (21%)	33 (21%)	29 (18%)	44 (28%)	157
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	4 (3%)	14 (9%)	31 (20%)	34 (22%)	29 (19%)	43 (28%)	155
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	2 (2%)	7 (6%)	21 (19%)	19 (17%)	23 (21%)	38 (35%)	110
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	2 (1%)	13 (10%)	26 (19%)	24 (18%)	31 (23%)	40 (29%)	136

職種共通_運営法人_社会福祉法人

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	90 (11%)	196 (24%)	232 (29%)	130 (16%)	71 (9%)	93 (11%)	812
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	32 (4%)	105 (14%)	212 (28%)	169 (23%)	95 (13%)	134 (18%)	747
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	17 (2%)	53 (7%)	185 (23%)	208 (26%)	140 (18%)	188 (24%)	791
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	19 (2%)	83 (10%)	197 (24%)	219 (27%)	132 (16%)	167 (20%)	817
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	10 (1%)	49 (6%)	164 (21%)	214 (28%)	146 (19%)	187 (24%)	770
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	7 (1%)	25 (5%)	116 (22%)	120 (23%)	110 (21%)	140 (27%)	518
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	16 (2%)	51 (7%)	155 (22%)	167 (24%)	129 (19%)	178 (26%)	696

職種共通_運営法人_株式会社

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	225 (11%)	510 (26%)	566 (28%)	431 (22%)	150 (8%)	110 (6%)	1992
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	121 (6%)	407 (21%)	573 (30%)	484 (25%)	181 (9%)	147 (8%)	1913
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	72 (4%)	313 (16%)	593 (30%)	556 (28%)	238 (12%)	195 (10%)	1967
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	96 (5%)	346 (17%)	600 (29%)	571 (28%)	246 (12%)	201 (10%)	2060
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	59 (3%)	260 (14%)	564 (29%)	572 (30%)	260 (14%)	210 (11%)	1925
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	47 (3%)	206 (14%)	400 (28%)	424 (30%)	177 (12%)	169 (12%)	1423
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	92 (5%)	276 (15%)	538 (29%)	514 (28%)	214 (12%)	193 (11%)	1827

職種共通_運営法人_NPO法人

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	49 (8%)	110 (19%)	152 (26%)	129 (22%)	67 (11%)	86 (15%)	593
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	19 (3%)	67 (12%)	140 (24%)	149 (26%)	96 (17%)	102 (18%)	573
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	9 (2%)	46 (8%)	120 (20%)	161 (27%)	107 (18%)	144 (25%)	587
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	13 (2%)	41 (7%)	143 (24%)	157 (26%)	111 (18%)	137 (23%)	602
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	8 (1%)	31 (6%)	106 (19%)	149 (27%)	114 (20%)	149 (27%)	557
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	4 (1%)	26 (6%)	78 (19%)	109 (27%)	86 (21%)	100 (25%)	403
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	11 (2%)	45 (9%)	103 (20%)	147 (28%)	90 (17%)	122 (24%)	518

職種共通_運営法人_合同会社

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	36 (8%)	95 (22%)	128 (29%)	110 (25%)	32 (7%)	37 (8%)	438
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	12 (3%)	80 (19%)	121 (29%)	113 (27%)	38 (9%)	53 (13%)	417
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	12 (3%)	49 (11%)	112 (26%)	139 (32%)	55 (13%)	67 (15%)	434
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	13 (3%)	50 (11%)	122 (27%)	141 (31%)	54 (12%)	71 (16%)	451
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	10 (2%)	42 (10%)	110 (26%)	135 (32%)	56 (13%)	73 (17%)	426
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	7 (2%)	35 (11%)	83 (26%)	94 (30%)	37 (12%)	58 (18%)	314
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	11 (3%)	45 (12%)	116 (30%)	116 (30%)	47 (12%)	55 (14%)	390

職種共通_運営法人_一般社団法人

家族支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①クラスだより等を発行したり連絡帳を通して適切に情報を発信している	30 (9%)	87 (26%)	90 (27%)	72 (21%)	27 (8%)	30 (9%)	336
②事業所だより等の中で事務連絡にとどまらず子どもの発達の見方や発達等について適切に情報を発信している	13 (4%)	68 (21%)	94 (30%)	72 (23%)	31 (10%)	39 (12%)	317
③家族が子育てをするための必要な情報提供（福祉制度等を含む）を適切に行っている	10 (3%)	51 (16%)	94 (29%)	81 (25%)	41 (13%)	51 (16%)	328
④保護者の思いと悩みを共有し、適切に心理的サポートを行っている	6 (2%)	54 (16%)	97 (28%)	83 (24%)	44 (13%)	61 (18%)	345
⑤移行期において保護者が移行先を適切に選択できるよう適切な支援を行っている	4 (1%)	37 (12%)	88 (28%)	84 (26%)	45 (14%)	62 (19%)	320
⑥家族支援プログラム（例:ペアレントトレーニング）を適切に行っている	2 (1%)	31 (13%)	67 (28%)	65 (27%)	32 (13%)	46 (19%)	243
⑦虐待のリスクのアセスメントをし、適切な対応をしている	5 (2%)	50 (17%)	70 (24%)	75 (25%)	36 (12%)	59 (20%)	295

○地域支援

職種共通_運営法人_自治体

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	6 (4%)	16 (10%)	39 (25%)	27 (18%)	28 (18%)	37 (24%)	153
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	4 (3%)	9 (6%)	34 (22%)	25 (16%)	33 (22%)	48 (31%)	153
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	4 (3%)	13 (8%)	37 (24%)	25 (16%)	34 (22%)	42 (27%)	155
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	1 (1%)	6 (5%)	25 (22%)	14 (12%)	21 (18%)	48 (42%)	115
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	2 (2%)	5 (4%)	12 (10%)	22 (18%)	24 (20%)	57 (47%)	122
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	3 (2%)	13 (10%)	19 (15%)	16 (12%)	20 (16%)	58 (45%)	129

職種共通_運営法人_社会福祉法人

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	14 (2%)	76 (10%)	190 (24%)	211 (26%)	138 (17%)	171 (21%)	800
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	8 (1%)	48 (6%)	142 (18%)	202 (26%)	160 (20%)	230 (29%)	790
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	9 (1%)	45 (6%)	170 (22%)	205 (27%)	146 (19%)	189 (25%)	764
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	4 (1%)	20 (5%)	75 (19%)	96 (24%)	73 (18%)	136 (34%)	404
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	3 (1%)	14 (3%)	53 (13%)	100 (24%)	86 (20%)	165 (39%)	421
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	7 (1%)	30 (5%)	81 (14%)	116 (20%)	115 (20%)	239 (41%)	588

職種共通_運営法人_株式会社

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	90 (5%)	325 (16%)	600 (30%)	553 (28%)	231 (12%)	197 (10%)	1996
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	66 (3%)	248 (12%)	569 (29%)	594 (30%)	281 (14%)	231 (12%)	1989
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	65 (3%)	244 (13%)	550 (29%)	557 (30%)	253 (14%)	205 (11%)	1874
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	35 (4%)	143 (14%)	268 (27%)	298 (30%)	131 (13%)	124 (12%)	999
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	31 (3%)	123 (12%)	269 (26%)	318 (31%)	149 (14%)	146 (14%)	1036
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	51 (4%)	168 (12%)	360 (26%)	404 (30%)	203 (15%)	175 (13%)	1361

職種共通_運営法人_NPO法人

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	14 (2%)	43 (7%)	127 (22%)	155 (27%)	103 (18%)	140 (24%)	582
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	10 (2%)	37 (6%)	91 (15%)	156 (27%)	124 (21%)	170 (29%)	588
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	7 (1%)	38 (7%)	99 (18%)	148 (27%)	108 (20%)	144 (26%)	544
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	5 (2%)	20 (7%)	42 (15%)	66 (24%)	58 (21%)	89 (32%)	280
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	4 (1%)	20 (7%)	34 (12%)	60 (21%)	62 (22%)	100 (36%)	280
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	4 (1%)	24 (6%)	67 (15%)	109 (25%)	85 (20%)	144 (33%)	433

職種共通_運営法人_合同会社

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	19 (4%)	66 (15%)	105 (24%)	132 (30%)	51 (12%)	66 (15%)	439
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	10 (2%)	42 (10%)	105 (24%)	141 (32%)	58 (13%)	81 (19%)	437
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	13 (3%)	39 (9%)	115 (28%)	124 (30%)	55 (13%)	70 (17%)	416
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	7 (3%)	16 (8%)	44 (22%)	74 (36%)	24 (12%)	38 (19%)	203
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	7 (3%)	16 (7%)	48 (21%)	76 (33%)	31 (13%)	54 (23%)	232
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	9 (3%)	30 (10%)	61 (20%)	100 (33%)	42 (14%)	58 (19%)	300

職種共通_運営法人_一般社団法人

地域支援	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①担当しているお子さんが在籍している機関（保育所・幼稚園・学校・放課後児童クラブ等）と適切に連携をしている	14 (4%)	53 (16%)	85 (25%)	86 (26%)	41 (12%)	56 (17%)	335
②関係機関（行政・医療・保健所・児童相談所等）と適切に連携をしている	3 (1%)	50 (15%)	77 (24%)	90 (28%)	47 (14%)	58 (18%)	325
③移行先（保育所・幼稚園・学校・就労先等）への具体的な調整や情報の共有を適切に行っている	2 (1%)	42 (14%)	76 (25%)	88 (29%)	44 (14%)	55 (18%)	307
④保育所等訪問支援・地域療育支援事業など制度面での役割を担っている	1 (1%)	18 (12%)	32 (22%)	42 (28%)	13 (9%)	42 (28%)	148
⑤地域の機関（他事業所や保育所等）へ訪問して適切にスーパーバイズしている	1 (1%)	20 (12%)	38 (24%)	46 (29%)	15 (9%)	41 (25%)	161
⑥自立支援協議会や子ども部会、要保護児童対策協議会等へ参加している	6 (2%)	29 (12%)	58 (23%)	80 (32%)	29 (12%)	47 (19%)	249

○事業運営

職種共通 運営法人_自治体

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	7 (5%)	20 (13%)	33 (21%)	32 (21%)	27 (17%)	36 (23%)	155
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	4 (3%)	10 (6%)	29 (19%)	25 (16%)	30 (19%)	57 (37%)	155
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	10 (6%)	18 (12%)	41 (26%)	30 (19%)	29 (19%)	28 (18%)	156
④P D C Aを意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	7 (5%)	14 (9%)	42 (28%)	30 (20%)	31 (20%)	28 (18%)	152
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	8 (5%)	20 (13%)	37 (24%)	29 (19%)	30 (19%)	31 (20%)	155
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	24 (15%)	25 (16%)	30 (19%)	21 (13%)	28 (18%)	29 (18%)	157
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	17 (11%)	21 (13%)	36 (23%)	26 (17%)	27 (17%)	29 (19%)	156
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	10 (7%)	21 (14%)	31 (21%)	30 (20%)	28 (19%)	30 (20%)	150
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	8 (6%)	13 (10%)	27 (20%)	16 (12%)	18 (14%)	51 (38%)	133
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	18 (11%)	23 (15%)	34 (22%)	28 (18%)	23 (15%)	31 (20%)	157
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	15 (10%)	24 (15%)	34 (22%)	25 (16%)	27 (17%)	31 (20%)	156
⑫組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	9 (6%)	12 (8%)	27 (18%)	23 (16%)	22 (15%)	55 (37%)	148
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	10 (7%)	12 (8%)	26 (18%)	23 (16%)	21 (14%)	54 (37%)	146

職種共通_運営法人_社会福祉法人

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	28 (3%)	116 (14%)	238 (29%)	199 (24%)	100 (12%)	144 (17%)	825
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	19 (2%)	58 (7%)	172 (21%)	198 (24%)	137 (17%)	229 (28%)	813
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	38 (5%)	167 (20%)	246 (30%)	190 (23%)	85 (10%)	100 (12%)	826
④P D C A を意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	33 (4%)	123 (15%)	231 (29%)	211 (26%)	99 (12%)	110 (14%)	807
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	39 (5%)	143 (18%)	243 (30%)	186 (23%)	97 (12%)	109 (13%)	817
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	139 (17%)	161 (19%)	181 (22%)	151 (18%)	84 (10%)	116 (14%)	832
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	80 (10%)	186 (22%)	215 (26%)	161 (19%)	85 (10%)	104 (13%)	831
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	37 (5%)	123 (16%)	251 (32%)	186 (24%)	98 (12%)	91 (12%)	786
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	47 (6%)	93 (12%)	170 (22%)	147 (19%)	118 (15%)	192 (25%)	767
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	93 (11%)	173 (21%)	204 (24%)	154 (18%)	93 (11%)	117 (14%)	834
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	86 (10%)	175 (21%)	225 (27%)	162 (19%)	80 (10%)	104 (13%)	832
⑫組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	22 (3%)	80 (10%)	144 (19%)	174 (22%)	138 (18%)	217 (28%)	775
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	16 (2%)	72 (9%)	139 (18%)	176 (22%)	146 (18%)	242 (31%)	791

職種共通_運営法人_株式会社

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	150 (7%)	403 (19%)	654 (31%)	499 (24%)	219 (11%)	156 (7%)	2081
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	92 (4%)	336 (16%)	589 (29%)	576 (28%)	256 (12%)	205 (10%)	2054
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	189 (9%)	521 (25%)	618 (30%)	474 (23%)	153 (7%)	119 (6%)	2074
④P D C A を意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	166 (8%)	441 (22%)	616 (30%)	509 (25%)	186 (9%)	128 (6%)	2046
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	135 (7%)	415 (20%)	626 (30%)	543 (26%)	188 (9%)	153 (7%)	2060
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	309 (15%)	425 (20%)	529 (25%)	489 (23%)	192 (9%)	143 (7%)	2087
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	291 (14%)	448 (21%)	593 (28%)	467 (22%)	167 (8%)	123 (6%)	2089
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	181 (9%)	451 (23%)	614 (31%)	444 (23%)	148 (8%)	114 (6%)	1952
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	179 (10%)	357 (19%)	519 (28%)	478 (25%)	189 (10%)	157 (8%)	1879
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	308 (15%)	456 (22%)	559 (27%)	453 (22%)	178 (9%)	129 (6%)	2083
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	292 (14%)	482 (23%)	580 (28%)	446 (21%)	168 (8%)	113 (5%)	2081
⑫組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	145 (7%)	337 (17%)	534 (27%)	554 (28%)	244 (12%)	193 (10%)	2007
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	121 (6%)	319 (16%)	561 (28%)	574 (28%)	252 (12%)	208 (10%)	2035

職種共通_運営法人_NPO法人

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	24 (4%)	86 (14%)	152 (25%)	154 (25%)	84 (14%)	108 (18%)	608
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	20 (3%)	55 (9%)	122 (20%)	158 (26%)	106 (18%)	142 (24%)	603
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	26 (4%)	98 (16%)	167 (28%)	146 (24%)	78 (13%)	87 (14%)	602
④P D C A を意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	27 (5%)	90 (15%)	143 (24%)	157 (27%)	82 (14%)	85 (15%)	584
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	19 (3%)	82 (13%)	157 (26%)	157 (26%)	96 (16%)	98 (16%)	609
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	84 (14%)	94 (15%)	133 (22%)	133 (22%)	74 (12%)	93 (15%)	611
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	75 (12%)	97 (16%)	151 (25%)	134 (22%)	67 (11%)	85 (14%)	609
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	37 (7%)	101 (18%)	149 (26%)	133 (24%)	74 (13%)	70 (12%)	564
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	48 (9%)	67 (12%)	117 (21%)	128 (23%)	92 (16%)	109 (19%)	561
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	84 (14%)	109 (18%)	132 (22%)	123 (20%)	78 (13%)	82 (13%)	608
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	80 (13%)	113 (18%)	135 (22%)	128 (21%)	78 (13%)	78 (13%)	612
⑫ 組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	22 (4%)	53 (9%)	116 (19%)	148 (25%)	101 (17%)	159 (27%)	599
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	20 (3%)	49 (8%)	117 (19%)	163 (27%)	105 (17%)	147 (24%)	601

職種共通_運営法人_合同会社

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	22 (5%)	72 (16%)	135 (30%)	125 (28%)	43 (10%)	54 (12%)	451
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	12 (3%)	49 (11%)	133 (30%)	132 (29%)	55 (12%)	68 (15%)	449
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	22 (5%)	93 (21%)	140 (31%)	116 (26%)	37 (8%)	42 (9%)	450
④P D C A を意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	20 (4%)	80 (18%)	151 (34%)	112 (25%)	39 (9%)	44 (10%)	446
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	22 (5%)	73 (16%)	132 (30%)	127 (28%)	40 (9%)	52 (12%)	446
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	45 (10%)	73 (16%)	124 (27%)	112 (25%)	48 (11%)	52 (11%)	454
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	39 (9%)	93 (21%)	134 (30%)	104 (23%)	38 (8%)	45 (10%)	453
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	26 (6%)	80 (19%)	146 (35%)	101 (24%)	28 (7%)	41 (10%)	422
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	31 (8%)	66 (17%)	126 (32%)	96 (24%)	41 (10%)	39 (10%)	399
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	47 (10%)	100 (22%)	128 (28%)	107 (24%)	28 (6%)	41 (9%)	451
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	47 (10%)	99 (22%)	133 (29%)	103 (23%)	33 (7%)	39 (9%)	454
⑫ 組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	23 (5%)	50 (11%)	136 (30%)	123 (28%)	48 (11%)	67 (15%)	447
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	18 (4%)	63 (14%)	122 (27%)	129 (29%)	51 (11%)	67 (15%)	450

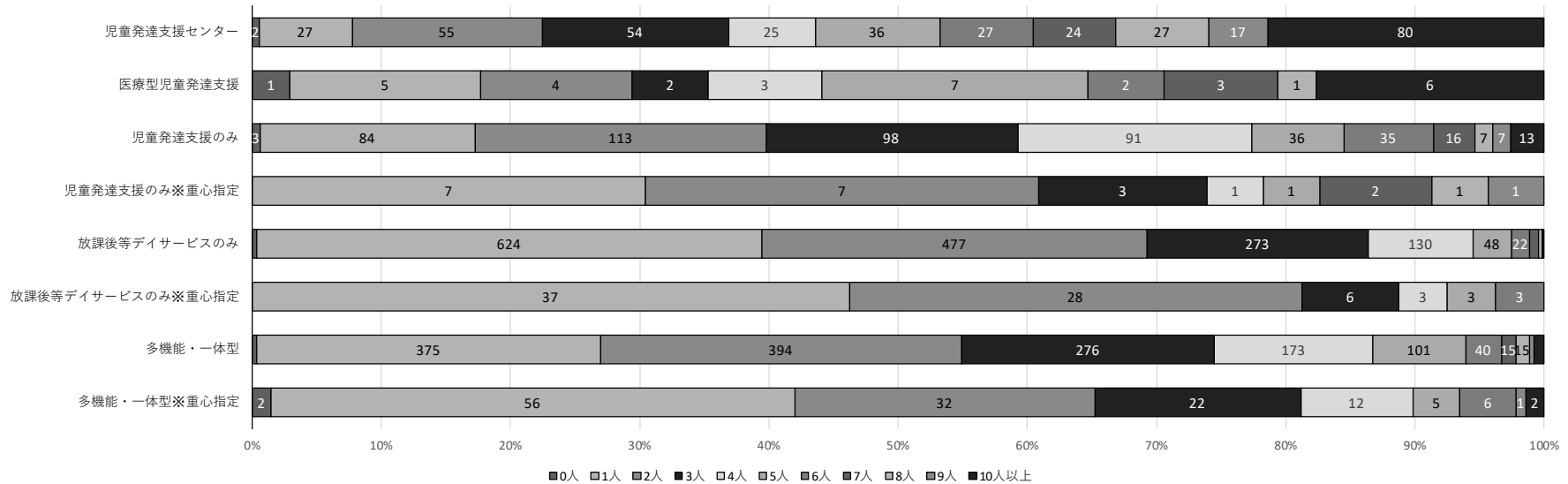
職種共通 運営法人_一般社団法人

事業運営	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①障害特性を踏まえた安心安全な環境改善を適切に行っている	21 (6%)	71 (20%)	94 (27%)	78 (22%)	39 (11%)	46 (13%)	349
②ガイドラインに基づいた事業所全体による自己評価等において、課題等の抽出や、改善の提案を適切に行っている	5 (1%)	69 (20%)	78 (22%)	91 (26%)	44 (13%)	60 (17%)	347
③タイムテーブルや活動プログラムの立案をしている	20 (6%)	90 (26%)	91 (26%)	77 (22%)	30 (9%)	44 (13%)	352
④PDCAを意識して発達を支援し、かつ記録に反映している	23 (7%)	81 (24%)	93 (27%)	79 (23%)	27 (8%)	39 (11%)	342
⑤モニタリングをし、個別支援計画の変更や終結を児童発達支援管理責任者に提案・協力している	22 (6%)	71 (21%)	95 (28%)	77 (22%)	38 (11%)	42 (12%)	345
⑥個人情報などの秘密保持の取り扱いを適切に行っている	56 (16%)	76 (22%)	74 (21%)	68 (19%)	37 (11%)	39 (11%)	350
⑦事故防止及び健康、安全管理に関する重要性を理解して、自ら実践している	50 (14%)	88 (25%)	80 (23%)	68 (19%)	30 (9%)	35 (10%)	351
⑧支援の現場において多職種連携によるチームアプローチで、自らの役割を意識して参加ができる	25 (8%)	88 (27%)	84 (26%)	73 (22%)	24 (7%)	32 (10%)	326
⑨所属組織内の委員会等（虐待防止委員会、コンプライアンス委員会、倫理委員会等）に参加している	32 (10%)	55 (17%)	85 (27%)	76 (24%)	32 (10%)	40 (13%)	320
⑩職場のルール及び職場倫理を理解して適切な支援を行っている	52 (15%)	84 (24%)	79 (23%)	67 (19%)	29 (8%)	37 (11%)	348
⑪組織における役割とチームワークを理解して適切に業務にあたっている	44 (13%)	94 (27%)	81 (23%)	69 (20%)	29 (8%)	33 (9%)	350
⑫組織としての法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	22 (7%)	55 (16%)	77 (23%)	89 (26%)	40 (12%)	55 (16%)	338
⑬組織としてのリスクマネジメント（災害・感染症・事故等発生時対応、対策等）の重要性を理解して、そのために必要な方針と具体的な方法を作成している	16 (5%)	59 (17%)	87 (25%)	84 (25%)	37 (11%)	59 (17%)	342

エ.調査結果（職種別）

(1) 保育士

障害児支援を行う保育士の数



障害児支援を行う職員数

保育士	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等デイサービスのみ	放課後等デイサービスのみ※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
0人	19 (0%)	2 (1%)	1 (3%)	3 (1%)	0 (0%)	6 (0%)	0 (0%)	5 (0%)	2 (1%)
1人	1219 (29%)	27 (7%)	5 (15%)	84 (17%)	7 (30%)	624 (39%)	37 (46%)	375 (27%)	56 (41%)
2人	1111 (27%)	55 (15%)	4 (12%)	113 (22%)	7 (30%)	477 (30%)	28 (35%)	394 (28%)	32 (23%)
3人	735 (18%)	54 (14%)	2 (6%)	98 (19%)	3 (13%)	273 (17%)	6 (8%)	276 (20%)	22 (16%)
4人	438 (11%)	25 (7%)	3 (9%)	91 (18%)	1 (4%)	130 (8%)	3 (4%)	173 (12%)	12 (9%)
5人	237 (6%)	36 (10%)	7 (21%)	36 (7%)	1 (4%)	48 (3%)	3 (4%)	101 (7%)	5 (4%)
6人	135 (3%)	27 (7%)	2 (6%)	35 (7%)	0 (0%)	22 (1%)	3 (4%)	40 (3%)	6 (4%)
7人	71 (2%)	24 (6%)	3 (9%)	16 (3%)	2 (9%)	11 (1%)	0 (0%)	15 (1%)	0 (0%)
8人	56 (1%)	27 (7%)	1 (3%)	7 (1%)	1 (4%)	4 (0%)	0 (0%)	15 (1%)	0 (0%)
9人	32 (1%)	17 (5%)	0 (0%)	7 (1%)	1 (4%)	1 (0%)	0 (0%)	5 (0%)	1 (1%)
10人以上	115 (3%)	80 (21%)	6 (18%)	13 (3%)	0 (0%)	2 (0%)	0 (0%)	11 (1%)	2 (1%)
合計	4168 (100%)	374 (100%)	34 (100%)	503 (100%)	23 (100%)	1598 (100%)	80 (100%)	1410 (100%)	138 (100%)

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（保育士）が該当しますか。

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	429 (11%)	958 (25%)	1092 (29%)	638 (17%)	314 (8%)	361 (10%)	3792
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	359 (10%)	873 (23%)	1089 (29%)	673 (18%)	334 (9%)	392 (11%)	3720
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	310 (8%)	760 (20%)	1030 (27%)	736 (20%)	377 (10%)	534 (14%)	3747
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	312 (9%)	815 (23%)	1038 (29%)	659 (19%)	319 (9%)	417 (12%)	3560
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	328 (9%)	843 (23%)	1053 (29%)	660 (18%)	325 (9%)	409 (11%)	3618
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	270 (8%)	735 (21%)	1016 (29%)	694 (20%)	347 (10%)	489 (14%)	3551
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	334 (9%)	799 (21%)	1100 (29%)	727 (19%)	361 (10%)	466 (12%)	3787
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	181 (6%)	532 (18%)	792 (27%)	602 (20%)	335 (11%)	508 (17%)	2950
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	266 (8%)	679 (20%)	944 (27%)	707 (20%)	380 (11%)	499 (14%)	3475
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	342 (9%)	802 (21%)	1138 (30%)	707 (19%)	379 (10%)	452 (12%)	3820
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	364 (10%)	864 (23%)	1114 (29%)	684 (18%)	352 (9%)	435 (11%)	3813
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	447 (11%)	935 (23%)	1183 (30%)	689 (17%)	341 (9%)	389 (10%)	3984
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	241 (7%)	639 (18%)	974 (27%)	736 (21%)	407 (11%)	570 (16%)	3567
⑭ いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	235 (7%)	608 (19%)	890 (28%)	639 (20%)	354 (11%)	500 (15%)	3226

【事業形態別】

職種別_別リスト_児童発達支援センター

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	30 (8%)	89 (25%)	131 (37%)	51 (14%)	21 (6%)	34 (10%)	356
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	17 (5%)	62 (18%)	130 (37%)	67 (19%)	32 (9%)	44 (13%)	352
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	11 (3%)	36 (10%)	99 (28%)	78 (22%)	48 (14%)	78 (22%)	350
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	15 (4%)	60 (18%)	121 (36%)	66 (20%)	31 (9%)	45 (13%)	338
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	16 (5%)	65 (19%)	126 (37%)	58 (17%)	33 (10%)	43 (13%)	341
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	8 (2%)	41 (12%)	112 (33%)	72 (21%)	39 (12%)	63 (19%)	335
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	15 (4%)	49 (14%)	124 (35%)	74 (21%)	35 (10%)	60 (17%)	357
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	6 (2%)	36 (11%)	88 (27%)	65 (20%)	46 (14%)	86 (26%)	327
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子ども達の発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見直し、一人一人の子ども達の発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	8 (2%)	42 (12%)	84 (24%)	77 (22%)	54 (15%)	84 (24%)	349
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	13 (4%)	49 (14%)	116 (33%)	79 (22%)	43 (12%)	56 (16%)	356
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	14 (4%)	58 (16%)	123 (34%)	66 (18%)	41 (11%)	55 (15%)	357
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	20 (5%)	63 (17%)	136 (37%)	69 (19%)	32 (9%)	44 (12%)	364
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	9 (3%)	35 (10%)	86 (25%)	88 (25%)	46 (13%)	85 (24%)	349
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	13 (4%)	30 (10%)	73 (24%)	76 (25%)	40 (13%)	78 (25%)	310

職種別_別リスト_医療型・重症児

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	24 (11%)	57 (25%)	59 (26%)	32 (14%)	25 (11%)	31 (14%)	228
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	22 (10%)	52 (23%)	55 (25%)	36 (16%)	24 (11%)	33 (15%)	222
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	19 (8%)	57 (23%)	60 (24%)	40 (16%)	26 (10%)	50 (20%)	252
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	17 (8%)	51 (23%)	60 (27%)	40 (18%)	23 (10%)	33 (15%)	224
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	20 (9%)	58 (25%)	61 (26%)	35 (15%)	26 (11%)	33 (14%)	233
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	19 (8%)	51 (22%)	58 (25%)	34 (15%)	24 (10%)	43 (19%)	229
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	23 (9%)	54 (22%)	64 (26%)	40 (16%)	26 (11%)	40 (16%)	247
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	13 (7%)	29 (16%)	46 (26%)	30 (17%)	22 (13%)	36 (20%)	176
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子ども達の発達に関する専門的知識を基に子ども達の育ちを見通し、一人一人の子ども達の発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	14 (6%)	43 (20%)	51 (23%)	37 (17%)	30 (14%)	44 (20%)	219
⑩子ども達の発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	20 (8%)	56 (23%)	67 (27%)	40 (16%)	27 (11%)	37 (15%)	247
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	23 (9%)	68 (26%)	59 (23%)	43 (17%)	26 (10%)	39 (15%)	258
⑫子ども達の経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	31 (12%)	69 (26%)	67 (25%)	42 (16%)	26 (10%)	34 (13%)	269
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	14 (6%)	36 (16%)	64 (28%)	39 (17%)	28 (12%)	48 (21%)	229
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	15 (9%)	30 (17%)	45 (26%)	31 (18%)	18 (10%)	33 (19%)	172

職種別_別リスト_児童発達支援のみ※重症児除く

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	64 (14%)	119 (25%)	132 (28%)	69 (15%)	45 (9%)	45 (9%)	474
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	55 (12%)	112 (24%)	136 (29%)	72 (15%)	40 (9%)	53 (11%)	468
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	45 (10%)	95 (20%)	119 (26%)	82 (18%)	50 (11%)	75 (16%)	466
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	49 (11%)	101 (22%)	133 (29%)	70 (15%)	48 (11%)	55 (12%)	456
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	53 (12%)	104 (23%)	120 (26%)	82 (18%)	38 (8%)	60 (13%)	457
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	39 (9%)	93 (21%)	113 (26%)	80 (18%)	44 (10%)	74 (17%)	443
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	50 (11%)	101 (21%)	118 (25%)	88 (19%)	51 (11%)	66 (14%)	474
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	21 (5%)	73 (19%)	91 (23%)	83 (21%)	44 (11%)	82 (21%)	394
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	42 (9%)	95 (20%)	110 (24%)	97 (21%)	49 (11%)	73 (16%)	466
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	55 (12%)	101 (21%)	127 (27%)	83 (17%)	47 (10%)	64 (13%)	477
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	53 (11%)	106 (23%)	125 (27%)	83 (18%)	41 (9%)	61 (13%)	469
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	66 (14%)	111 (23%)	136 (28%)	80 (16%)	39 (8%)	56 (11%)	488
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	34 (7%)	86 (19%)	112 (25%)	85 (19%)	53 (12%)	85 (19%)	455
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	27 (7%)	67 (18%)	90 (24%)	80 (21%)	42 (11%)	71 (19%)	377

職種別_別リスト_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	156 (11%)	364 (26%)	400 (28%)	238 (17%)	119 (8%)	138 (10%)	1415
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	127 (9%)	349 (25%)	409 (29%)	245 (18%)	120 (9%)	137 (10%)	1387
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	122 (9%)	309 (22%)	397 (29%)	254 (18%)	130 (9%)	174 (13%)	1386
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	106 (8%)	315 (24%)	370 (29%)	225 (17%)	116 (9%)	154 (12%)	1286
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	122 (9%)	327 (24%)	397 (30%)	219 (16%)	124 (9%)	146 (11%)	1335
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	104 (8%)	296 (23%)	377 (29%)	234 (18%)	128 (10%)	165 (13%)	1304
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	122 (9%)	313 (22%)	408 (29%)	251 (18%)	137 (10%)	166 (12%)	1397
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	72 (7%)	205 (20%)	276 (27%)	184 (18%)	112 (11%)	157 (16%)	1006
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	93 (8%)	253 (21%)	347 (29%)	220 (18%)	123 (10%)	155 (13%)	1191
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	132 (9%)	313 (22%)	433 (30%)	242 (17%)	136 (10%)	169 (12%)	1425
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	139 (10%)	334 (23%)	418 (29%)	248 (17%)	130 (9%)	155 (11%)	1424
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	170 (11%)	372 (25%)	437 (29%)	248 (16%)	136 (9%)	145 (10%)	1508
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	87 (7%)	248 (19%)	373 (29%)	239 (19%)	150 (12%)	192 (15%)	1289
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	93 (8%)	269 (22%)	363 (29%)	213 (17%)	128 (10%)	169 (14%)	1235

職種別_別リスト_多機能・一体型※重症児除く

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	155 (12%)	328 (25%)	369 (28%)	247 (19%)	103 (8%)	112 (9%)	1314
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	138 (11%)	297 (23%)	358 (28%)	252 (20%)	117 (9%)	124 (10%)	1286
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	113 (9%)	262 (20%)	354 (28%)	281 (22%)	122 (9%)	155 (12%)	1287
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	125 (10%)	288 (23%)	353 (28%)	257 (21%)	100 (8%)	128 (10%)	1251
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	117 (9%)	288 (23%)	348 (28%)	265 (21%)	103 (8%)	125 (10%)	1246
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	100 (8%)	253 (21%)	355 (29%)	273 (22%)	111 (9%)	141 (11%)	1233
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	124 (10%)	281 (22%)	384 (29%)	273 (21%)	111 (9%)	131 (10%)	1304
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	69 (7%)	188 (18%)	289 (28%)	239 (23%)	110 (11%)	144 (14%)	1039
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	109 (9%)	245 (20%)	351 (28%)	275 (22%)	123 (10%)	140 (11%)	1243
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	122 (9%)	282 (22%)	394 (30%)	262 (20%)	125 (10%)	123 (9%)	1308
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	135 (10%)	297 (23%)	388 (30%)	243 (19%)	113 (9%)	123 (9%)	1299
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	160 (12%)	319 (24%)	406 (30%)	249 (18%)	107 (8%)	108 (8%)	1349
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	97 (8%)	233 (19%)	337 (27%)	284 (23%)	129 (10%)	157 (13%)	1237
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	87 (8%)	211 (19%)	318 (28%)	238 (21%)	125 (11%)	146 (13%)	1125

【運営法人別】

職種別_人リスト_自治体

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	11 (8%)	26 (18%)	47 (32%)	20 (14%)	22 (15%)	19 (13%)	145
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	6 (4%)	22 (15%)	44 (30%)	27 (18%)	23 (16%)	24 (16%)	146
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	5 (4%)	13 (9%)	29 (20%)	32 (23%)	25 (18%)	38 (27%)	142
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	8 (6%)	18 (13%)	39 (28%)	27 (20%)	23 (17%)	23 (17%)	138
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	7 (5%)	13 (10%)	39 (29%)	28 (21%)	23 (17%)	25 (19%)	135
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	4 (3%)	11 (8%)	34 (25%)	26 (19%)	25 (19%)	35 (26%)	135
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	5 (3%)	18 (12%)	42 (28%)	30 (20%)	26 (17%)	28 (19%)	149
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	4 (3%)	15 (11%)	33 (24%)	26 (19%)	23 (16%)	39 (28%)	140
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	3 (2%)	17 (12%)	29 (20%)	28 (19%)	34 (23%)	35 (24%)	146
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	5 (3%)	17 (11%)	39 (26%)	27 (18%)	31 (21%)	29 (20%)	148
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	9 (6%)	17 (11%)	41 (28%)	25 (17%)	28 (19%)	28 (19%)	148
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	10 (7%)	19 (13%)	45 (30%)	24 (16%)	26 (17%)	26 (17%)	150
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	6 (4%)	10 (7%)	27 (18%)	34 (23%)	33 (22%)	38 (26%)	148
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	3 (3%)	10 (8%)	22 (18%)	31 (26%)	22 (18%)	31 (26%)	119

職種別_人リスト_社会福祉法人

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	55 (8%)	163 (24%)	213 (31%)	110 (16%)	67 (10%)	82 (12%)	690
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	45 (7%)	131 (19%)	213 (31%)	128 (19%)	76 (11%)	87 (13%)	680
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	27 (4%)	95 (14%)	182 (27%)	143 (21%)	94 (14%)	142 (21%)	683
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	31 (5%)	119 (18%)	215 (33%)	119 (18%)	69 (11%)	92 (14%)	645
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	36 (5%)	125 (19%)	215 (32%)	122 (18%)	68 (10%)	98 (15%)	664
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	28 (4%)	96 (15%)	190 (29%)	136 (21%)	72 (11%)	128 (20%)	650
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	35 (5%)	112 (16%)	208 (30%)	151 (22%)	78 (11%)	116 (17%)	700
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	20 (3%)	71 (12%)	152 (26%)	119 (21%)	75 (13%)	140 (24%)	577
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	26 (4%)	84 (13%)	149 (24%)	142 (22%)	84 (13%)	148 (23%)	633
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	38 (5%)	114 (16%)	207 (29%)	136 (19%)	87 (12%)	123 (17%)	705
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	42 (6%)	126 (18%)	206 (29%)	136 (19%)	88 (12%)	110 (16%)	708
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	51 (7%)	142 (19%)	230 (31%)	137 (19%)	78 (11%)	93 (13%)	731
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	19 (3%)	87 (13%)	150 (22%)	165 (25%)	89 (13%)	158 (24%)	668
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	21 (4%)	74 (13%)	129 (23%)	129 (23%)	78 (14%)	136 (24%)	567

職種別_人リスト_株式会社

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	237 (15%)	445 (28%)	465 (29%)	245 (15%)	95 (6%)	106 (7%)	1593
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	202 (13%)	433 (28%)	466 (30%)	239 (15%)	100 (6%)	113 (7%)	1553
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	182 (12%)	401 (26%)	478 (30%)	272 (17%)	101 (6%)	137 (9%)	1571
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	181 (12%)	407 (27%)	450 (30%)	245 (16%)	90 (6%)	124 (8%)	1497
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	186 (12%)	423 (28%)	456 (30%)	253 (17%)	95 (6%)	116 (8%)	1529
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	158 (11%)	394 (26%)	463 (31%)	257 (17%)	100 (7%)	129 (9%)	1501
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	191 (12%)	407 (26%)	488 (31%)	262 (17%)	107 (7%)	125 (8%)	1580
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	101 (8%)	284 (24%)	340 (28%)	236 (20%)	99 (8%)	133 (11%)	1193
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	150 (10%)	366 (25%)	445 (31%)	258 (18%)	106 (7%)	122 (8%)	1447
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	194 (12%)	416 (26%)	503 (32%)	260 (16%)	100 (6%)	117 (7%)	1590
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	200 (13%)	447 (28%)	483 (30%)	245 (15%)	95 (6%)	115 (7%)	1585
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	247 (15%)	472 (28%)	498 (30%)	252 (15%)	94 (6%)	103 (6%)	1666
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	147 (10%)	346 (24%)	457 (31%)	262 (18%)	116 (8%)	141 (10%)	1469
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	132 (10%)	331 (24%)	427 (31%)	238 (17%)	99 (7%)	135 (10%)	1362

職種別_人リスト_NPO法人

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	32 (7%)	73 (16%)	121 (27%)	83 (19%)	60 (13%)	78 (17%)	447
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	28 (6%)	66 (15%)	112 (25%)	85 (19%)	63 (14%)	87 (20%)	441
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	29 (6%)	54 (12%)	107 (24%)	94 (21%)	65 (14%)	103 (23%)	452
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	26 (6%)	62 (15%)	103 (24%)	84 (20%)	62 (15%)	88 (21%)	425
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	27 (6%)	65 (16%)	107 (26%)	77 (18%)	69 (16%)	74 (18%)	419
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	21 (5%)	45 (11%)	104 (25%)	82 (20%)	69 (17%)	91 (22%)	412
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	32 (7%)	56 (12%)	114 (25%)	93 (20%)	66 (15%)	93 (20%)	454
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	17 (5%)	31 (9%)	74 (21%)	76 (22%)	60 (17%)	90 (26%)	348
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	23 (6%)	43 (11%)	88 (22%)	90 (22%)	73 (18%)	85 (21%)	402
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	27 (6%)	53 (12%)	123 (27%)	96 (21%)	69 (15%)	83 (18%)	451
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	28 (6%)	66 (15%)	123 (27%)	87 (19%)	63 (14%)	85 (19%)	452
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	36 (8%)	76 (16%)	126 (27%)	88 (19%)	64 (14%)	81 (17%)	471
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	21 (5%)	37 (9%)	93 (22%)	94 (22%)	74 (17%)	113 (26%)	432
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	21 (5%)	34 (9%)	86 (22%)	88 (23%)	68 (18%)	89 (23%)	386

職種別_人リスト_合同会社

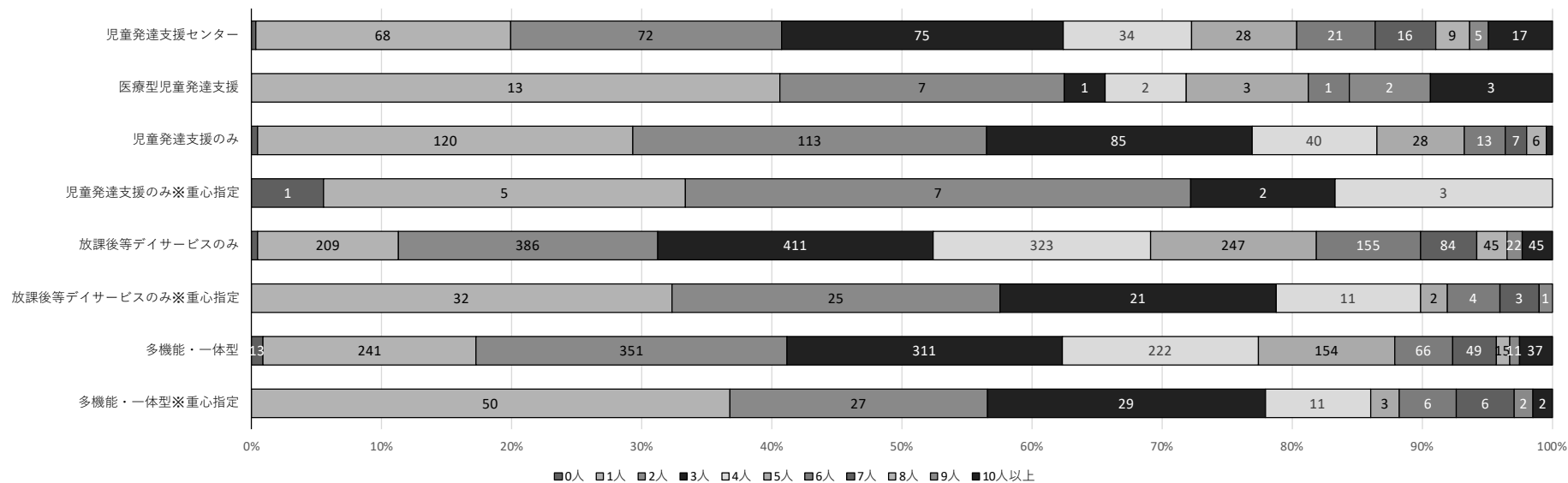
保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	36 (10%)	98 (28%)	98 (28%)	80 (23%)	21 (6%)	19 (5%)	352
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	29 (8%)	85 (25%)	102 (30%)	84 (24%)	22 (6%)	21 (6%)	343
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	28 (8%)	79 (23%)	100 (29%)	80 (23%)	29 (8%)	33 (9%)	349
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	23 (7%)	85 (26%)	88 (27%)	78 (24%)	23 (7%)	24 (7%)	321
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	24 (7%)	86 (26%)	92 (28%)	79 (24%)	19 (6%)	29 (9%)	329
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	19 (6%)	78 (24%)	89 (28%)	81 (25%)	23 (7%)	32 (10%)	322
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	25 (7%)	83 (24%)	98 (28%)	82 (24%)	30 (9%)	29 (8%)	347
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	16 (6%)	52 (19%)	82 (31%)	64 (24%)	24 (9%)	29 (11%)	267
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	22 (7%)	72 (23%)	100 (31%)	79 (25%)	22 (7%)	25 (8%)	320
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	30 (8%)	80 (23%)	110 (31%)	81 (23%)	26 (7%)	28 (8%)	355
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	32 (9%)	81 (23%)	108 (31%)	82 (23%)	23 (7%)	27 (8%)	353
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	39 (11%)	85 (23%)	113 (31%)	80 (22%)	22 (6%)	24 (7%)	363
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	15 (5%)	68 (21%)	105 (32%)	74 (23%)	31 (10%)	32 (10%)	325
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	21 (7%)	63 (21%)	94 (32%)	63 (21%)	29 (10%)	28 (9%)	298

職種別_人リスト_一般社団法人

保育士	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、保育士としての専門性を発揮している	26 (10%)	76 (28%)	76 (28%)	50 (19%)	19 (7%)	23 (9%)	270
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、保育士の視点から提案している	25 (9%)	70 (26%)	78 (29%)	54 (20%)	18 (7%)	23 (9%)	268
③事業所内において、必要な時に、保育士の視点からコンサルテーション・助言をしている	18 (7%)	61 (23%)	65 (25%)	64 (24%)	21 (8%)	35 (13%)	264
④保育士として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	22 (9%)	64 (25%)	70 (28%)	50 (20%)	17 (7%)	30 (12%)	253
⑤保育士として標準化されたアセスメントを適切に実践している	25 (10%)	64 (25%)	71 (28%)	50 (19%)	17 (7%)	30 (12%)	257
⑥保育士として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	20 (8%)	56 (22%)	72 (28%)	55 (22%)	20 (8%)	31 (12%)	254
⑦保護者に対して、保育士の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	20 (7%)	60 (22%)	85 (32%)	56 (21%)	17 (6%)	31 (12%)	269
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	10 (5%)	44 (22%)	55 (27%)	44 (22%)	17 (8%)	32 (16%)	202
⑨これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術をもって支援を行っている	21 (8%)	55 (22%)	68 (27%)	60 (24%)	20 (8%)	30 (12%)	254
⑩子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術をもって支援を行っている	23 (8%)	72 (26%)	78 (28%)	52 (19%)	22 (8%)	28 (10%)	275
⑪事業所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術をもって支援を行っている	26 (10%)	67 (25%)	80 (29%)	57 (21%)	15 (5%)	28 (10%)	273
⑫子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術をもって支援を行っている	33 (11%)	76 (26%)	89 (30%)	57 (19%)	18 (6%)	22 (7%)	295
⑬ 保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって支援を行っている	15 (6%)	52 (20%)	72 (28%)	59 (23%)	21 (8%)	35 (14%)	254
⑭いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	18 (7%)	57 (23%)	70 (29%)	47 (19%)	18 (7%)	34 (14%)	244

(2) 児童指導員

障害児支援を行う児童指導員の数



児童指導員	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等サービスのみのみ	放課後等サービスのみ※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
0人	27 (1%)	1 (0%)	0 (0%)	2 (0%)	1 (6%)	9 (0%)	0 (0%)	13 (1%)	0 (0%)
1人	740 (17%)	68 (20%)	13 (41%)	120 (29%)	5 (28%)	209 (11%)	32 (32%)	241 (16%)	50 (37%)
2人	989 (22%)	72 (21%)	7 (22%)	113 (27%)	7 (39%)	386 (20%)	25 (25%)	351 (24%)	27 (20%)
3人	936 (21%)	75 (22%)	1 (3%)	85 (20%)	2 (11%)	411 (21%)	21 (21%)	311 (21%)	29 (21%)
4人	646 (14%)	34 (10%)	2 (6%)	40 (10%)	3 (17%)	323 (17%)	11 (11%)	222 (15%)	11 (8%)
5人	465 (10%)	28 (8%)	3 (9%)	28 (7%)	0 (0%)	247 (13%)	2 (2%)	154 (10%)	3 (2%)
6人	266 (6%)	21 (6%)	1 (3%)	13 (3%)	0 (0%)	155 (8%)	4 (4%)	66 (4%)	6 (4%)
7人	165 (4%)	16 (5%)	0 (0%)	7 (2%)	0 (0%)	84 (4%)	3 (3%)	49 (3%)	6 (4%)
8人	75 (2%)	9 (3%)	0 (0%)	6 (1%)	0 (0%)	45 (2%)	0 (0%)	15 (1%)	0 (0%)
9人	43 (1%)	5 (1%)	2 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	22 (1%)	1 (1%)	11 (1%)	2 (1%)
10人以上	106 (2%)	17 (5%)	3 (9%)	2 (0%)	0 (0%)	45 (2%)	0 (0%)	37 (3%)	2 (1%)
合計	4458 (100%)	346 (100%)	32 (100%)	416 (100%)	18 (100%)	1936 (100%)	99 (100%)	1470 (100%)	136 (100%)

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（児童指導員）が該当しますか。

児童指導員	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	352	(9%)	1038	(25%)	1311	(32%)	797	(19%)	333	(8%)	301	(7%)	4132
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	310	(8%)	985	(24%)	1328	(32%)	829	(20%)	362	(9%)	309	(7%)	4123
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	237	(6%)	843	(21%)	1259	(31%)	894	(22%)	420	(10%)	398	(10%)	4051
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	291	(7%)	894	(23%)	1247	(32%)	822	(21%)	347	(9%)	317	(8%)	3918
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	292	(7%)	928	(23%)	1269	(32%)	827	(21%)	361	(9%)	334	(8%)	4011
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	230	(6%)	822	(21%)	1253	(32%)	849	(22%)	374	(10%)	363	(9%)	3891
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	269	(7%)	869	(21%)	1306	(32%)	893	(22%)	399	(10%)	366	(9%)	4102
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	169	(5%)	583	(18%)	1004	(31%)	736	(23%)	369	(11%)	350	(11%)	3211
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	343	(8%)	1005	(23%)	1365	(32%)	879	(20%)	373	(9%)	337	(8%)	4302
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	228	(6%)	727	(20%)	1141	(32%)	794	(22%)	363	(10%)	343	(10%)	3596
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	193	(5%)	668	(18%)	1144	(30%)	906	(24%)	420	(11%)	427	(11%)	3758

【事業形態別】

職種別_別リスト_児童発達支援センター

児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	20 (6%)	82 (26%)	88 (28%)	47 (15%)	38 (12%)	44 (14%)	319
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	11 (3%)	71 (22%)	93 (29%)	53 (17%)	44 (14%)	48 (15%)	320
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	10 (3%)	49 (16%)	86 (28%)	51 (17%)	48 (16%)	60 (20%)	304
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	14 (5%)	60 (21%)	90 (31%)	45 (15%)	37 (13%)	45 (15%)	291
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	12 (4%)	65 (21%)	94 (31%)	46 (15%)	41 (13%)	47 (15%)	305
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	8 (3%)	55 (19%)	75 (26%)	54 (19%)	42 (15%)	50 (18%)	284
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	10 (3%)	59 (19%)	90 (29%)	58 (19%)	45 (14%)	50 (16%)	312
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	9 (3%)	41 (15%)	69 (26%)	44 (16%)	50 (19%)	54 (20%)	267
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	15 (5%)	68 (20%)	99 (30%)	57 (17%)	42 (13%)	51 (15%)	332
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	11 (4%)	41 (15%)	71 (26%)	42 (16%)	37 (14%)	66 (25%)	268
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	10 (3%)	35 (12%)	85 (29%)	53 (18%)	49 (16%)	65 (22%)	297

職種別_別リスト_医療型・重症児

児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	13 (5%)	52 (22%)	77 (32%)	42 (18%)	20 (8%)	33 (14%)	237
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	12 (5%)	51 (22%)	69 (29%)	48 (20%)	19 (8%)	37 (16%)	236
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	10 (4%)	44 (18%)	68 (28%)	56 (23%)	28 (11%)	39 (16%)	245
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	10 (4%)	47 (21%)	71 (31%)	43 (19%)	21 (9%)	35 (15%)	227
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	12 (5%)	47 (19%)	74 (30%)	52 (21%)	24 (10%)	35 (14%)	244
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	9 (4%)	45 (20%)	66 (29%)	51 (22%)	23 (10%)	36 (16%)	230
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	10 (4%)	48 (19%)	80 (32%)	54 (22%)	23 (9%)	36 (14%)	251
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	7 (4%)	36 (19%)	57 (30%)	43 (23%)	16 (8%)	31 (16%)	190
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	16 (6%)	50 (19%)	80 (30%)	54 (20%)	27 (10%)	37 (14%)	264
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	10 (5%)	37 (20%)	55 (29%)	41 (22%)	17 (9%)	27 (14%)	187
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	8 (3%)	38 (16%)	64 (27%)	61 (26%)	21 (9%)	41 (18%)	233

職種別_別リスト_児童発達支援のみ※重症児除く

児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	52 (14%)	110 (29%)	101 (27%)	56 (15%)	29 (8%)	29 (8%)	377
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	46 (12%)	107 (28%)	103 (27%)	61 (16%)	29 (8%)	31 (8%)	377
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	34 (9%)	95 (26%)	102 (28%)	60 (17%)	30 (8%)	38 (11%)	359
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	47 (13%)	96 (27%)	93 (26%)	55 (16%)	31 (9%)	31 (9%)	353
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	47 (13%)	101 (28%)	93 (26%)	56 (16%)	27 (8%)	34 (9%)	358
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	41 (12%)	90 (26%)	96 (28%)	57 (16%)	30 (9%)	34 (10%)	348
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	44 (12%)	97 (27%)	101 (28%)	59 (16%)	30 (8%)	34 (9%)	365
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	24 (9%)	64 (24%)	70 (26%)	47 (18%)	26 (10%)	35 (13%)	266
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	52 (13%)	115 (29%)	102 (26%)	61 (16%)	29 (7%)	33 (8%)	392
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	32 (11%)	69 (24%)	73 (25%)	54 (19%)	28 (10%)	35 (12%)	291
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	29 (9%)	83 (25%)	89 (27%)	64 (19%)	30 (9%)	38 (11%)	333

職種別_別リスト_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	134 (7%)	443 (24%)	612 (34%)	384 (21%)	151 (8%)	96 (5%)	1820
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	127 (7%)	423 (23%)	619 (34%)	390 (21%)	164 (9%)	95 (5%)	1818
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	96 (5%)	358 (20%)	587 (33%)	426 (24%)	200 (11%)	133 (7%)	1800
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	110 (6%)	373 (22%)	592 (34%)	391 (23%)	157 (9%)	103 (6%)	1726
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	115 (6%)	405 (23%)	594 (33%)	390 (22%)	160 (9%)	112 (6%)	1776
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	86 (5%)	354 (21%)	596 (35%)	394 (23%)	170 (10%)	122 (7%)	1722
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	104 (6%)	353 (19%)	620 (34%)	413 (23%)	190 (10%)	132 (7%)	1812
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	68 (5%)	227 (16%)	458 (33%)	341 (25%)	177 (13%)	113 (8%)	1384
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	137 (7%)	429 (23%)	638 (34%)	414 (22%)	165 (9%)	111 (6%)	1894
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	88 (5%)	333 (21%)	546 (34%)	381 (24%)	166 (10%)	107 (7%)	1621
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	78 (5%)	271 (16%)	523 (32%)	428 (26%)	198 (12%)	152 (9%)	1650

職種別_別リスト_多機能・一体型※重症児除く

児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	133 (10%)	351 (26%)	432 (31%)	267 (19%)	95 (7%)	98 (7%)	1376
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	114 (8%)	333 (24%)	443 (32%)	276 (20%)	106 (8%)	97 (7%)	1369
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	87 (6%)	297 (22%)	415 (31%)	300 (22%)	114 (9%)	127 (9%)	1340
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	110 (8%)	318 (24%)	400 (30%)	287 (22%)	101 (8%)	102 (8%)	1318
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	106 (8%)	310 (23%)	413 (31%)	282 (21%)	109 (8%)	104 (8%)	1324
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	86 (7%)	278 (21%)	419 (32%)	292 (22%)	109 (8%)	119 (9%)	1303
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	101 (7%)	312 (23%)	414 (30%)	308 (23%)	111 (8%)	112 (8%)	1358
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	61 (6%)	215 (20%)	349 (32%)	260 (24%)	100 (9%)	115 (10%)	1100
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	123 (9%)	343 (24%)	445 (31%)	292 (21%)	110 (8%)	103 (7%)	1416
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	87 (7%)	247 (20%)	395 (32%)	275 (22%)	115 (9%)	106 (9%)	1225
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	68 (5%)	241 (19%)	382 (31%)	299 (24%)	122 (10%)	129 (10%)	1241

【運営法人別】

職種別_人リスト_自治体

児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	5 (6%)	12 (13%)	24 (27%)	12 (13%)	15 (17%)	22 (24%)	90
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	5 (5%)	10 (11%)	26 (28%)	15 (16%)	15 (16%)	22 (24%)	93
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	3 (3%)	10 (11%)	22 (24%)	14 (16%)	14 (16%)	27 (30%)	90
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	4 (5%)	8 (10%)	22 (26%)	13 (15%)	13 (15%)	24 (29%)	84
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	4 (4%)	8 (9%)	22 (25%)	14 (16%)	15 (17%)	26 (29%)	89
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	3 (3%)	8 (9%)	20 (22%)	14 (16%)	15 (17%)	29 (33%)	89
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	4 (4%)	11 (11%)	25 (26%)	16 (17%)	15 (16%)	25 (26%)	96
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	3 (3%)	12 (13%)	22 (24%)	12 (13%)	17 (19%)	24 (27%)	90
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	4 (4%)	17 (17%)	24 (24%)	15 (15%)	16 (16%)	24 (24%)	100
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	4 (5%)	8 (10%)	18 (23%)	14 (18%)	11 (14%)	24 (30%)	79
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	4 (4%)	8 (8%)	21 (22%)	15 (16%)	17 (18%)	30 (32%)	95

職種別_人リスト_社会福祉法人

児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	33 (5%)	138 (22%)	206 (32%)	120 (19%)	70 (11%)	67 (11%)	634
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	25 (4%)	126 (20%)	204 (32%)	136 (21%)	78 (12%)	72 (11%)	641
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	21 (3%)	89 (14%)	180 (29%)	142 (23%)	88 (14%)	97 (16%)	617
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	29 (5%)	110 (18%)	196 (33%)	128 (21%)	67 (11%)	69 (12%)	599
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	27 (4%)	109 (18%)	204 (33%)	123 (20%)	79 (13%)	73 (12%)	615
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	19 (3%)	92 (16%)	187 (32%)	134 (23%)	76 (13%)	82 (14%)	590
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	22 (3%)	107 (17%)	203 (32%)	140 (22%)	83 (13%)	87 (14%)	642
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	9 (2%)	68 (14%)	141 (29%)	111 (23%)	78 (16%)	78 (16%)	485
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	36 (5%)	118 (17%)	219 (32%)	145 (21%)	81 (12%)	81 (12%)	680
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	18 (3%)	67 (13%)	156 (30%)	115 (22%)	77 (15%)	83 (16%)	516
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	13 (2%)	71 (12%)	154 (27%)	148 (26%)	83 (14%)	109 (19%)	578

職種別_人リスト_株式会社

児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	214 (12%)	528 (29%)	588 (32%)	352 (19%)	92 (5%)	64 (3%)	1838
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	192 (10%)	513 (28%)	600 (33%)	360 (20%)	103 (6%)	64 (3%)	1832
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	144 (8%)	467 (26%)	590 (32%)	404 (22%)	125 (7%)	88 (5%)	1818
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	175 (10%)	478 (27%)	578 (33%)	365 (21%)	99 (6%)	74 (4%)	1769
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	178 (10%)	509 (28%)	571 (32%)	381 (21%)	99 (5%)	68 (4%)	1806
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	140 (8%)	458 (26%)	578 (33%)	384 (22%)	115 (7%)	78 (4%)	1753
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	165 (9%)	471 (26%)	595 (32%)	401 (22%)	124 (7%)	79 (4%)	1835
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	112 (8%)	324 (23%)	469 (33%)	338 (24%)	115 (8%)	77 (5%)	1435
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	203 (11%)	527 (28%)	610 (32%)	385 (20%)	109 (6%)	71 (4%)	1905
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	129 (8%)	413 (25%)	540 (33%)	365 (22%)	113 (7%)	73 (4%)	1633
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	117 (7%)	377 (22%)	557 (33%)	406 (24%)	135 (8%)	93 (6%)	1685

職種別_人リスト_NPO法人

児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	28 (5%)	70 (13%)	161 (31%)	115 (22%)	71 (14%)	77 (15%)	522
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	25 (5%)	65 (13%)	152 (29%)	116 (22%)	78 (15%)	80 (16%)	516
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	20 (4%)	58 (11%)	128 (25%)	121 (24%)	92 (18%)	93 (18%)	512
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	24 (5%)	63 (13%)	143 (29%)	116 (23%)	74 (15%)	76 (15%)	496
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	25 (5%)	63 (12%)	141 (28%)	113 (22%)	81 (16%)	82 (16%)	505
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	22 (4%)	53 (11%)	134 (27%)	115 (23%)	78 (16%)	89 (18%)	491
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	25 (5%)	55 (11%)	147 (28%)	119 (23%)	85 (16%)	86 (17%)	517
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	14 (4%)	36 (9%)	100 (25%)	89 (22%)	71 (18%)	89 (22%)	399
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	28 (5%)	76 (14%)	155 (29%)	122 (23%)	82 (15%)	79 (15%)	542
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	25 (6%)	52 (11%)	119 (26%)	104 (23%)	73 (16%)	81 (18%)	454
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	17 (4%)	43 (9%)	109 (23%)	112 (24%)	84 (18%)	103 (22%)	468

職種別_人リスト_合同会社

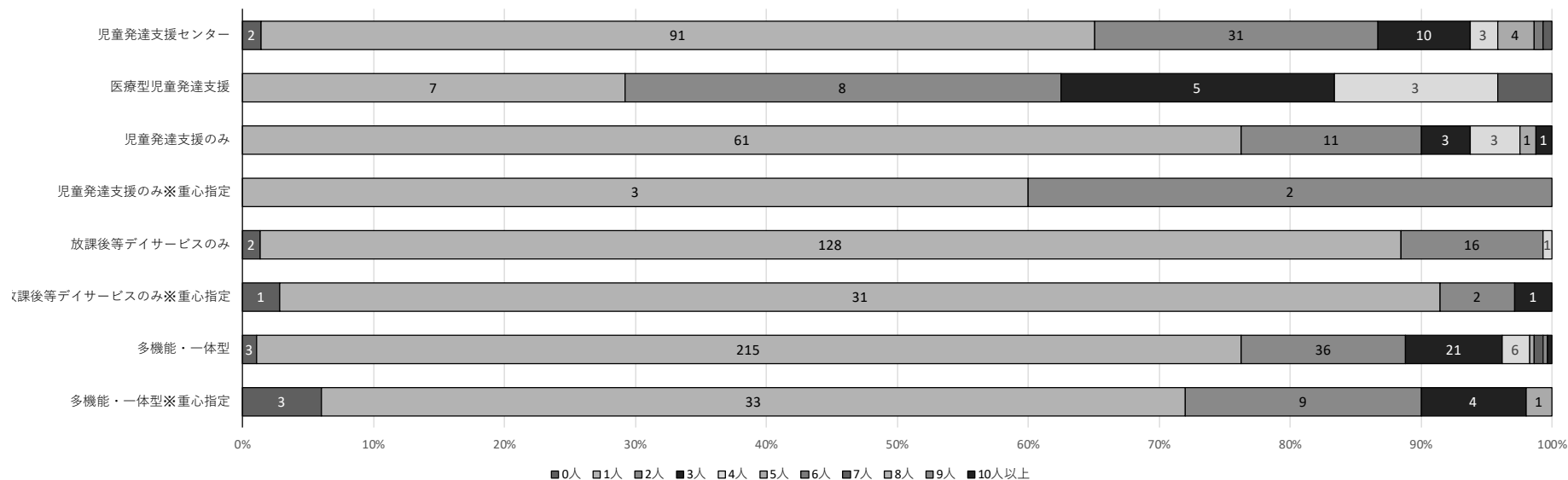
児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	27 (7%)	109 (27%)	135 (34%)	79 (20%)	28 (7%)	24 (6%)	402
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	24 (6%)	108 (27%)	139 (35%)	79 (20%)	27 (7%)	23 (6%)	400
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	19 (5%)	90 (23%)	134 (34%)	86 (22%)	30 (8%)	32 (8%)	391
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	21 (6%)	91 (24%)	121 (32%)	86 (23%)	27 (7%)	27 (7%)	373
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	20 (5%)	91 (24%)	133 (35%)	85 (22%)	26 (7%)	29 (8%)	384
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	15 (4%)	82 (22%)	136 (36%)	85 (22%)	29 (8%)	31 (8%)	378
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	16 (4%)	90 (23%)	135 (35%)	87 (22%)	28 (7%)	31 (8%)	387
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	13 (4%)	61 (20%)	110 (35%)	69 (22%)	29 (9%)	30 (10%)	312
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	29 (7%)	102 (25%)	144 (35%)	80 (20%)	25 (6%)	29 (7%)	409
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	21 (6%)	79 (22%)	125 (35%)	75 (21%)	30 (8%)	28 (8%)	358
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	16 (4%)	67 (19%)	120 (34%)	87 (24%)	35 (10%)	33 (9%)	358

職種別_人リスト_一般社団法人

児童指導員	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、児童指導員としての専門性を発揮している	20 (7%)	92 (30%)	90 (30%)	57 (19%)	25 (8%)	18 (6%)	302
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、児童指導員の視点から提案している	13 (4%)	89 (30%)	95 (32%)	54 (18%)	27 (9%)	21 (7%)	299
③事業所内において、必要な時に、児童指導員の視点からコンサルテーション・助言をしている	9 (3%)	69 (24%)	94 (32%)	63 (22%)	29 (10%)	29 (10%)	293
④児童指導員として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	11 (4%)	81 (28%)	88 (31%)	55 (19%)	30 (10%)	22 (8%)	287
⑤児童指導員として標準化されたアセスメントを適切に実践している	14 (5%)	80 (28%)	91 (31%)	50 (17%)	29 (10%)	25 (9%)	289
⑥児童指導員として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	9 (3%)	70 (25%)	98 (35%)	55 (19%)	28 (10%)	24 (8%)	284
⑦保護者に対して、児童指導員の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	14 (5%)	73 (25%)	92 (31%)	61 (21%)	29 (10%)	26 (9%)	295
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	7 (3%)	49 (20%)	85 (35%)	53 (22%)	27 (11%)	23 (9%)	244
⑨子どもの発達について理解して適切な支援を行っている	17 (5%)	91 (29%)	96 (31%)	58 (19%)	27 (9%)	24 (8%)	313
⑩いじめ・二次障害について理解して適切な支援を行っている	9 (3%)	62 (23%)	86 (32%)	50 (19%)	31 (12%)	27 (10%)	265
⑪保護者等への相談や困り感の高い家庭に関する知識及び技術をもって適切な支援を行っている	7 (3%)	60 (22%)	87 (32%)	62 (23%)	27 (10%)	29 (11%)	272

(3) OT（作業療法士）

障害児支援を行う OT（作業療法士）の数



OT	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等デイサービスののみ	放課後等デイサービスののみ※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
0人	11 (1%)	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	1 (3%)	3 (1%)	3 (6%)
1人	571 (74%)	91 (64%)	7 (29%)	61 (76%)	3 (60%)	128 (87%)	31 (89%)	215 (75%)	33 (66%)
2人	116 (15%)	31 (22%)	8 (33%)	11 (14%)	2 (40%)	16 (11%)	2 (6%)	36 (13%)	9 (18%)
3人	43 (6%)	10 (7%)	5 (21%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	21 (7%)	4 (8%)
4人	17 (2%)	3 (2%)	3 (13%)	3 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	6 (2%)	0 (0%)
5人	7 (1%)	4 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	1 (2%)
6人	1 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
7人	4 (1%)	1 (1%)	1 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	0 (0%)
8人	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
9人	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)
10人以上	3 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (3%)	1 (0%)	0 (0%)
合計	774 (100%)	143 (100%)	24 (100%)	80 (100%)	5 (100%)	147 (100%)	35 (100%)	286 (100%)	50 (100%)

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（作業療法士（OT））が該当しますか。

OT	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	115	(17%)	189	(29%)	131	(20%)	65	(10%)	45	(7%)	116	(18%)	661
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	112	(17%)	188	(28%)	133	(20%)	67	(10%)	47	(7%)	121	(18%)	668
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	110	(15%)	193	(26%)	142	(19%)	71	(10%)	60	(8%)	153	(21%)	729
④OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	111	(16%)	189	(28%)	135	(20%)	65	(10%)	51	(8%)	129	(19%)	680
⑤OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	109	(16%)	189	(28%)	131	(19%)	69	(10%)	54	(8%)	134	(20%)	686
⑥OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	106	(15%)	184	(26%)	135	(19%)	70	(10%)	55	(8%)	147	(21%)	697
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	104	(15%)	183	(26%)	138	(20%)	70	(10%)	57	(8%)	148	(21%)	700
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	60	(12%)	112	(22%)	97	(19%)	67	(13%)	46	(9%)	126	(25%)	508
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	114	(16%)	203	(28%)	133	(18%)	71	(10%)	55	(8%)	150	(21%)	726
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	120	(17%)	193	(27%)	134	(18%)	70	(10%)	56	(8%)	152	(21%)	725
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	52	(12%)	110	(25%)	84	(19%)	48	(11%)	35	(8%)	116	(26%)	445
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	105	(16%)	184	(27%)	120	(18%)	73	(11%)	51	(8%)	144	(21%)	677
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	79	(14%)	144	(25%)	102	(18%)	63	(11%)	46	(8%)	132	(23%)	566

【事業形態別】

職種別_別リスト_児童発達支援センター

OT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	15 (14%)	24 (23%)	17 (16%)	10 (9%)	12 (11%)	28 (26%)	106
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	15 (13%)	26 (23%)	18 (16%)	10 (9%)	14 (13%)	29 (26%)	112
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	16 (12%)	26 (20%)	21 (16%)	9 (7%)	19 (14%)	41 (31%)	132
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	19 (16%)	26 (21%)	19 (16%)	7 (6%)	17 (14%)	34 (28%)	122
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	17 (14%)	27 (22%)	19 (16%)	9 (7%)	16 (13%)	34 (28%)	122
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	15 (12%)	27 (21%)	20 (16%)	9 (7%)	17 (13%)	38 (30%)	126
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	16 (12%)	28 (21%)	20 (15%)	8 (6%)	19 (15%)	40 (31%)	131
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	11 (11%)	15 (15%)	14 (14%)	7 (7%)	14 (14%)	39 (39%)	100
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	15 (11%)	31 (23%)	18 (14%)	10 (8%)	16 (12%)	42 (32%)	132
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	17 (13%)	23 (18%)	19 (15%)	10 (8%)	18 (14%)	41 (32%)	128
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	9 (11%)	13 (15%)	12 (14%)	7 (8%)	14 (16%)	30 (35%)	85
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	16 (13%)	20 (16%)	19 (15%)	11 (9%)	18 (15%)	39 (32%)	123
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	14 (13%)	16 (15%)	16 (15%)	7 (7%)	16 (15%)	37 (35%)	106

職種別_別リスト_医療型・重症児

OT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	9 (10%)	23 (25%)	21 (23%)	8 (9%)	8 (9%)	23 (25%)	92
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	9 (10%)	23 (24%)	21 (22%)	9 (10%)	9 (10%)	23 (24%)	94
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	8 (7%)	28 (25%)	23 (21%)	10 (9%)	12 (11%)	31 (28%)	112
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	9 (9%)	27 (26%)	21 (20%)	8 (8%)	11 (11%)	27 (26%)	103
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	10 (9%)	27 (25%)	20 (19%)	9 (8%)	11 (10%)	29 (27%)	106
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	9 (8%)	25 (23%)	22 (21%)	10 (9%)	11 (10%)	30 (28%)	107
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	9 (9%)	23 (22%)	23 (22%)	8 (8%)	12 (12%)	29 (28%)	104
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	5 (7%)	11 (15%)	17 (24%)	8 (11%)	8 (11%)	22 (31%)	71
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	11 (10%)	31 (27%)	20 (18%)	9 (8%)	12 (11%)	30 (27%)	113
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	10 (9%)	28 (25%)	21 (19%)	9 (8%)	11 (10%)	32 (29%)	111
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	6 (7%)	18 (20%)	20 (23%)	6 (7%)	8 (9%)	30 (34%)	88
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	9 (9%)	27 (26%)	20 (19%)	10 (10%)	9 (9%)	29 (28%)	104
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	10 (9%)	29 (26%)	22 (20%)	10 (9%)	10 (9%)	30 (27%)	111

職種別_別リスト_児童発達支援のみ※重症児除く

OT	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	10	(15%)	18	(27%)	13	(20%)	7	(11%)	1	(2%)	17	(26%)	66
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	9	(13%)	19	(28%)	13	(19%)	7	(10%)	1	(1%)	19	(28%)	68
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	11	(14%)	19	(25%)	15	(19%)	9	(12%)	2	(3%)	21	(27%)	77
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	10	(14%)	18	(26%)	15	(21%)	10	(14%)	1	(1%)	16	(23%)	70
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	10	(14%)	18	(25%)	15	(21%)	10	(14%)	1	(1%)	18	(25%)	72
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	10	(14%)	18	(25%)	15	(21%)	9	(12%)	1	(1%)	20	(27%)	73
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	10	(13%)	19	(25%)	15	(20%)	9	(12%)	1	(1%)	21	(28%)	75
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	5	(10%)	13	(25%)	10	(19%)	8	(15%)	1	(2%)	15	(29%)	52
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	10	(13%)	19	(25%)	15	(19%)	10	(13%)	1	(1%)	22	(29%)	77
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	9	(12%)	18	(24%)	15	(20%)	10	(13%)	1	(1%)	22	(29%)	75
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	3	(9%)	4	(12%)	6	(18%)	4	(12%)	0	(0%)	16	(48%)	33
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	9	(13%)	16	(23%)	14	(20%)	9	(13%)	1	(1%)	22	(31%)	71
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	5	(11%)	6	(14%)	11	(25%)	5	(11%)	1	(2%)	16	(36%)	44

職種別_別リスト_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

OT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	48 (35%)	45 (33%)	21 (15%)	7 (5%)	5 (4%)	11 (8%)	137
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どものための個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	45 (33%)	42 (31%)	24 (18%)	6 (4%)	5 (4%)	13 (10%)	135
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	45 (33%)	43 (32%)	24 (18%)	6 (4%)	5 (4%)	13 (10%)	136
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	41 (32%)	43 (33%)	22 (17%)	6 (5%)	6 (5%)	11 (9%)	129
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	43 (33%)	41 (32%)	22 (17%)	7 (5%)	5 (4%)	12 (9%)	130
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	42 (32%)	42 (32%)	23 (18%)	7 (5%)	5 (4%)	12 (9%)	131
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	38 (29%)	41 (32%)	25 (19%)	8 (6%)	5 (4%)	13 (10%)	130
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	19 (24%)	22 (28%)	15 (19%)	8 (10%)	5 (6%)	9 (12%)	78
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	43 (31%)	45 (33%)	23 (17%)	8 (6%)	6 (4%)	12 (9%)	137
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	45 (33%)	43 (32%)	22 (16%)	8 (6%)	5 (4%)	13 (10%)	136
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	23 (28%)	26 (32%)	13 (16%)	6 (7%)	4 (5%)	9 (11%)	81
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	43 (34%)	42 (33%)	19 (15%)	7 (6%)	5 (4%)	11 (9%)	127
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	32 (33%)	30 (31%)	14 (14%)	6 (6%)	4 (4%)	11 (11%)	97

職種別_別リスト_多機能・一体型※重症児除く

OT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	33 (13%)	79 (31%)	58 (22%)	33 (13%)	19 (7%)	37 (14%)	259
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	34 (13%)	78 (30%)	56 (22%)	35 (14%)	18 (7%)	37 (14%)	258
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	30 (11%)	77 (29%)	58 (22%)	37 (14%)	22 (8%)	44 (16%)	268
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	32 (13%)	75 (30%)	57 (23%)	34 (13%)	16 (6%)	39 (15%)	253
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	29 (11%)	76 (30%)	54 (21%)	34 (13%)	21 (8%)	39 (15%)	253
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	30 (12%)	72 (28%)	54 (21%)	35 (14%)	21 (8%)	44 (17%)	256
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	31 (12%)	72 (28%)	54 (21%)	37 (14%)	20 (8%)	42 (16%)	256
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	20 (10%)	51 (25%)	41 (20%)	36 (18%)	18 (9%)	38 (19%)	204
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	35 (13%)	77 (29%)	56 (21%)	34 (13%)	20 (8%)	41 (16%)	263
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	39 (14%)	81 (30%)	56 (21%)	33 (12%)	21 (8%)	41 (15%)	271
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	11 (7%)	49 (32%)	32 (21%)	25 (16%)	9 (6%)	29 (19%)	155
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	28 (11%)	79 (32%)	47 (19%)	36 (15%)	18 (7%)	40 (16%)	248
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	18 (9%)	63 (31%)	38 (19%)	35 (17%)	15 (7%)	36 (18%)	205

【運営法人別】

職種別_人リスト_自治体

OT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	3 (7%)	5 (11%)	8 (18%)	6 (14%)	4 (9%)	18 (41%)	44
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	3 (6%)	4 (9%)	9 (19%)	6 (13%)	6 (13%)	19 (40%)	47
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	5 (8%)	5 (8%)	10 (15%)	6 (9%)	7 (11%)	32 (49%)	65
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	6 (10%)	5 (8%)	10 (16%)	7 (11%)	6 (10%)	27 (44%)	61
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	6 (10%)	5 (8%)	11 (18%)	6 (10%)	6 (10%)	27 (44%)	61
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	4 (6%)	7 (11%)	10 (16%)	6 (9%)	6 (9%)	31 (48%)	64
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	5 (7%)	8 (12%)	10 (15%)	6 (9%)	8 (12%)	30 (45%)	67
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	2 (4%)	6 (11%)	7 (13%)	5 (9%)	8 (15%)	27 (49%)	55
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	6 (9%)	7 (10%)	8 (12%)	7 (10%)	7 (10%)	33 (49%)	68
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	6 (9%)	5 (8%)	8 (12%)	8 (12%)	8 (12%)	31 (47%)	66
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	2 (4%)	3 (7%)	3 (7%)	5 (11%)	5 (11%)	27 (60%)	45
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	5 (8%)	3 (5%)	8 (13%)	6 (10%)	7 (12%)	31 (52%)	60
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	3 (6%)	3 (6%)	8 (15%)	6 (11%)	6 (11%)	28 (52%)	54

職種別_人リスト_社会福祉法人

OT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	13 (10%)	26 (19%)	31 (23%)	16 (12%)	13 (10%)	35 (26%)	134
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	12 (9%)	29 (21%)	29 (21%)	19 (14%)	12 (9%)	36 (26%)	137
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	10 (7%)	28 (18%)	32 (21%)	18 (12%)	20 (13%)	44 (29%)	152
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	12 (9%)	27 (20%)	32 (23%)	15 (11%)	14 (10%)	37 (27%)	137
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	13 (9%)	29 (21%)	29 (21%)	16 (11%)	15 (11%)	38 (27%)	140
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	11 (8%)	26 (18%)	31 (22%)	18 (13%)	16 (11%)	41 (29%)	143
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	12 (8%)	24 (17%)	31 (21%)	19 (13%)	17 (12%)	42 (29%)	145
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	6 (6%)	11 (11%)	19 (19%)	18 (18%)	11 (11%)	36 (36%)	101
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	12 (8%)	33 (22%)	29 (19%)	19 (13%)	15 (10%)	43 (28%)	151
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	11 (8%)	26 (18%)	30 (21%)	17 (12%)	16 (11%)	45 (31%)	145
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	6 (6%)	18 (18%)	22 (22%)	13 (13%)	8 (8%)	33 (33%)	100
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	12 (8%)	23 (16%)	30 (21%)	21 (15%)	14 (10%)	42 (30%)	142
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	8 (7%)	22 (18%)	22 (18%)	17 (14%)	14 (12%)	38 (31%)	121

職種別_人リスト_株式会社

OT	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	68	(25%)	95	(35%)	59	(22%)	20	(7%)	12	(4%)	20	(7%)	274
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	67	(24%)	93	(34%)	61	(22%)	20	(7%)	12	(4%)	21	(8%)	274
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	67	(24%)	96	(34%)	61	(22%)	22	(8%)	12	(4%)	25	(9%)	283
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	68	(25%)	93	(34%)	58	(21%)	21	(8%)	12	(4%)	21	(8%)	273
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	62	(23%)	95	(35%)	57	(21%)	22	(8%)	13	(5%)	20	(7%)	269
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	65	(24%)	91	(34%)	57	(21%)	22	(8%)	13	(5%)	23	(8%)	271
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	60	(22%)	92	(34%)	60	(22%)	22	(8%)	12	(4%)	24	(9%)	270
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	35	(18%)	57	(30%)	46	(24%)	20	(11%)	13	(7%)	19	(10%)	190
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	66	(23%)	98	(35%)	60	(21%)	22	(8%)	13	(5%)	22	(8%)	281
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	72	(25%)	94	(33%)	60	(21%)	22	(8%)	12	(4%)	24	(8%)	284
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	30	(19%)	50	(31%)	37	(23%)	15	(9%)	7	(4%)	20	(13%)	159
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	64	(24%)	93	(35%)	55	(21%)	22	(8%)	11	(4%)	22	(8%)	267
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	46	(21%)	72	(33%)	45	(21%)	21	(10%)	8	(4%)	24	(11%)	216

職種別_人リスト_NPO法人

OT	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	6	(9%)	16	(24%)	10	(15%)	7	(11%)	5	(8%)	22	(33%)	66
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	6	(9%)	16	(23%)	10	(14%)	7	(10%)	6	(9%)	24	(35%)	69
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	6	(8%)	15	(21%)	12	(17%)	7	(10%)	7	(10%)	25	(35%)	72
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	6	(9%)	15	(23%)	11	(17%)	6	(9%)	6	(9%)	22	(33%)	66
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	6	(9%)	14	(21%)	9	(13%)	8	(12%)	6	(9%)	24	(36%)	67
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	6	(9%)	14	(20%)	11	(16%)	8	(11%)	6	(9%)	25	(36%)	70
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	5	(7%)	13	(19%)	11	(16%)	7	(10%)	6	(9%)	25	(37%)	67
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	2	(4%)	10	(19%)	7	(13%)	8	(15%)	4	(8%)	22	(42%)	53
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	5	(7%)	16	(23%)	11	(15%)	8	(11%)	6	(8%)	25	(35%)	71
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	6	(8%)	16	(22%)	11	(15%)	8	(11%)	6	(8%)	25	(35%)	72
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	3	(6%)	12	(24%)	6	(12%)	7	(14%)	6	(12%)	17	(33%)	51
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	6	(9%)	16	(24%)	7	(11%)	8	(12%)	6	(9%)	23	(35%)	66
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	5	(9%)	11	(20%)	7	(13%)	7	(13%)	5	(9%)	20	(36%)	55

職種別_人リスト_合同会社

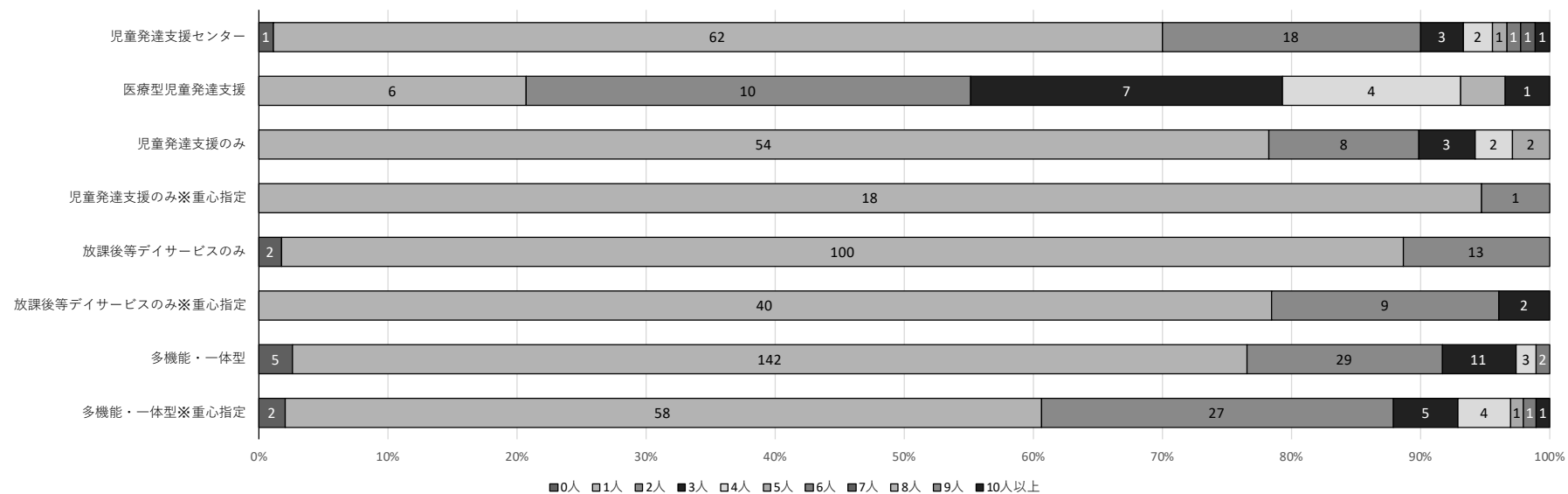
OT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	8 (18%)	20 (44%)	5 (11%)	7 (16%)	1 (2%)	4 (9%)	45
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	7 (16%)	19 (43%)	5 (11%)	7 (16%)	1 (2%)	5 (11%)	44
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	7 (15%)	21 (45%)	5 (11%)	7 (15%)	1 (2%)	6 (13%)	47
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	7 (15%)	22 (48%)	4 (9%)	7 (15%)	1 (2%)	5 (11%)	46
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	7 (16%)	19 (42%)	5 (11%)	7 (16%)	1 (2%)	6 (13%)	45
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	7 (16%)	19 (42%)	4 (9%)	7 (16%)	1 (2%)	7 (16%)	45
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	7 (16%)	20 (44%)	5 (11%)	6 (13%)	1 (2%)	6 (13%)	45
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	7 (23%)	9 (29%)	4 (13%)	5 (16%)	1 (3%)	5 (16%)	31
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	7 (15%)	21 (45%)	5 (11%)	6 (13%)	1 (2%)	7 (15%)	47
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	8 (17%)	21 (44%)	5 (10%)	6 (13%)	1 (2%)	7 (15%)	48
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	5 (17%)	14 (48%)	3 (10%)	3 (10%)	1 (3%)	3 (10%)	29
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	7 (16%)	19 (43%)	3 (7%)	7 (16%)	1 (2%)	7 (16%)	44
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	5 (14%)	16 (46%)	3 (9%)	6 (17%)	1 (3%)	4 (11%)	35

職種別_人リスト_一般社団法人

OT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、OT（作業療法士）としての専門性を発揮している	5 (12%)	11 (26%)	10 (23%)	3 (7%)	6 (14%)	8 (19%)	43
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、OT（作業療法士）の視点から提案している	6 (14%)	11 (25%)	11 (25%)	3 (7%)	6 (14%)	7 (16%)	44
③事業所内において、必要な時に、OT（作業療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	6 (13%)	12 (26%)	10 (21%)	4 (9%)	7 (15%)	8 (17%)	47
④ OT（作業療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	4 (10%)	10 (24%)	11 (27%)	3 (7%)	6 (15%)	7 (17%)	41
⑤ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	5 (11%)	10 (23%)	10 (23%)	4 (9%)	7 (16%)	8 (18%)	44
⑥ OT（作業療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	5 (11%)	11 (24%)	12 (26%)	3 (7%)	7 (15%)	8 (17%)	46
⑦保護者に対して、OT（作業療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	6 (13%)	10 (22%)	10 (22%)	4 (9%)	7 (16%)	8 (18%)	45
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	5 (16%)	6 (19%)	6 (19%)	4 (13%)	5 (16%)	6 (19%)	32
⑨ADL（日常生活動作）や活動の様子を観察し、疾患や障害特性と関連させて適切な支援を行っている	6 (14%)	11 (25%)	9 (20%)	3 (7%)	7 (16%)	8 (18%)	44
⑩運動・感覚・遊び・情緒・認知・社会性を俯瞰的に評価し、適切な支援を行っている	6 (13%)	13 (28%)	9 (20%)	3 (7%)	7 (15%)	8 (17%)	46
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を生活場面に導入する支援を行っている	3 (11%)	5 (19%)	5 (19%)	3 (11%)	4 (15%)	7 (26%)	27
⑫子どもの生理的な状況を理解し、適切な環境設定に配慮した生活場面を提供できる	4 (9%)	12 (27%)	10 (23%)	3 (7%)	7 (16%)	8 (18%)	44
⑬変形・拘縮などに対して適切に評価して、子どもの適切な生活環境を整えることができる	3 (9%)	7 (21%)	7 (21%)	3 (9%)	6 (18%)	8 (24%)	34

(4) PT (理学療法士)

障害児支援を行う PT (理学療法士) の数



PT	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等デイサービスののみ	放課後等デイサービスののみ※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
0人	10 (2%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)	5 (3%)	2 (2%)
1人	481 (72%)	62 (69%)	6 (21%)	54 (78%)	18 (95%)	100 (87%)	40 (78%)	142 (74%)	58 (59%)
2人	116 (17%)	18 (20%)	10 (34%)	8 (12%)	1 (5%)	13 (11%)	9 (18%)	29 (15%)	27 (27%)
3人	31 (5%)	3 (3%)	7 (24%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	11 (6%)	5 (5%)
4人	15 (2%)	2 (2%)	4 (14%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	4 (4%)
5人	4 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)
6人	4 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	1 (1%)
7人	1 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
8人	1 (0%)	0 (0%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
9人	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
10人以上	3 (0%)	1 (1%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)
合計	666 (100%)	90 (100%)	29 (100%)	69 (100%)	19 (100%)	115 (100%)	51 (100%)	192 (100%)	99 (100%)

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（PT（理学療法士））が該当しますか。

PT	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	132	(24%)	137	(24%)	89	(16%)	64	(11%)	23	(4%)	115	(21%)	560
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	128	(22%)	142	(25%)	88	(15%)	68	(12%)	26	(5%)	118	(21%)	570
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	134	(21%)	152	(24%)	86	(14%)	74	(12%)	29	(5%)	151	(24%)	626
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	130	(22%)	142	(24%)	84	(14%)	71	(12%)	28	(5%)	132	(22%)	587
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	125	(21%)	146	(25%)	86	(15%)	70	(12%)	26	(4%)	136	(23%)	589
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	124	(21%)	143	(24%)	91	(15%)	71	(12%)	29	(5%)	143	(24%)	601
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	120	(20%)	145	(24%)	86	(14%)	70	(12%)	32	(5%)	141	(24%)	594
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	73	(18%)	99	(24%)	56	(14%)	57	(14%)	23	(6%)	103	(25%)	411
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	137	(22%)	155	(25%)	89	(14%)	72	(11%)	32	(5%)	145	(23%)	630
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	139	(22%)	159	(25%)	89	(14%)	72	(11%)	30	(5%)	144	(23%)	633
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	73	(16%)	97	(22%)	64	(14%)	60	(13%)	23	(5%)	129	(29%)	446
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	47	(13%)	73	(21%)	51	(15%)	49	(14%)	22	(6%)	108	(31%)	350
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	80	(16%)	116	(23%)	73	(15%)	66	(13%)	28	(6%)	132	(27%)	495

【事業形態別】

職種別_別リスト_児童発達支援センター

PT	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	12	(17%)	11	(16%)	13	(19%)	8	(12%)	6	(9%)	19	(28%)	69
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	12	(16%)	12	(16%)	13	(18%)	7	(9%)	8	(11%)	22	(30%)	74
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	12	(14%)	13	(15%)	12	(14%)	10	(11%)	10	(11%)	31	(35%)	88
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	10	(13%)	10	(13%)	13	(17%)	10	(13%)	9	(12%)	25	(32%)	77
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	12	(15%)	11	(14%)	13	(16%)	10	(12%)	8	(10%)	27	(33%)	81
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	11	(13%)	13	(16%)	13	(16%)	10	(12%)	8	(10%)	28	(34%)	83
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	10	(11%)	12	(14%)	14	(16%)	10	(11%)	11	(13%)	30	(34%)	87
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	8	(12%)	9	(14%)	8	(12%)	8	(12%)	8	(12%)	24	(37%)	65
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	12	(14%)	13	(15%)	14	(16%)	9	(10%)	9	(10%)	31	(35%)	88
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	13	(14%)	14	(16%)	14	(16%)	9	(10%)	9	(10%)	31	(34%)	90
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	6	(8%)	11	(15%)	11	(15%)	10	(14%)	7	(10%)	28	(38%)	73
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	4	(8%)	8	(15%)	7	(13%)	7	(13%)	5	(9%)	22	(42%)	53
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	7	(9%)	10	(13%)	12	(16%)	10	(13%)	8	(10%)	30	(39%)	77

職種別_別リスト_医療型・重症児

PT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	19 (12%)	27 (17%)	35 (22%)	21 (13%)	8 (5%)	51 (32%)	161
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	17 (10%)	28 (17%)	35 (21%)	25 (15%)	9 (5%)	51 (31%)	165
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	24 (12%)	32 (17%)	34 (18%)	28 (15%)	9 (5%)	66 (34%)	193
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	23 (13%)	29 (16%)	34 (19%)	23 (13%)	9 (5%)	59 (33%)	177
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	19 (10%)	34 (19%)	35 (19%)	22 (12%)	9 (5%)	62 (34%)	181
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	17 (9%)	30 (16%)	37 (20%)	24 (13%)	10 (5%)	64 (35%)	182
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	15 (9%)	30 (17%)	34 (20%)	23 (13%)	11 (6%)	60 (35%)	173
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	8 (7%)	16 (15%)	22 (20%)	15 (14%)	7 (6%)	41 (38%)	109
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	24 (12%)	33 (17%)	37 (19%)	25 (13%)	11 (6%)	64 (33%)	194
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	25 (13%)	37 (19%)	35 (18%)	25 (13%)	9 (5%)	62 (32%)	193
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	17 (10%)	22 (13%)	31 (19%)	23 (14%)	9 (5%)	63 (38%)	165
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	17 (11%)	21 (13%)	29 (19%)	22 (14%)	11 (7%)	56 (36%)	156
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	23 (12%)	35 (18%)	37 (19%)	26 (13%)	10 (5%)	64 (33%)	195

職種別_別リスト_児童発達支援のみ※重症児除く

PT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	21 (36%)	14 (24%)	8 (14%)	4 (7%)	0 (0%)	11 (19%)	58
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	19 (33%)	14 (25%)	8 (14%)	4 (7%)	0 (0%)	12 (21%)	57
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	17 (27%)	17 (27%)	8 (13%)	4 (6%)	0 (0%)	16 (26%)	62
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	18 (30%)	17 (28%)	7 (12%)	5 (8%)	0 (0%)	13 (22%)	60
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	19 (31%)	17 (27%)	7 (11%)	5 (8%)	0 (0%)	14 (23%)	62
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	17 (27%)	18 (29%)	9 (14%)	4 (6%)	0 (0%)	15 (24%)	63
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	16 (25%)	18 (28%)	9 (14%)	4 (6%)	0 (0%)	17 (27%)	64
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	8 (19%)	15 (35%)	6 (14%)	5 (12%)	0 (0%)	9 (21%)	43
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	18 (27%)	20 (30%)	7 (11%)	4 (6%)	0 (0%)	17 (26%)	66
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	20 (30%)	19 (28%)	7 (10%)	4 (6%)	0 (0%)	17 (25%)	67
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	4 (13%)	8 (27%)	5 (17%)	2 (7%)	0 (0%)	11 (37%)	30
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	2 (10%)	8 (38%)	3 (14%)	1 (5%)	0 (0%)	7 (33%)	21
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	4 (14%)	10 (34%)	4 (14%)	1 (3%)	0 (0%)	10 (34%)	29

職種別_別リスト_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

PT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	25 (25%)	40 (40%)	15 (15%)	11 (11%)	1 (1%)	9 (9%)	101
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	25 (25%)	40 (40%)	15 (15%)	11 (11%)	1 (1%)	9 (9%)	101
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	26 (25%)	40 (39%)	14 (14%)	11 (11%)	1 (1%)	11 (11%)	103
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	25 (25%)	38 (38%)	13 (13%)	11 (11%)	1 (1%)	11 (11%)	99
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	25 (26%)	36 (37%)	13 (13%)	11 (11%)	1 (1%)	11 (11%)	97
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	26 (27%)	34 (35%)	14 (14%)	11 (11%)	2 (2%)	11 (11%)	98
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	23 (25%)	36 (39%)	12 (13%)	11 (12%)	1 (1%)	10 (11%)	93
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	12 (19%)	25 (40%)	5 (8%)	11 (17%)	1 (2%)	9 (14%)	63
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	26 (26%)	39 (39%)	13 (13%)	11 (11%)	3 (3%)	9 (9%)	101
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	26 (25%)	40 (39%)	14 (14%)	11 (11%)	3 (3%)	9 (9%)	103
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	17 (26%)	25 (38%)	8 (12%)	7 (11%)	1 (2%)	7 (11%)	65
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	7 (17%)	17 (41%)	4 (10%)	5 (12%)	0 (0%)	8 (20%)	41
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	17 (24%)	27 (38%)	10 (14%)	8 (11%)	2 (3%)	8 (11%)	72

職種別_別リスト_多機能・一体型※重症児除く

PT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	55 (33%)	45 (27%)	18 (11%)	18 (11%)	8 (5%)	25 (15%)	169
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	55 (32%)	48 (28%)	17 (10%)	19 (11%)	8 (5%)	24 (14%)	171
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	55 (31%)	50 (28%)	18 (10%)	19 (11%)	9 (5%)	27 (15%)	178
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	54 (31%)	48 (28%)	17 (10%)	20 (12%)	9 (5%)	24 (14%)	172
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	50 (30%)	48 (29%)	18 (11%)	20 (12%)	8 (5%)	22 (13%)	166
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	53 (31%)	48 (28%)	18 (10%)	20 (12%)	9 (5%)	25 (14%)	173
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	56 (32%)	49 (28%)	17 (10%)	20 (11%)	9 (5%)	24 (14%)	175
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	37 (29%)	34 (26%)	15 (12%)	16 (12%)	7 (5%)	20 (16%)	129
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	57 (32%)	50 (28%)	18 (10%)	21 (12%)	9 (5%)	24 (13%)	179
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	55 (31%)	49 (28%)	19 (11%)	21 (12%)	9 (5%)	25 (14%)	178
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	29 (26%)	31 (28%)	9 (8%)	16 (14%)	6 (5%)	20 (18%)	111
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	17 (22%)	19 (25%)	8 (10%)	12 (16%)	6 (8%)	15 (19%)	77
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	29 (24%)	34 (28%)	10 (8%)	19 (16%)	8 (7%)	20 (17%)	120

【運営法人別】

職種別_人リスト_自治体

PT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	3 (7%)	5 (12%)	2 (5%)	7 (17%)	3 (7%)	22 (52%)	42
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	3 (7%)	5 (11%)	2 (4%)	7 (16%)	4 (9%)	24 (53%)	45
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	3 (5%)	6 (10%)	3 (5%)	6 (10%)	7 (12%)	33 (57%)	58
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	4 (8%)	6 (11%)	3 (6%)	8 (15%)	7 (13%)	25 (47%)	53
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	4 (8%)	6 (11%)	3 (6%)	7 (13%)	6 (11%)	27 (51%)	53
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	3 (5%)	6 (11%)	3 (5%)	7 (13%)	6 (11%)	31 (55%)	56
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	3 (5%)	5 (9%)	4 (7%)	7 (12%)	7 (12%)	32 (55%)	58
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	3 (6%)	4 (9%)	2 (4%)	5 (11%)	7 (15%)	26 (55%)	47
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	4 (7%)	5 (8%)	5 (8%)	6 (10%)	7 (12%)	32 (54%)	59
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	4 (7%)	6 (10%)	5 (8%)	6 (10%)	7 (12%)	31 (53%)	59
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	2 (4%)	5 (10%)	4 (8%)	6 (12%)	6 (12%)	28 (55%)	51
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	2 (6%)	5 (14%)	1 (3%)	4 (11%)	4 (11%)	20 (56%)	36
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	3 (6%)	4 (8%)	5 (9%)	5 (9%)	7 (13%)	29 (55%)	53

職種別_人リスト_社会福祉法人

PT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	13 (12%)	23 (21%)	29 (27%)	17 (16%)	4 (4%)	23 (21%)	109
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	13 (11%)	24 (21%)	29 (25%)	18 (16%)	6 (5%)	25 (22%)	115
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	14 (11%)	26 (20%)	30 (23%)	21 (16%)	6 (5%)	32 (25%)	129
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	13 (12%)	21 (19%)	28 (25%)	16 (14%)	5 (4%)	30 (27%)	113
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	13 (11%)	23 (20%)	28 (24%)	16 (14%)	6 (5%)	31 (26%)	117
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	13 (11%)	23 (19%)	29 (24%)	18 (15%)	6 (5%)	31 (26%)	120
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	12 (10%)	23 (19%)	26 (22%)	19 (16%)	9 (8%)	30 (25%)	119
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	6 (7%)	18 (22%)	16 (20%)	13 (16%)	6 (7%)	22 (27%)	81
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	14 (11%)	28 (22%)	29 (23%)	18 (14%)	7 (5%)	32 (25%)	128
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	14 (11%)	28 (22%)	29 (22%)	19 (15%)	6 (5%)	33 (26%)	129
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	9 (8%)	22 (21%)	22 (21%)	20 (19%)	4 (4%)	30 (28%)	107
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	4 (5%)	12 (15%)	18 (22%)	16 (20%)	5 (6%)	27 (33%)	82
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	11 (10%)	23 (20%)	23 (20%)	20 (18%)	4 (4%)	33 (29%)	114

職種別_人リスト_株式会社

PT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	79 (34%)	79 (34%)	34 (15%)	26 (11%)	6 (3%)	10 (4%)	234
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	75 (32%)	82 (35%)	34 (15%)	27 (12%)	6 (3%)	10 (4%)	234
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	81 (33%)	85 (35%)	32 (13%)	27 (11%)	6 (2%)	13 (5%)	244
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	78 (33%)	84 (35%)	31 (13%)	27 (11%)	6 (3%)	12 (5%)	238
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	73 (31%)	87 (37%)	31 (13%)	26 (11%)	5 (2%)	12 (5%)	234
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	75 (32%)	84 (35%)	33 (14%)	27 (11%)	6 (3%)	12 (5%)	237
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	74 (31%)	85 (36%)	32 (14%)	26 (11%)	6 (3%)	12 (5%)	235
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	47 (28%)	57 (35%)	21 (13%)	24 (15%)	5 (3%)	11 (7%)	165
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	83 (34%)	86 (35%)	32 (13%)	27 (11%)	6 (2%)	11 (4%)	245
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	81 (33%)	87 (36%)	32 (13%)	27 (11%)	6 (2%)	11 (5%)	244
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	42 (29%)	51 (35%)	19 (13%)	19 (13%)	4 (3%)	10 (7%)	145
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	27 (23%)	44 (37%)	18 (15%)	15 (13%)	4 (3%)	10 (8%)	118
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	46 (27%)	63 (37%)	26 (15%)	23 (13%)	5 (3%)	9 (5%)	172

職種別_人リスト_NPO法人

PT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	7 (13%)	7 (13%)	8 (15%)	6 (11%)	5 (9%)	22 (40%)	55
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	8 (14%)	7 (13%)	8 (14%)	6 (11%)	5 (9%)	22 (39%)	56
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	7 (11%)	10 (15%)	6 (9%)	7 (11%)	6 (9%)	29 (45%)	65
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	8 (13%)	7 (12%)	7 (12%)	7 (12%)	6 (10%)	25 (42%)	60
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	6 (11%)	7 (13%)	8 (15%)	6 (11%)	5 (9%)	23 (42%)	55
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	5 (8%)	7 (12%)	8 (14%)	6 (10%)	7 (12%)	26 (44%)	59
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	6 (10%)	5 (9%)	7 (12%)	6 (10%)	6 (10%)	28 (48%)	58
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	3 (9%)	3 (9%)	4 (12%)	7 (21%)	2 (6%)	15 (44%)	34
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	8 (13%)	7 (11%)	8 (13%)	6 (9%)	8 (13%)	27 (42%)	64
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	8 (12%)	9 (14%)	8 (12%)	6 (9%)	7 (11%)	27 (42%)	65
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	4 (8%)	6 (12%)	7 (14%)	6 (12%)	6 (12%)	21 (42%)	50
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	2 (5%)	3 (8%)	4 (11%)	5 (14%)	4 (11%)	19 (51%)	37
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	5 (10%)	7 (13%)	6 (12%)	6 (12%)	8 (15%)	20 (38%)	52

職種別_人リスト_合同会社

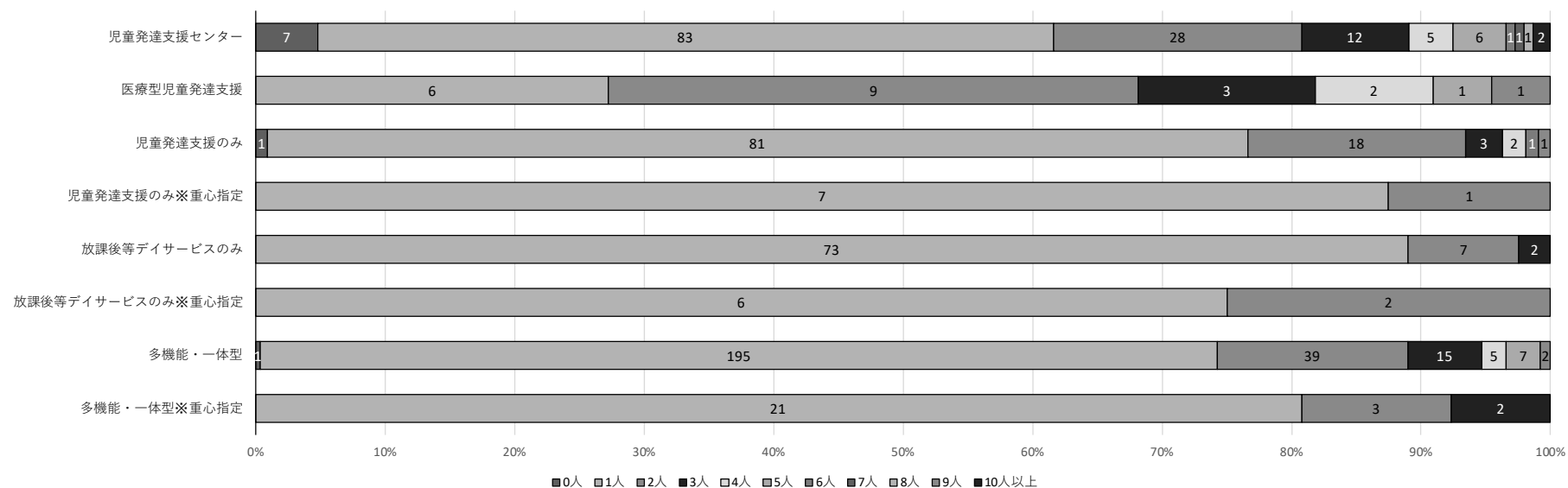
PT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	13 (30%)	13 (30%)	7 (16%)	2 (5%)	1 (2%)	7 (16%)	43
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	13 (30%)	13 (30%)	6 (14%)	3 (7%)	1 (2%)	7 (16%)	43
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	12 (27%)	13 (29%)	6 (13%)	5 (11%)	1 (2%)	8 (18%)	45
④PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	11 (26%)	12 (29%)	5 (12%)	6 (14%)	1 (2%)	7 (17%)	42
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	11 (26%)	12 (28%)	5 (12%)	6 (14%)	1 (2%)	8 (19%)	43
⑥PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	11 (26%)	12 (29%)	6 (14%)	4 (10%)	1 (2%)	8 (19%)	42
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	10 (24%)	12 (29%)	7 (17%)	4 (10%)	1 (2%)	8 (19%)	42
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	6 (21%)	9 (32%)	4 (14%)	2 (7%)	0 (0%)	7 (25%)	28
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	10 (23%)	14 (32%)	6 (14%)	5 (11%)	1 (2%)	8 (18%)	44
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	11 (24%)	14 (31%)	6 (13%)	5 (11%)	1 (2%)	8 (18%)	45
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	7 (25%)	6 (21%)	2 (7%)	4 (14%)	1 (4%)	8 (29%)	28
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	6 (26%)	4 (17%)	2 (9%)	4 (17%)	1 (4%)	6 (26%)	23
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	7 (23%)	7 (23%)	3 (10%)	4 (13%)	1 (3%)	8 (27%)	30

職種別_人リスト_一般社団法人

PT	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、PT（理学療法士）としての専門性を発揮している	10 (27%)	4 (11%)	5 (14%)	2 (5%)	0 (0%)	16 (43%)	37
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、PT（理学療法士）の視点から提案している	10 (26%)	5 (13%)	5 (13%)	3 (8%)	0 (0%)	15 (39%)	38
③事業所内において、必要な時に、PT（理学療法士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	10 (28%)	4 (11%)	4 (11%)	3 (8%)	0 (0%)	15 (42%)	36
④ PT（理学療法士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	9 (27%)	4 (12%)	5 (15%)	2 (6%)	0 (0%)	13 (39%)	33
⑤PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	11 (28%)	4 (10%)	5 (13%)	3 (8%)	0 (0%)	16 (41%)	39
⑥ PT（理学療法士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	11 (28%)	5 (13%)	5 (13%)	3 (8%)	0 (0%)	16 (40%)	40
⑦保護者に対して、PT（理学療法士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	10 (28%)	6 (17%)	5 (14%)	2 (6%)	0 (0%)	13 (36%)	36
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	7 (29%)	3 (13%)	4 (17%)	1 (4%)	0 (0%)	9 (38%)	24
⑨心身機能・運動発達について、適切な支援を行っている	9 (23%)	6 (15%)	5 (13%)	3 (8%)	0 (0%)	16 (41%)	39
⑩生活における姿勢保持について、適切な支援を行っている	11 (27%)	6 (15%)	5 (12%)	3 (7%)	0 (0%)	16 (39%)	41
⑪車いす、IT機器、コミュニケーションツール等、代替機器を活用して適切な支援を行っている	5 (18%)	3 (11%)	5 (18%)	1 (4%)	0 (0%)	14 (50%)	28
⑫呼吸管理が必要な子どもに対して適切に支援を行っている	4 (17%)	2 (8%)	4 (17%)	1 (4%)	0 (0%)	13 (54%)	24
⑬変形・拘縮がある子どもの身体管理を適切に行っている	4 (13%)	4 (13%)	5 (17%)	2 (7%)	0 (0%)	15 (50%)	30

(5) ST（言語聴覚士）

障害児支援を行う ST（言語聴覚士）の数



ST	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等デイサービスのみ	放課後等デイサービスのみ※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
0人	9 (1%)	7 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)
1人	473 (71%)	83 (57%)	6 (27%)	81 (76%)	7 (88%)	73 (89%)	6 (75%)	195 (74%)	21 (81%)
2人	107 (16%)	28 (19%)	9 (41%)	18 (17%)	1 (13%)	7 (9%)	2 (25%)	39 (15%)	3 (12%)
3人	37 (6%)	12 (8%)	3 (14%)	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)	15 (6%)	2 (8%)
4人	14 (2%)	5 (3%)	2 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (2%)	0 (0%)
5人	14 (2%)	6 (4%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (3%)	0 (0%)
6人	2 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
7人	1 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
8人	1 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
9人	4 (1%)	0 (0%)	1 (5%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	0 (0%)
10人以上	2 (0%)	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	664 (100%)	146 (100%)	22 (100%)	107 (100%)	8 (100%)	82 (100%)	8 (100%)	264 (100%)	26 (100%)

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（ST（言語聴覚士））が該当しますか。

ST	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	73	(13%)	139	(25%)	82	(15%)	73	(13%)	44	(8%)	139	(25%)	550
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	68	(12%)	137	(25%)	88	(16%)	71	(13%)	49	(9%)	146	(26%)	559
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	72	(11%)	130	(21%)	96	(15%)	83	(13%)	53	(8%)	195	(31%)	629
④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	77	(13%)	133	(22%)	96	(16%)	82	(14%)	45	(7%)	170	(28%)	603
⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	76	(12%)	139	(23%)	92	(15%)	84	(14%)	48	(8%)	178	(29%)	617
⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	71	(11%)	132	(21%)	97	(16%)	79	(13%)	51	(8%)	189	(31%)	619
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	65	(11%)	133	(22%)	98	(16%)	82	(13%)	52	(8%)	188	(30%)	618
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	36	(8%)	93	(20%)	74	(16%)	67	(15%)	42	(9%)	148	(32%)	460
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	76	(12%)	135	(22%)	95	(15%)	80	(13%)	50	(8%)	188	(30%)	624
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	75	(12%)	134	(21%)	101	(16%)	84	(13%)	53	(8%)	189	(30%)	636
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	50	(10%)	102	(21%)	77	(16%)	67	(14%)	35	(7%)	153	(32%)	484
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	21	(9%)	45	(18%)	31	(13%)	40	(16%)	20	(8%)	89	(36%)	246
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	16	(9%)	40	(22%)	23	(12%)	32	(17%)	12	(6%)	63	(34%)	186
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	14	(9%)	37	(24%)	22	(14%)	26	(17%)	10	(7%)	43	(28%)	152

【事業形態別】

職種別_別リスト_児童発達支援センター

ST	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	9	(9%)	17	(17%)	14	(14%)	18	(18%)	15	(15%)	28	(28%)	101
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	9	(8%)	17	(15%)	18	(16%)	16	(14%)	18	(16%)	33	(30%)	111
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	9	(6%)	16	(11%)	22	(16%)	18	(13%)	20	(14%)	56	(40%)	141
④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	13	(10%)	19	(15%)	19	(15%)	19	(15%)	17	(13%)	42	(33%)	129
⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	12	(9%)	18	(13%)	20	(15%)	21	(16%)	17	(13%)	46	(34%)	134
⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	10	(7%)	19	(14%)	19	(14%)	17	(13%)	19	(14%)	52	(38%)	136
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	9	(6%)	20	(14%)	19	(13%)	18	(13%)	21	(15%)	54	(38%)	141
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	3	(3%)	13	(12%)	16	(15%)	15	(14%)	17	(16%)	43	(40%)	107
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	11	(8%)	18	(13%)	17	(13%)	19	(14%)	20	(15%)	51	(38%)	136
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	11	(8%)	17	(12%)	20	(14%)	19	(14%)	21	(15%)	52	(37%)	140
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	7	(6%)	12	(11%)	15	(14%)	20	(18%)	15	(14%)	42	(38%)	111
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	4	(6%)	10	(16%)	5	(8%)	11	(17%)	11	(17%)	22	(35%)	63
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	2	(4%)	9	(18%)	6	(12%)	9	(18%)	6	(12%)	19	(37%)	51
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	1	(3%)	6	(19%)	3	(9%)	7	(22%)	6	(19%)	9	(28%)	32

職種別_別リスト_医療型・重症児

ST	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	1 (2%)	7 (15%)	10 (21%)	9 (19%)	5 (11%)	15 (32%)	47
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	0 (0%)	6 (13%)	11 (23%)	9 (19%)	5 (10%)	17 (35%)	48
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	1 (2%)	7 (11%)	11 (17%)	12 (19%)	5 (8%)	28 (44%)	64
④ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	2 (3%)	8 (14%)	10 (17%)	11 (19%)	3 (5%)	24 (41%)	58
⑤ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	1 (2%)	10 (18%)	11 (19%)	9 (16%)	4 (7%)	22 (39%)	57
⑥ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	1 (2%)	7 (12%)	14 (23%)	9 (15%)	4 (7%)	25 (42%)	60
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	1 (2%)	7 (11%)	14 (23%)	11 (18%)	4 (7%)	24 (39%)	61
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	0 (0%)	3 (7%)	11 (24%)	9 (20%)	3 (7%)	20 (43%)	46
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	3 (5%)	5 (8%)	13 (21%)	12 (19%)	4 (6%)	26 (41%)	63
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	3 (5%)	6 (10%)	13 (21%)	10 (16%)	4 (6%)	26 (42%)	62
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	2 (4%)	6 (11%)	11 (20%)	9 (17%)	3 (6%)	23 (43%)	54
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	0 (0%)	4 (13%)	6 (19%)	5 (16%)	2 (6%)	15 (47%)	32
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	1 (4%)	6 (21%)	4 (14%)	4 (14%)	2 (7%)	11 (39%)	28
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	0 (0%)	1 (5%)	6 (32%)	4 (21%)	1 (5%)	7 (37%)	19

職種別_別リスト_児童発達支援のみ※重症児除く

ST	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	13	(14%)	24	(26%)	16	(17%)	6	(6%)	8	(9%)	26	(28%)	93
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	14	(15%)	24	(26%)	16	(17%)	6	(6%)	8	(9%)	25	(27%)	93
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	16	(15%)	23	(22%)	18	(17%)	8	(8%)	8	(8%)	31	(30%)	104
④ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	17	(17%)	21	(21%)	19	(19%)	7	(7%)	7	(7%)	27	(28%)	98
⑤ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	17	(16%)	24	(23%)	17	(16%)	8	(8%)	8	(8%)	30	(29%)	104
⑥ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	17	(16%)	23	(22%)	19	(18%)	8	(8%)	8	(8%)	30	(29%)	105
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	15	(14%)	23	(22%)	18	(17%)	9	(9%)	8	(8%)	31	(30%)	104
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	8	(12%)	15	(22%)	12	(17%)	7	(10%)	6	(9%)	21	(30%)	69
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	15	(15%)	23	(23%)	18	(18%)	6	(6%)	8	(8%)	31	(31%)	101
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	16	(15%)	22	(21%)	19	(18%)	9	(8%)	9	(8%)	31	(29%)	106
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	6	(9%)	14	(21%)	13	(20%)	3	(5%)	6	(9%)	24	(36%)	66
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	5	(15%)	3	(9%)	3	(9%)	4	(12%)	2	(6%)	16	(48%)	33
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	4	(17%)	4	(17%)	2	(9%)	2	(9%)	1	(4%)	10	(43%)	23
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	3	(19%)	4	(25%)	2	(13%)	1	(6%)	0	(0%)	6	(38%)	16

職種別_別リスト_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

ST	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	12	(17%)	25	(36%)	4	(6%)	9	(13%)	4	(6%)	16	(23%)	70
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	9	(13%)	25	(37%)	5	(7%)	9	(13%)	4	(6%)	16	(24%)	68
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	10	(14%)	25	(36%)	4	(6%)	9	(13%)	4	(6%)	17	(25%)	69
④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	10	(15%)	24	(36%)	4	(6%)	9	(13%)	4	(6%)	16	(24%)	67
⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	10	(15%)	24	(36%)	3	(4%)	8	(12%)	4	(6%)	18	(27%)	67
⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	9	(14%)	24	(37%)	3	(5%)	8	(12%)	4	(6%)	17	(26%)	65
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	10	(15%)	23	(35%)	3	(5%)	8	(12%)	4	(6%)	17	(26%)	65
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	4	(10%)	17	(40%)	3	(7%)	5	(12%)	4	(10%)	9	(21%)	42
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	12	(17%)	25	(36%)	3	(4%)	8	(11%)	4	(6%)	18	(26%)	70
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	11	(15%)	26	(36%)	5	(7%)	8	(11%)	4	(6%)	18	(25%)	72
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	9	(16%)	21	(38%)	4	(7%)	7	(13%)	2	(4%)	12	(22%)	55
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	2	(8%)	12	(46%)	2	(8%)	3	(12%)	1	(4%)	6	(23%)	26
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	2	(9%)	9	(41%)	1	(5%)	3	(14%)	1	(5%)	6	(27%)	22
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	1	(5%)	11	(52%)	1	(5%)	2	(10%)	1	(5%)	5	(24%)	21

職種別_別リスト_多機能・一体型※重症児除く

ST	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	38	(16%)	66	(28%)	38	(16%)	31	(13%)	12	(5%)	53	(22%)	238
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	36	(15%)	65	(27%)	38	(16%)	31	(13%)	14	(6%)	54	(23%)	238
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	36	(14%)	59	(24%)	41	(16%)	36	(14%)	16	(6%)	62	(25%)	250
④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	35	(14%)	61	(24%)	44	(18%)	36	(14%)	14	(6%)	60	(24%)	250
⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	36	(14%)	63	(25%)	41	(16%)	38	(15%)	15	(6%)	61	(24%)	254
⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	34	(13%)	59	(23%)	42	(17%)	37	(15%)	16	(6%)	64	(25%)	252
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	30	(12%)	60	(24%)	44	(18%)	36	(15%)	15	(6%)	61	(25%)	246
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	21	(11%)	45	(23%)	32	(16%)	31	(16%)	12	(6%)	54	(28%)	195
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	35	(14%)	64	(25%)	44	(17%)	35	(14%)	14	(6%)	61	(24%)	253
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	34	(13%)	63	(25%)	44	(17%)	38	(15%)	15	(6%)	61	(24%)	255
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	26	(13%)	49	(25%)	34	(17%)	28	(14%)	9	(5%)	51	(26%)	197
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	10	(11%)	16	(18%)	15	(16%)	17	(19%)	4	(4%)	29	(32%)	91
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	7	(11%)	12	(20%)	10	(16%)	14	(23%)	2	(3%)	16	(26%)	61
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	9	(14%)	15	(24%)	10	(16%)	12	(19%)	2	(3%)	15	(24%)	63

【運営法人別】

職種別_人リスト_自治体

ST	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	1 (2%)	7 (16%)	6 (13%)	9 (20%)	3 (7%)	19 (42%)	45
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	1 (2%)	7 (13%)	8 (15%)	8 (15%)	4 (8%)	25 (47%)	53
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	1 (1%)	5 (7%)	11 (15%)	10 (13%)	5 (7%)	43 (57%)	75
④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	5 (8%)	6 (9%)	10 (15%)	8 (12%)	6 (9%)	31 (47%)	66
⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	4 (6%)	8 (11%)	9 (13%)	10 (14%)	5 (7%)	35 (49%)	71
⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	2 (3%)	9 (12%)	10 (14%)	9 (12%)	5 (7%)	38 (52%)	73
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	1 (1%)	10 (13%)	8 (11%)	11 (14%)	5 (7%)	41 (54%)	76
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	1 (2%)	5 (8%)	8 (13%)	9 (15%)	5 (8%)	33 (54%)	61
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	3 (4%)	8 (11%)	9 (12%)	9 (12%)	6 (8%)	38 (52%)	73
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	2 (3%)	6 (8%)	11 (15%)	11 (15%)	6 (8%)	39 (52%)	75
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	2 (4%)	3 (5%)	7 (13%)	8 (14%)	4 (7%)	32 (57%)	56
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	1 (3%)	3 (8%)	2 (6%)	8 (22%)	3 (8%)	19 (53%)	36
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	1 (3%)	3 (10%)	3 (10%)	5 (17%)	2 (7%)	16 (53%)	30
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	0 (0%)	3 (20%)	1 (7%)	3 (20%)	1 (7%)	7 (47%)	15

職種別_人リスト_社会福祉法人

ST	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	11 (8%)	19 (14%)	20 (15%)	21 (16%)	18 (14%)	44 (33%)	133
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	9 (7%)	16 (12%)	22 (17%)	21 (16%)	20 (15%)	43 (33%)	131
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	9 (6%)	18 (12%)	23 (15%)	25 (16%)	20 (13%)	61 (39%)	156
④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	9 (6%)	20 (13%)	23 (15%)	27 (18%)	15 (10%)	55 (37%)	149
⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	9 (6%)	21 (14%)	25 (16%)	25 (16%)	15 (10%)	57 (38%)	152
⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	9 (6%)	18 (12%)	25 (16%)	22 (14%)	18 (12%)	60 (39%)	152
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	9 (6%)	18 (12%)	25 (16%)	25 (16%)	19 (12%)	59 (38%)	155
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	4 (4%)	13 (11%)	19 (17%)	20 (18%)	15 (13%)	43 (38%)	114
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	11 (7%)	17 (11%)	23 (15%)	25 (16%)	18 (12%)	62 (40%)	156
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	11 (7%)	17 (11%)	25 (16%)	24 (15%)	19 (12%)	62 (39%)	158
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	8 (7%)	16 (13%)	16 (13%)	22 (18%)	14 (12%)	43 (36%)	119
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	4 (7%)	5 (9%)	8 (14%)	12 (21%)	9 (16%)	20 (34%)	58
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	3 (7%)	8 (18%)	6 (13%)	10 (22%)	4 (9%)	14 (31%)	45
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	2 (6%)	2 (6%)	5 (16%)	8 (26%)	5 (16%)	9 (29%)	31

職種別_人リスト_株式会社

ST	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	40	(22%)	64	(36%)	24	(13%)	23	(13%)	4	(2%)	25	(14%)	180
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	37	(21%)	64	(36%)	25	(14%)	23	(13%)	5	(3%)	26	(14%)	180
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	37	(20%)	62	(34%)	27	(15%)	25	(14%)	5	(3%)	27	(15%)	183
④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	36	(20%)	62	(35%)	26	(15%)	25	(14%)	4	(2%)	26	(15%)	179
⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	37	(20%)	63	(35%)	24	(13%)	25	(14%)	5	(3%)	28	(15%)	182
⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	36	(20%)	60	(33%)	26	(14%)	25	(14%)	6	(3%)	29	(16%)	182
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	34	(19%)	61	(34%)	29	(16%)	24	(13%)	5	(3%)	28	(15%)	181
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	24	(18%)	42	(32%)	20	(15%)	19	(15%)	6	(5%)	19	(15%)	130
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	35	(19%)	64	(35%)	28	(15%)	23	(13%)	5	(3%)	28	(15%)	183
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	36	(19%)	64	(34%)	28	(15%)	25	(13%)	6	(3%)	27	(15%)	186
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	26	(18%)	50	(35%)	23	(16%)	20	(14%)	2	(1%)	23	(16%)	144
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	12	(18%)	22	(33%)	9	(14%)	10	(15%)	2	(3%)	11	(17%)	66
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	10	(19%)	18	(33%)	5	(9%)	8	(15%)	2	(4%)	11	(20%)	54
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	10	(19%)	18	(34%)	7	(13%)	9	(17%)	0	(0%)	9	(17%)	53

職種別_人リスト_NPO法人

ST	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	3 (5%)	19 (29%)	7 (11%)	8 (12%)	8 (12%)	20 (31%)	65
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	3 (5%)	17 (26%)	7 (11%)	7 (11%)	8 (12%)	24 (36%)	66
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	4 (6%)	16 (23%)	8 (11%)	8 (11%)	8 (11%)	27 (38%)	71
④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	4 (6%)	18 (26%)	8 (11%)	8 (11%)	7 (10%)	25 (36%)	70
⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	4 (6%)	18 (26%)	6 (9%)	9 (13%)	9 (13%)	24 (34%)	70
⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	3 (4%)	17 (24%)	7 (10%)	8 (11%)	8 (11%)	28 (39%)	71
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	5 (7%)	16 (23%)	7 (10%)	8 (11%)	8 (11%)	27 (38%)	71
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	1 (2%)	12 (23%)	4 (8%)	7 (13%)	5 (10%)	23 (44%)	52
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	6 (8%)	17 (23%)	7 (10%)	8 (11%)	9 (12%)	26 (36%)	73
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	4 (5%)	18 (24%)	8 (11%)	9 (12%)	9 (12%)	26 (35%)	74
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	3 (5%)	14 (24%)	7 (12%)	6 (10%)	7 (12%)	22 (37%)	59
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	2 (6%)	7 (22%)	1 (3%)	3 (9%)	3 (9%)	16 (50%)	32
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	0 (0%)	5 (28%)	0 (0%)	2 (11%)	3 (17%)	8 (44%)	18
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	0 (0%)	5 (28%)	0 (0%)	2 (11%)	3 (17%)	8 (44%)	18

職種別_人リスト_合同会社

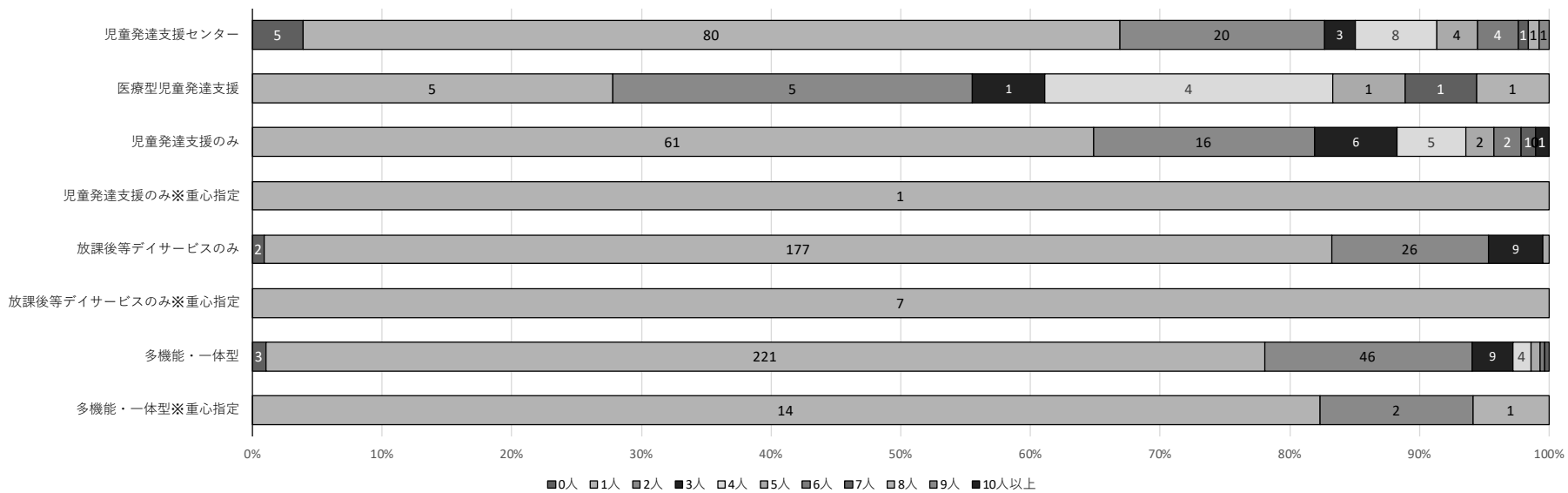
ST	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	9 (20%)	7 (16%)	6 (14%)	6 (14%)	6 (14%)	10 (23%)	44
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	10 (21%)	8 (17%)	7 (15%)	6 (13%)	6 (13%)	10 (21%)	47
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	10 (21%)	6 (13%)	8 (17%)	6 (13%)	7 (15%)	10 (21%)	47
④ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	10 (22%)	5 (11%)	8 (17%)	6 (13%)	7 (15%)	10 (22%)	46
⑤ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	10 (21%)	6 (13%)	8 (17%)	6 (13%)	7 (15%)	10 (21%)	47
⑥ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	10 (21%)	6 (13%)	8 (17%)	6 (13%)	7 (15%)	10 (21%)	47
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	7 (17%)	6 (14%)	8 (19%)	5 (12%)	7 (17%)	9 (21%)	42
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	4 (13%)	3 (10%)	7 (23%)	3 (10%)	6 (20%)	7 (23%)	30
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	10 (22%)	6 (13%)	7 (15%)	6 (13%)	7 (15%)	10 (22%)	46
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	10 (21%)	7 (15%)	8 (17%)	6 (13%)	7 (15%)	10 (21%)	48
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	7 (20%)	6 (17%)	4 (11%)	4 (11%)	4 (11%)	10 (29%)	35
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	1 (9%)	2 (18%)	1 (9%)	2 (18%)	0 (0%)	5 (45%)	11
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	1 (10%)	2 (20%)	1 (10%)	3 (30%)	0 (0%)	3 (30%)	10
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	1 (11%)	3 (33%)	1 (11%)	2 (22%)	0 (0%)	2 (22%)	9

職種別_人リスト_一般社団法人

ST	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、ST（言語聴覚士）としての専門性を発揮している	4 (11%)	11 (29%)	6 (16%)	2 (5%)	4 (11%)	11 (29%)	38
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、ST（言語聴覚士）の視点から提案している	4 (11%)	11 (29%)	6 (16%)	2 (5%)	4 (11%)	11 (29%)	38
③事業所内において、必要な時に、ST（言語聴覚士）の視点からコンサルテーション・助言をしている	5 (13%)	10 (26%)	6 (15%)	3 (8%)	4 (10%)	11 (28%)	39
④ ST（言語聴覚士）として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	5 (13%)	11 (28%)	6 (15%)	3 (8%)	4 (10%)	11 (28%)	40
⑤ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントを適切に実践している	5 (13%)	11 (28%)	6 (15%)	3 (8%)	4 (10%)	11 (28%)	40
⑥ ST（言語聴覚士）として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	5 (13%)	11 (28%)	6 (15%)	3 (8%)	4 (10%)	10 (26%)	39
⑦保護者に対して、ST（言語聴覚士）の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	5 (13%)	11 (28%)	6 (15%)	3 (8%)	4 (10%)	10 (26%)	39
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	1 (3%)	9 (28%)	6 (19%)	3 (9%)	2 (6%)	11 (34%)	32
⑨話す（発信）・聞く（受信）・食べる（摂食）等コミュニケーション全般について、ST（言語聴覚士）として適切な支援を行っている	5 (13%)	11 (28%)	6 (15%)	3 (8%)	3 (8%)	11 (28%)	39
⑩子どもの障害や特性と言語や発声、発音、聴覚、認知などの機能の状況に合わせた適切な支援を行っている	4 (10%)	11 (28%)	6 (15%)	3 (8%)	4 (10%)	12 (30%)	40
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する適切な支援を行っている	2 (6%)	7 (22%)	6 (19%)	3 (9%)	3 (9%)	11 (34%)	32
⑫人工内耳、補聴器等の調整を医療と連携して行い、本人の生活しやすい状況の評価や環境調整についての適切な支援を行っている	0 (0%)	3 (16%)	4 (21%)	2 (11%)	0 (0%)	10 (53%)	19
⑬聴力検査機器を使って聴力検査を適切に行っている	0 (0%)	3 (19%)	4 (25%)	2 (13%)	0 (0%)	7 (44%)	16
⑭手話通訳士もしくは準ずる資格をもって適切に支援を行っている	0 (0%)	3 (20%)	4 (27%)	1 (7%)	0 (0%)	7 (47%)	15

(6) 心理職

障害児支援を行う心理職の数



心理職	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等デイサービスのみ	放課後等デイサービスのみ※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
0人	10 (1%)	5 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	0 (0%)	3 (1%)	0 (0%)
1人	567 (74%)	80 (63%)	5 (28%)	61 (65%)	1 (100%)	177 (82%)	7 (100%)	221 (77%)	14 (82%)
2人	115 (15%)	20 (16%)	5 (28%)	16 (17%)	0 (0%)	26 (12%)	0 (0%)	46 (16%)	2 (12%)
3人	28 (4%)	3 (2%)	1 (6%)	6 (6%)	0 (0%)	9 (4%)	0 (0%)	9 (3%)	0 (0%)
4人	21 (3%)	8 (6%)	4 (22%)	5 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (1%)	0 (0%)
5人	10 (1%)	4 (3%)	1 (6%)	2 (2%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	0 (0%)
6人	7 (1%)	4 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)
7人	4 (1%)	1 (1%)	1 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)
8人	3 (0%)	1 (1%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (6%)
9人	1 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
10人以上	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	767 (100%)	127 (100%)	18 (100%)	94 (100%)	1 (100%)	215 (100%)	7 (100%)	287 (100%)	17 (100%)

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（心理職）が該当しますか。

心理職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	89	(14%)	146	(23%)	125	(20%)	89	(14%)	46	(7%)	128	(21%)	623
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	85	(13%)	141	(22%)	125	(19%)	94	(15%)	53	(8%)	145	(23%)	643
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	85	(12%)	134	(19%)	138	(19%)	107	(15%)	64	(9%)	184	(26%)	712
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	71	(12%)	134	(22%)	124	(20%)	91	(15%)	54	(9%)	143	(23%)	617
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	83	(12%)	142	(21%)	132	(20%)	97	(15%)	57	(9%)	156	(23%)	667
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	70	(10%)	134	(20%)	138	(20%)	100	(15%)	60	(9%)	175	(26%)	677
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	67	(10%)	133	(19%)	140	(20%)	102	(15%)	65	(9%)	179	(26%)	686
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	46	(9%)	90	(17%)	114	(22%)	79	(15%)	53	(10%)	143	(27%)	525
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	66	(10%)	123	(19%)	126	(20%)	96	(15%)	58	(9%)	164	(26%)	633
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	70	(11%)	126	(20%)	133	(21%)	89	(14%)	60	(9%)	164	(26%)	642
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	71	(11%)	127	(19%)	140	(21%)	95	(14%)	60	(9%)	168	(25%)	661
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	83	(12%)	140	(20%)	147	(21%)	94	(14%)	62	(9%)	169	(24%)	695
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	75	(11%)	130	(19%)	142	(21%)	94	(14%)	64	(9%)	174	(26%)	679
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	49	(8%)	107	(18%)	126	(21%)	88	(15%)	59	(10%)	173	(29%)	602
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	39	(8%)	87	(18%)	105	(22%)	70	(15%)	46	(10%)	132	(28%)	479
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	40	(7%)	91	(17%)	109	(20%)	85	(16%)	55	(10%)	159	(29%)	539

【事業形態別】

職種別_別リスト_児童発達支援センター

心理職	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	4 (5%)	8 (10%)	14 (18%)	10 (13%)	11 (14%)	33 (41%)	80
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	4 (4%)	7 (8%)	14 (15%)	11 (12%)	14 (15%)	42 (46%)	92
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	4 (3%)	8 (7%)	16 (13%)	13 (11%)	20 (16%)	62 (50%)	123
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	4 (4%)	7 (7%)	14 (15%)	12 (13%)	16 (17%)	41 (44%)	94
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	5 (4%)	10 (9%)	16 (14%)	14 (12%)	19 (17%)	50 (44%)	114
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	4 (3%)	11 (9%)	16 (14%)	12 (10%)	21 (18%)	54 (46%)	118
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	4 (3%)	9 (7%)	17 (14%)	13 (11%)	20 (17%)	58 (48%)	121
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	4 (4%)	6 (6%)	16 (16%)	9 (9%)	19 (19%)	46 (46%)	100
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	4 (4%)	8 (7%)	15 (14%)	10 (9%)	23 (21%)	50 (45%)	110
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	4 (4%)	9 (8%)	16 (14%)	10 (9%)	22 (20%)	51 (46%)	112
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	4 (4%)	9 (8%)	16 (14%)	10 (9%)	21 (19%)	52 (46%)	112
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	4 (4%)	10 (9%)	18 (16%)	10 (9%)	20 (18%)	52 (46%)	114
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	4 (3%)	9 (8%)	17 (15%)	10 (9%)	21 (18%)	56 (48%)	117
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	4 (4%)	5 (4%)	15 (13%)	10 (9%)	21 (19%)	57 (51%)	112
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	4 (4%)	6 (6%)	15 (16%)	8 (9%)	17 (18%)	44 (47%)	94
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	4 (4%)	5 (5%)	13 (13%)	11 (11%)	19 (18%)	52 (50%)	104

職種別_別リスト_医療型・重症児

心理職	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	2 (7%)	7 (23%)	6 (20%)	6 (20%)	1 (3%)	8 (27%)	30
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	1 (3%)	7 (21%)	6 (18%)	6 (18%)	2 (6%)	11 (33%)	33
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	2 (5%)	7 (18%)	9 (23%)	7 (18%)	3 (8%)	12 (30%)	40
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	2 (6%)	10 (29%)	7 (20%)	4 (11%)	1 (3%)	11 (31%)	35
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	3 (8%)	9 (23%)	9 (23%)	7 (18%)	1 (3%)	11 (28%)	40
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	2 (5%)	8 (21%)	8 (21%)	7 (18%)	1 (3%)	13 (33%)	39
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	2 (5%)	9 (23%)	8 (20%)	8 (20%)	1 (3%)	12 (30%)	40
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	2 (7%)	5 (17%)	7 (23%)	5 (17%)	1 (3%)	10 (33%)	30
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	1 (3%)	7 (21%)	7 (21%)	8 (24%)	0 (0%)	11 (32%)	34
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	1 (3%)	6 (17%)	8 (23%)	8 (23%)	1 (3%)	11 (31%)	35
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	1 (3%)	5 (15%)	8 (24%)	7 (21%)	1 (3%)	11 (33%)	33
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	1 (3%)	6 (17%)	7 (19%)	7 (19%)	3 (8%)	12 (33%)	36
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	1 (3%)	5 (14%)	9 (25%)	6 (17%)	3 (8%)	12 (33%)	36
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	1 (3%)	4 (13%)	8 (26%)	6 (19%)	2 (6%)	10 (32%)	31
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	1 (3%)	4 (13%)	8 (27%)	4 (13%)	2 (7%)	11 (37%)	30
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	1 (3%)	3 (9%)	9 (28%)	5 (16%)	1 (3%)	13 (41%)	32

職種別_別リスト_児童発達支援のみ※重症児除く

心理職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	7	(9%)	13	(17%)	12	(16%)	18	(24%)	7	(9%)	19	(25%)	76
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	7	(9%)	13	(17%)	11	(15%)	18	(24%)	7	(9%)	19	(25%)	75
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	8	(9%)	11	(13%)	13	(15%)	20	(23%)	9	(10%)	27	(31%)	88
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	5	(7%)	12	(16%)	13	(17%)	17	(22%)	8	(11%)	21	(28%)	76
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	8	(10%)	13	(15%)	12	(14%)	18	(21%)	9	(11%)	24	(29%)	84
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	6	(7%)	9	(10%)	15	(17%)	20	(23%)	10	(12%)	26	(30%)	86
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	7	(8%)	11	(13%)	13	(15%)	19	(22%)	11	(13%)	26	(30%)	87
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	4	(6%)	8	(13%)	8	(13%)	16	(25%)	8	(13%)	20	(31%)	64
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	6	(7%)	8	(10%)	14	(17%)	19	(23%)	8	(10%)	26	(32%)	81
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	6	(7%)	12	(15%)	12	(15%)	19	(23%)	7	(9%)	25	(31%)	81
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	6	(7%)	11	(13%)	13	(16%)	20	(24%)	7	(9%)	25	(30%)	82
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	7	(8%)	13	(15%)	15	(17%)	18	(21%)	8	(9%)	25	(29%)	86
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	6	(7%)	11	(13%)	13	(15%)	19	(22%)	10	(12%)	26	(31%)	85
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	3	(4%)	8	(11%)	12	(16%)	19	(25%)	9	(12%)	25	(33%)	76
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	3	(5%)	5	(9%)	10	(18%)	14	(25%)	8	(14%)	16	(29%)	56
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	2	(3%)	7	(11%)	10	(15%)	16	(25%)	7	(11%)	23	(35%)	65

職種別_別リスト_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

心理職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	38	(20%)	58	(30%)	42	(22%)	27	(14%)	11	(6%)	17	(9%)	193
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	36	(19%)	57	(30%)	39	(20%)	28	(15%)	13	(7%)	18	(9%)	191
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	35	(18%)	54	(28%)	45	(23%)	31	(16%)	12	(6%)	19	(10%)	196
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	28	(16%)	52	(30%)	37	(21%)	28	(16%)	10	(6%)	19	(11%)	174
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	32	(18%)	54	(30%)	40	(22%)	25	(14%)	9	(5%)	18	(10%)	178
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	27	(15%)	52	(29%)	44	(24%)	28	(16%)	10	(6%)	19	(11%)	180
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	24	(13%)	51	(28%)	43	(24%)	28	(16%)	13	(7%)	20	(11%)	179
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	17	(13%)	36	(27%)	32	(24%)	19	(15%)	10	(8%)	17	(13%)	131
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	27	(16%)	51	(30%)	38	(22%)	25	(15%)	11	(6%)	18	(11%)	170
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	28	(16%)	52	(31%)	40	(24%)	22	(13%)	11	(6%)	17	(10%)	170
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	30	(17%)	52	(29%)	44	(24%)	24	(13%)	11	(6%)	20	(11%)	181
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	33	(17%)	55	(28%)	48	(25%)	27	(14%)	12	(6%)	20	(10%)	195
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	32	(17%)	52	(28%)	44	(24%)	27	(15%)	11	(6%)	20	(11%)	186
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	20	(13%)	45	(30%)	38	(25%)	21	(14%)	9	(6%)	19	(13%)	152
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	14	(12%)	36	(30%)	31	(26%)	18	(15%)	8	(7%)	13	(11%)	120
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	15	(11%)	41	(29%)	33	(24%)	21	(15%)	12	(9%)	18	(13%)	140

職種別_別リスト_多機能・一体型※重症児除く

心理職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	38	(16%)	60	(25%)	51	(21%)	28	(12%)	15	(6%)	51	(21%)	243
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	37	(15%)	57	(23%)	55	(22%)	31	(12%)	16	(6%)	55	(22%)	251
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	36	(14%)	54	(20%)	55	(21%)	36	(14%)	19	(7%)	64	(24%)	264
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	32	(14%)	53	(22%)	53	(22%)	30	(13%)	18	(8%)	51	(22%)	237
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	35	(14%)	56	(22%)	55	(22%)	33	(13%)	18	(7%)	53	(21%)	250
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	31	(12%)	54	(21%)	55	(22%)	33	(13%)	17	(7%)	63	(25%)	253
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	30	(12%)	53	(21%)	59	(23%)	34	(13%)	19	(7%)	63	(24%)	258
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	19	(10%)	35	(18%)	51	(26%)	30	(15%)	14	(7%)	50	(25%)	199
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	28	(12%)	49	(21%)	52	(22%)	34	(14%)	15	(6%)	59	(25%)	237
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	31	(13%)	47	(19%)	57	(23%)	30	(12%)	18	(7%)	60	(25%)	243
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	30	(12%)	50	(20%)	59	(23%)	34	(13%)	19	(8%)	60	(24%)	252
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	38	(14%)	56	(21%)	59	(22%)	32	(12%)	18	(7%)	60	(23%)	263
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	32	(13%)	53	(21%)	59	(23%)	32	(13%)	18	(7%)	60	(24%)	254
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	21	(9%)	45	(20%)	53	(23%)	32	(14%)	17	(7%)	62	(27%)	230
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	17	(10%)	36	(20%)	41	(23%)	26	(15%)	10	(6%)	48	(27%)	178
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	18	(9%)	35	(18%)	44	(22%)	32	(16%)	15	(8%)	53	(27%)	197

【運営法人別】

職種別_人リスト_自治体

心理職	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	1 (3%)	6 (19%)	1 (3%)	9 (29%)	4 (13%)	10 (32%)	31
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	1 (3%)	4 (10%)	2 (5%)	11 (28%)	5 (13%)	16 (41%)	39
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	2 (3%)	4 (7%)	5 (8%)	10 (17%)	10 (17%)	28 (47%)	59
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	1 (3%)	4 (10%)	3 (8%)	7 (18%)	7 (18%)	18 (45%)	40
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	4 (7%)	4 (7%)	5 (9%)	11 (20%)	7 (13%)	25 (45%)	56
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	2 (4%)	5 (9%)	5 (9%)	10 (18%)	8 (14%)	26 (46%)	56
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	2 (3%)	5 (8%)	5 (8%)	12 (20%)	7 (12%)	28 (47%)	59
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	2 (4%)	4 (8%)	3 (6%)	8 (16%)	8 (16%)	26 (51%)	51
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	1 (2%)	4 (8%)	4 (8%)	9 (17%)	7 (13%)	28 (53%)	53
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	1 (2%)	5 (10%)	3 (6%)	10 (19%)	7 (13%)	26 (50%)	52
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	1 (2%)	5 (10%)	3 (6%)	9 (18%)	8 (16%)	25 (49%)	51
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	1 (2%)	6 (12%)	3 (6%)	10 (19%)	8 (15%)	24 (46%)	52
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	1 (2%)	5 (9%)	3 (5%)	9 (16%)	8 (15%)	29 (53%)	55
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	1 (2%)	4 (7%)	5 (9%)	7 (13%)	8 (15%)	30 (55%)	55
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	1 (2%)	3 (7%)	4 (10%)	7 (17%)	5 (12%)	21 (51%)	41
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	1 (2%)	3 (6%)	5 (10%)	8 (16%)	4 (8%)	29 (58%)	50

職種別_人リスト_社会福祉法人

心理職	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	5 (5%)	13 (12%)	25 (23%)	21 (19%)	11 (10%)	36 (32%)	111
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	5 (4%)	13 (11%)	23 (19%)	21 (18%)	14 (12%)	43 (36%)	119
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	5 (3%)	13 (9%)	25 (17%)	30 (21%)	19 (13%)	54 (37%)	146
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	4 (3%)	14 (12%)	24 (20%)	22 (19%)	13 (11%)	41 (35%)	118
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	6 (4%)	19 (14%)	24 (18%)	24 (18%)	17 (13%)	46 (34%)	136
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	2 (1%)	15 (11%)	26 (19%)	25 (19%)	18 (13%)	49 (36%)	135
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	2 (1%)	16 (12%)	28 (20%)	24 (17%)	19 (14%)	49 (36%)	138
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	3 (3%)	7 (7%)	20 (20%)	21 (21%)	16 (16%)	35 (34%)	102
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	4 (3%)	14 (11%)	22 (18%)	24 (19%)	19 (15%)	41 (33%)	124
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	5 (4%)	15 (12%)	22 (18%)	22 (18%)	19 (16%)	39 (32%)	122
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	4 (3%)	14 (11%)	24 (19%)	25 (20%)	17 (13%)	42 (33%)	126
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	6 (5%)	16 (12%)	27 (20%)	22 (17%)	17 (13%)	45 (34%)	133
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	4 (3%)	13 (10%)	29 (22%)	22 (17%)	19 (14%)	45 (34%)	132
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	0 (0%)	10 (8%)	22 (19%)	23 (19%)	16 (14%)	47 (40%)	118
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	1 (1%)	10 (10%)	21 (20%)	18 (17%)	14 (13%)	40 (38%)	104
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	1 (1%)	9 (8%)	16 (15%)	22 (20%)	17 (16%)	44 (40%)	109

職種別_人リスト_株式会社

心理職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	55	(20%)	84	(31%)	54	(20%)	42	(15%)	14	(5%)	26	(9%)	275
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	54	(20%)	81	(29%)	52	(19%)	45	(16%)	16	(6%)	28	(10%)	276
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	52	(19%)	77	(28%)	57	(20%)	48	(17%)	16	(6%)	30	(11%)	280
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	42	(16%)	78	(31%)	52	(20%)	42	(16%)	14	(5%)	27	(11%)	255
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	49	(19%)	74	(28%)	56	(21%)	42	(16%)	14	(5%)	29	(11%)	264
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	45	(17%)	71	(26%)	62	(23%)	45	(17%)	16	(6%)	32	(12%)	271
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	44	(16%)	71	(26%)	59	(22%)	46	(17%)	19	(7%)	32	(12%)	271
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	25	(13%)	52	(26%)	47	(24%)	34	(17%)	12	(6%)	27	(14%)	197
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	39	(16%)	68	(28%)	52	(21%)	45	(18%)	14	(6%)	29	(12%)	247
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	40	(16%)	66	(26%)	60	(24%)	39	(16%)	17	(7%)	28	(11%)	250
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	43	(16%)	71	(27%)	61	(23%)	41	(16%)	18	(7%)	30	(11%)	264
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	52	(18%)	78	(27%)	65	(23%)	44	(15%)	17	(6%)	30	(10%)	286
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	47	(17%)	72	(26%)	62	(23%)	45	(16%)	17	(6%)	30	(11%)	273
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	31	(14%)	62	(27%)	52	(23%)	38	(17%)	15	(7%)	28	(12%)	226
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	22	(13%)	45	(26%)	40	(23%)	30	(17%)	10	(6%)	26	(15%)	173
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	23	(12%)	51	(26%)	45	(23%)	38	(19%)	15	(8%)	28	(14%)	200

職種別_人リスト_NPO法人

心理職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	5	(8%)	6	(10%)	17	(27%)	4	(6%)	4	(6%)	27	(43%)	63
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	5	(8%)	6	(9%)	16	(25%)	4	(6%)	5	(8%)	29	(45%)	65
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	4	(6%)	5	(7%)	17	(24%)	5	(7%)	5	(7%)	35	(49%)	71
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	5	(8%)	6	(9%)	16	(25%)	4	(6%)	6	(9%)	27	(42%)	64
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	5	(8%)	8	(13%)	14	(22%)	4	(6%)	6	(9%)	27	(42%)	64
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	4	(6%)	8	(12%)	14	(21%)	4	(6%)	5	(7%)	32	(48%)	67
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	4	(6%)	7	(10%)	14	(20%)	5	(7%)	6	(9%)	34	(49%)	70
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	4	(7%)	4	(7%)	13	(24%)	3	(5%)	5	(9%)	26	(47%)	55
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	5	(8%)	5	(8%)	14	(22%)	4	(6%)	4	(6%)	33	(51%)	65
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	5	(7%)	5	(7%)	16	(23%)	4	(6%)	4	(6%)	36	(51%)	70
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	5	(7%)	5	(7%)	18	(25%)	4	(6%)	4	(6%)	36	(50%)	72
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	5	(7%)	6	(8%)	17	(23%)	5	(7%)	5	(7%)	35	(48%)	73
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	5	(7%)	6	(9%)	14	(20%)	5	(7%)	5	(7%)	35	(50%)	70
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	4	(6%)	5	(7%)	15	(22%)	5	(7%)	6	(9%)	34	(49%)	69
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	4	(8%)	6	(12%)	13	(27%)	3	(6%)	4	(8%)	19	(39%)	49
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	3	(5%)	5	(9%)	14	(24%)	4	(7%)	4	(7%)	28	(48%)	58

職種別_人リスト_合同会社

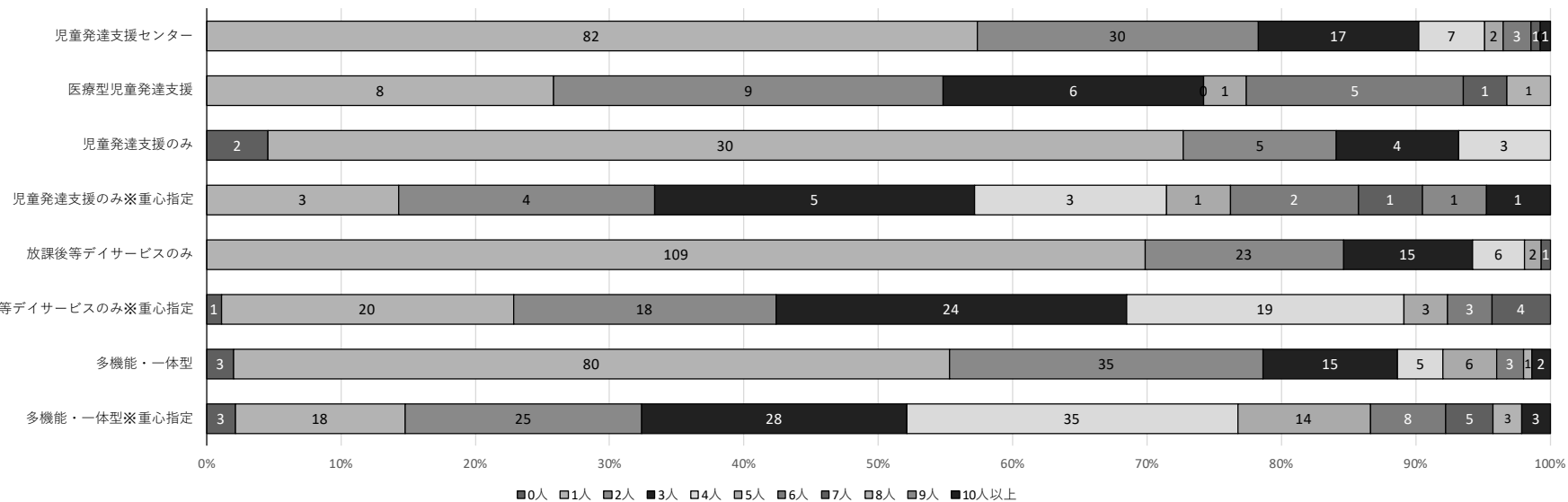
心理職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	6	(14%)	15	(34%)	7	(16%)	5	(11%)	3	(7%)	8	(18%)	44
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	5	(12%)	15	(35%)	7	(16%)	5	(12%)	3	(7%)	8	(19%)	43
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	6	(13%)	15	(33%)	7	(15%)	5	(11%)	3	(7%)	10	(22%)	46
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	4	(10%)	15	(36%)	6	(14%)	5	(12%)	3	(7%)	9	(21%)	42
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	4	(10%)	15	(37%)	7	(17%)	5	(12%)	2	(5%)	8	(20%)	41
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	3	(7%)	15	(36%)	7	(17%)	5	(12%)	2	(5%)	10	(24%)	42
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	3	(7%)	13	(31%)	9	(21%)	4	(10%)	3	(7%)	10	(24%)	42
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	3	(9%)	9	(27%)	7	(21%)	3	(9%)	3	(9%)	8	(24%)	33
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	5	(12%)	13	(30%)	9	(21%)	4	(9%)	3	(7%)	9	(21%)	43
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	5	(11%)	14	(30%)	10	(22%)	4	(9%)	3	(7%)	10	(22%)	46
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	4	(9%)	14	(31%)	10	(22%)	4	(9%)	3	(7%)	10	(22%)	45
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	6	(13%)	14	(30%)	10	(21%)	4	(9%)	3	(6%)	10	(21%)	47
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	5	(11%)	14	(30%)	10	(22%)	4	(9%)	3	(7%)	10	(22%)	46
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	4	(11%)	11	(29%)	7	(18%)	4	(11%)	3	(8%)	9	(24%)	38
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	2	(7%)	8	(27%)	6	(20%)	3	(10%)	3	(10%)	8	(27%)	30
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	2	(6%)	8	(24%)	8	(24%)	3	(9%)	3	(9%)	9	(27%)	33

職種別_人リスト_一般社団法人

心理職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、心理職としての専門性を発揮している	11	(22%)	11	(22%)	9	(18%)	4	(8%)	3	(6%)	13	(25%)	51
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、心理職の視点から提案している	9	(18%)	11	(22%)	12	(24%)	4	(8%)	3	(6%)	12	(24%)	51
③事業所内において、必要な時に、心理職の視点からコンサルテーション・助言をしている	9	(17%)	11	(21%)	12	(23%)	4	(8%)	3	(6%)	14	(26%)	53
④心理職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	9	(18%)	11	(22%)	11	(22%)	4	(8%)	3	(6%)	12	(24%)	50
⑤心理職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	9	(18%)	11	(22%)	12	(24%)	4	(8%)	3	(6%)	11	(22%)	50
⑥心理職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	7	(14%)	11	(22%)	11	(22%)	4	(8%)	3	(6%)	14	(28%)	50
⑦保護者に対して、心理職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	7	(14%)	11	(22%)	11	(22%)	4	(8%)	3	(6%)	14	(28%)	50
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	6	(13%)	9	(20%)	10	(22%)	5	(11%)	3	(7%)	13	(28%)	46
⑨愛着形成の適切な支援を行っている	7	(14%)	11	(22%)	11	(22%)	4	(8%)	3	(6%)	13	(27%)	49
⑩感覚認知発達の適切な支援を行っている	8	(16%)	11	(22%)	10	(20%)	4	(8%)	3	(6%)	13	(27%)	49
⑪情緒行動の成り立ちの適切な支援を行っている	7	(14%)	10	(20%)	11	(22%)	6	(12%)	3	(6%)	13	(26%)	50
⑫社会性コミュニケーションの適切な支援を行っている	7	(14%)	11	(22%)	12	(24%)	4	(8%)	3	(6%)	13	(26%)	50
⑬環境との相互作用の視点から発達を総合的に捉えて適切な支援を行っている	7	(14%)	11	(22%)	11	(22%)	4	(8%)	3	(6%)	13	(27%)	49
⑭カウンセリングの視点をもって家族支援を適切に行っている	5	(10%)	11	(23%)	10	(21%)	5	(10%)	3	(6%)	14	(29%)	48
⑮保護者に対して適切にグループ支援をしている	4	(10%)	10	(26%)	8	(21%)	3	(8%)	3	(8%)	11	(28%)	39
⑯不適切な養育に対する養育者への心理支援（カウンセリング・障害の受容・困難を抱える家族）・対応を適切に行っている	5	(12%)	10	(23%)	9	(21%)	4	(9%)	4	(9%)	11	(26%)	43

(7) 看護職

障害児支援を行う看護職の数



看護職	全体	児童発達支援センター	医療型児童発達支援	児童発達支援のみ	児童発達支援のみ※重心指定	放課後等デイサービスのみ	放課後等デイサービスのみ※重心指定	多機能・一体型	多機能・一体型※重心指定
0人	9 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (2%)	3 (2%)
1人	351 (45%)	82 (57%)	8 (26%)	30 (68%)	3 (14%)	109 (70%)	20 (22%)	80 (53%)	18 (13%)
2人	151 (19%)	30 (21%)	9 (29%)	5 (11%)	4 (19%)	23 (15%)	18 (20%)	35 (23%)	25 (18%)
3人	115 (15%)	17 (12%)	6 (19%)	4 (9%)	5 (24%)	15 (10%)	24 (26%)	15 (10%)	28 (20%)
4人	78 (10%)	7 (5%)	0 (0%)	3 (7%)	3 (14%)	6 (4%)	19 (21%)	5 (3%)	35 (25%)
5人	29 (4%)	2 (1%)	1 (3%)	0 (0%)	1 (5%)	2 (1%)	3 (3%)	6 (4%)	14 (10%)
6人	24 (3%)	3 (2%)	5 (16%)	0 (0%)	2 (10%)	0 (0%)	3 (3%)	3 (2%)	8 (6%)
7人	13 (2%)	1 (1%)	1 (3%)	0 (0%)	1 (5%)	1 (1%)	4 (4%)	0 (0%)	5 (4%)
8人	5 (1%)	0 (0%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (2%)
9人	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
10人以上	9 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	3 (2%)
合計	785 (100%)	143 (100%)	31 (100%)	44 (100%)	21 (100%)	156 (100%)	92 (100%)	150 (100%)	142 (100%)

次の内容について、貴事業所では、何年以上（何か月以上）の障害児支援の経験を有する職員（看護職）が該当しますか。

看護職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	60	(10%)	142	(24%)	124	(21%)	98	(16%)	51	(9%)	124	(21%)	599
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	63	(10%)	146	(23%)	134	(21%)	101	(16%)	58	(9%)	130	(21%)	632
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	79	(11%)	165	(22%)	149	(20%)	115	(16%)	73	(10%)	155	(21%)	736
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	44	(8%)	137	(25%)	109	(20%)	85	(15%)	59	(11%)	119	(22%)	553
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	63	(10%)	154	(24%)	137	(21%)	93	(14%)	63	(10%)	136	(21%)	646
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	60	(9%)	146	(22%)	135	(21%)	103	(16%)	69	(10%)	145	(22%)	658
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	69	(10%)	157	(22%)	148	(21%)	111	(16%)	78	(11%)	142	(20%)	705
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	33	(7%)	90	(20%)	109	(24%)	76	(17%)	51	(11%)	101	(22%)	460
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	97	(14%)	144	(21%)	132	(20%)	99	(15%)	61	(9%)	139	(21%)	672
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	109	(15%)	170	(23%)	139	(19%)	112	(15%)	76	(10%)	143	(19%)	749
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	76	(12%)	144	(22%)	130	(20%)	104	(16%)	62	(10%)	136	(21%)	652
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	85	(12%)	158	(22%)	139	(19%)	120	(16%)	81	(11%)	149	(20%)	732

【事業形態別】

職種別_別リスト_児童発達支援センター

看護職	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	5 (6%)	19 (21%)	24 (27%)	11 (12%)	10 (11%)	20 (22%)	89
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	6 (6%)	17 (16%)	25 (24%)	18 (17%)	14 (13%)	24 (23%)	104
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	15 (11%)	21 (15%)	31 (22%)	20 (14%)	16 (12%)	36 (26%)	139
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	4 (5%)	15 (19%)	20 (25%)	9 (11%)	12 (15%)	20 (25%)	80
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	10 (9%)	19 (17%)	29 (26%)	12 (11%)	12 (11%)	28 (25%)	110
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	10 (9%)	19 (16%)	27 (23%)	16 (14%)	14 (12%)	30 (26%)	116
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	15 (11%)	22 (16%)	26 (19%)	20 (15%)	19 (14%)	32 (24%)	134
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	5 (7%)	8 (11%)	20 (29%)	11 (16%)	7 (10%)	19 (27%)	70
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	15 (12%)	19 (16%)	28 (23%)	15 (12%)	14 (11%)	31 (25%)	122
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	20 (14%)	24 (17%)	28 (20%)	19 (13%)	19 (13%)	32 (23%)	142
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	10 (9%)	20 (18%)	26 (23%)	14 (12%)	14 (12%)	29 (26%)	113
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	17 (12%)	22 (16%)	29 (21%)	19 (14%)	18 (13%)	33 (24%)	138

職種別_別リスト_医療型・重症児

看護職	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	19 (8%)	47 (20%)	47 (20%)	47 (20%)	21 (9%)	58 (24%)	239
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	17 (7%)	53 (22%)	51 (21%)	43 (18%)	22 (9%)	57 (23%)	243
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	20 (7%)	56 (20%)	60 (21%)	52 (19%)	30 (11%)	63 (22%)	281
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	12 (5%)	55 (24%)	45 (19%)	43 (18%)	25 (11%)	54 (23%)	234
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	17 (7%)	57 (22%)	57 (22%)	40 (16%)	28 (11%)	58 (23%)	257
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	14 (5%)	55 (21%)	56 (22%)	44 (17%)	30 (12%)	61 (23%)	260
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	20 (7%)	56 (20%)	64 (23%)	48 (17%)	28 (10%)	61 (22%)	277
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	9 (5%)	32 (17%)	44 (23%)	33 (17%)	26 (14%)	48 (25%)	192
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	33 (12%)	62 (22%)	53 (19%)	45 (16%)	28 (10%)	59 (21%)	280
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	32 (11%)	62 (22%)	56 (20%)	45 (16%)	30 (11%)	59 (21%)	284
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	25 (9%)	53 (20%)	58 (22%)	46 (17%)	25 (9%)	58 (22%)	265
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	23 (8%)	51 (18%)	55 (20%)	53 (19%)	33 (12%)	63 (23%)	278

職種別_別リスト_児童発達支援のみ※重症児除く

看護職	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	3 (10%)	6 (20%)	5 (17%)	5 (17%)	2 (7%)	9 (30%)	30
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	5 (14%)	6 (16%)	7 (19%)	7 (19%)	3 (8%)	9 (24%)	37
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	6 (14%)	9 (21%)	7 (16%)	6 (14%)	4 (9%)	11 (26%)	43
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	4 (13%)	5 (17%)	4 (13%)	5 (17%)	2 (7%)	10 (33%)	30
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	4 (11%)	8 (22%)	5 (14%)	6 (16%)	3 (8%)	11 (30%)	37
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	4 (11%)	5 (14%)	6 (17%)	6 (17%)	3 (8%)	12 (33%)	36
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	4 (11%)	8 (21%)	5 (13%)	7 (18%)	4 (11%)	10 (26%)	38
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	1 (5%)	3 (16%)	4 (21%)	2 (11%)	3 (16%)	6 (32%)	19
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	6 (18%)	5 (15%)	3 (9%)	5 (15%)	4 (12%)	10 (30%)	33
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	6 (14%)	10 (23%)	7 (16%)	5 (12%)	4 (9%)	11 (26%)	43
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	5 (15%)	6 (18%)	5 (15%)	5 (15%)	2 (6%)	10 (30%)	33
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	4 (9%)	10 (23%)	7 (16%)	6 (14%)	5 (12%)	11 (26%)	43

職種別_別リスト_放課後等デイサービスのみ※重症児除く

看護職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	16	(14%)	34	(29%)	21	(18%)	21	(18%)	10	(8%)	16	(14%)	118
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	17	(14%)	33	(28%)	22	(18%)	21	(18%)	10	(8%)	17	(14%)	120
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	18	(13%)	37	(28%)	24	(18%)	24	(18%)	11	(8%)	20	(15%)	134
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	9	(9%)	30	(30%)	19	(19%)	17	(17%)	10	(10%)	16	(16%)	101
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	15	(13%)	34	(29%)	22	(19%)	21	(18%)	9	(8%)	16	(14%)	117
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	16	(13%)	31	(26%)	22	(18%)	22	(18%)	10	(8%)	18	(15%)	119
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	12	(10%)	34	(28%)	24	(20%)	23	(19%)	11	(9%)	16	(13%)	120
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	9	(10%)	20	(23%)	19	(22%)	18	(21%)	7	(8%)	13	(15%)	86
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	20	(17%)	28	(24%)	25	(22%)	20	(17%)	7	(6%)	15	(13%)	115
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	24	(17%)	38	(27%)	25	(18%)	26	(18%)	11	(8%)	17	(12%)	141
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	18	(15%)	33	(27%)	22	(18%)	24	(20%)	10	(8%)	15	(12%)	122
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	21	(16%)	36	(27%)	25	(19%)	24	(18%)	12	(9%)	17	(13%)	135

職種別_別リスト_多機能・一体型※重症児除く

看護職	3か月以上		1年以上		3年以上		5年以上		7年以上		10年以上		合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	17	(14%)	34	(29%)	27	(23%)	13	(11%)	7	(6%)	20	(17%)	118
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	18	(15%)	35	(28%)	29	(24%)	11	(9%)	8	(7%)	22	(18%)	123
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	20	(15%)	40	(30%)	27	(20%)	12	(9%)	11	(8%)	24	(18%)	134
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	15	(14%)	31	(30%)	21	(20%)	10	(10%)	9	(9%)	18	(17%)	104
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	17	(14%)	34	(28%)	24	(20%)	13	(11%)	10	(8%)	22	(18%)	120
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	16	(13%)	34	(28%)	24	(20%)	14	(11%)	11	(9%)	23	(19%)	122
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	18	(14%)	35	(27%)	29	(22%)	12	(9%)	15	(11%)	22	(17%)	131
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	9	(10%)	25	(28%)	22	(25%)	10	(11%)	8	(9%)	14	(16%)	88
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	23	(20%)	28	(24%)	23	(20%)	12	(10%)	8	(7%)	23	(20%)	117
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	27	(20%)	34	(25%)	23	(17%)	15	(11%)	12	(9%)	23	(17%)	134
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	18	(16%)	30	(26%)	19	(17%)	14	(12%)	10	(9%)	23	(20%)	114
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	20	(15%)	37	(28%)	23	(17%)	17	(13%)	12	(9%)	24	(18%)	133

【運営法人別】

職種別_人リスト_自治体

看護職	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	0 (0%)	3 (9%)	13 (41%)	2 (6%)	2 (6%)	12 (38%)	32
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	0 (0%)	5 (12%)	15 (35%)	4 (9%)	4 (9%)	15 (35%)	43
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	5 (8%)	8 (13%)	14 (22%)	6 (10%)	8 (13%)	22 (35%)	63
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	0 (0%)	4 (14%)	8 (28%)	2 (7%)	3 (10%)	12 (41%)	29
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	3 (6%)	4 (8%)	17 (35%)	2 (4%)	6 (12%)	17 (35%)	49
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	2 (4%)	5 (9%)	17 (32%)	3 (6%)	7 (13%)	19 (36%)	53
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	5 (8%)	4 (7%)	15 (25%)	6 (10%)	10 (17%)	19 (32%)	59
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	1 (4%)	1 (4%)	9 (33%)	4 (15%)	5 (19%)	7 (26%)	27
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	1 (2%)	8 (15%)	12 (22%)	7 (13%)	9 (17%)	17 (31%)	54
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	5 (8%)	9 (14%)	12 (19%)	7 (11%)	11 (17%)	19 (30%)	63
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	1 (2%)	6 (12%)	11 (22%)	8 (16%)	6 (12%)	17 (35%)	49
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	4 (6%)	9 (14%)	13 (20%)	6 (9%)	12 (19%)	20 (31%)	64

職種別_人リスト_社会福祉法人

看護職	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	14 (9%)	37 (23%)	31 (19%)	25 (15%)	21 (13%)	35 (21%)	163
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	16 (9%)	33 (19%)	36 (21%)	27 (15%)	26 (15%)	37 (21%)	175
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	22 (11%)	39 (19%)	42 (20%)	35 (17%)	28 (13%)	43 (21%)	209
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	11 (8%)	30 (21%)	30 (21%)	19 (13%)	22 (15%)	30 (21%)	142
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	17 (10%)	35 (21%)	35 (21%)	25 (15%)	22 (13%)	36 (21%)	170
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	16 (9%)	34 (19%)	32 (18%)	31 (18%)	26 (15%)	38 (21%)	177
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	18 (9%)	41 (21%)	38 (19%)	30 (15%)	29 (15%)	39 (20%)	195
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	9 (8%)	20 (17%)	28 (24%)	20 (17%)	14 (12%)	25 (22%)	116
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	34 (17%)	36 (18%)	36 (18%)	26 (13%)	21 (11%)	42 (22%)	195
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	38 (18%)	39 (18%)	40 (19%)	28 (13%)	27 (13%)	43 (20%)	215
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	21 (12%)	35 (20%)	37 (21%)	23 (13%)	24 (13%)	39 (22%)	179
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	30 (14%)	38 (18%)	42 (20%)	30 (14%)	28 (13%)	42 (20%)	210

職種別_人リスト_株式会社

看護職	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	21 (12%)	53 (30%)	39 (22%)	28 (16%)	10 (6%)	26 (15%)	177
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	24 (13%)	55 (31%)	39 (22%)	26 (14%)	11 (6%)	25 (14%)	180
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	27 (14%)	60 (30%)	40 (20%)	29 (15%)	14 (7%)	29 (15%)	199
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	16 (9%)	54 (32%)	33 (19%)	27 (16%)	14 (8%)	26 (15%)	170
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	23 (12%)	60 (32%)	34 (18%)	26 (14%)	13 (7%)	29 (16%)	185
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	23 (12%)	56 (30%)	37 (20%)	27 (15%)	13 (7%)	29 (16%)	185
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	25 (13%)	55 (28%)	41 (21%)	30 (15%)	16 (8%)	27 (14%)	194
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	12 (9%)	37 (27%)	32 (24%)	18 (13%)	13 (10%)	23 (17%)	135
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	28 (16%)	47 (26%)	36 (20%)	26 (15%)	12 (7%)	29 (16%)	178
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	29 (14%)	58 (29%)	40 (20%)	31 (15%)	15 (7%)	28 (14%)	201
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	26 (14%)	51 (28%)	39 (21%)	29 (16%)	12 (6%)	28 (15%)	185
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	24 (12%)	59 (30%)	38 (19%)	32 (16%)	17 (9%)	29 (15%)	199

職種別_人リスト_NPO法人

看護職

	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	8 (8%)	20 (20%)	21 (21%)	19 (19%)	10 (10%)	22 (22%)	100
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どものための個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	5 (5%)	21 (21%)	22 (22%)	19 (19%)	10 (10%)	25 (25%)	102
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	7 (6%)	23 (20%)	25 (22%)	17 (15%)	12 (11%)	30 (26%)	114
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	4 (4%)	19 (21%)	16 (18%)	15 (17%)	11 (12%)	25 (28%)	90
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	4 (4%)	21 (21%)	25 (25%)	17 (17%)	11 (11%)	24 (24%)	102
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	4 (4%)	18 (18%)	22 (22%)	18 (18%)	12 (12%)	28 (27%)	102
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	6 (6%)	23 (21%)	23 (21%)	18 (17%)	12 (11%)	27 (25%)	109
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	1 (1%)	10 (13%)	17 (23%)	14 (19%)	10 (13%)	23 (31%)	75
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	10 (9%)	25 (23%)	23 (21%)	17 (15%)	12 (11%)	23 (21%)	110
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	14 (12%)	26 (22%)	21 (18%)	19 (16%)	12 (10%)	25 (21%)	117
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	10 (10%)	19 (19%)	21 (21%)	16 (16%)	12 (12%)	24 (24%)	102
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	7 (6%)	20 (18%)	19 (17%)	25 (22%)	12 (11%)	29 (26%)	112

職種別_人リスト_合同会社

看護職

	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	11 (29%)	7 (18%)	4 (11%)	10 (26%)	1 (3%)	5 (13%)	38
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	12 (29%)	9 (22%)	5 (12%)	9 (22%)	1 (2%)	5 (12%)	41
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	12 (27%)	10 (22%)	6 (13%)	11 (24%)	1 (2%)	5 (11%)	45
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	10 (26%)	10 (26%)	4 (10%)	10 (26%)	1 (3%)	4 (10%)	39
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	11 (26%)	10 (23%)	6 (14%)	10 (23%)	1 (2%)	5 (12%)	43
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	11 (26%)	9 (21%)	6 (14%)	10 (24%)	1 (2%)	5 (12%)	42
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	11 (25%)	10 (23%)	6 (14%)	11 (25%)	1 (2%)	5 (11%)	44
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	8 (23%)	8 (23%)	4 (11%)	8 (23%)	2 (6%)	5 (14%)	35
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	13 (34%)	4 (11%)	6 (16%)	9 (24%)	1 (3%)	5 (13%)	38
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	13 (28%)	11 (24%)	6 (13%)	10 (22%)	1 (2%)	5 (11%)	46
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	12 (29%)	9 (22%)	4 (10%)	10 (24%)	1 (2%)	5 (12%)	41
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	11 (26%)	10 (23%)	5 (12%)	10 (23%)	2 (5%)	5 (12%)	43

職種別_人リスト_一般社団法人

看護職

	3か月以上	1年以上	3年以上	5年以上	7年以上	10年以上	合計
①発達支援を行うクラス（グループ）の担当者の一員としてプログラムを共に作り支援を自ら行いつつ、看護職としての専門性を発揮している	2 (5%)	12 (32%)	5 (14%)	5 (14%)	1 (3%)	12 (32%)	37
②発達支援を行うクラス（グループ）の担当者として、クラスの子どもについての個別的な配慮を、同じクラスの他の職員に対して、看護職の視点から提案している	3 (8%)	12 (32%)	5 (14%)	5 (14%)	1 (3%)	11 (30%)	37
③事業所内において、必要な時に、看護職の視点からコンサルテーション・助言をしている	3 (8%)	12 (30%)	8 (20%)	4 (10%)	1 (3%)	12 (30%)	40
④看護職として個別の発達支援を担当し、プログラムを作成して適切に支援をしている	1 (3%)	11 (34%)	5 (16%)	4 (13%)	0 (0%)	11 (34%)	32
⑤看護職として標準化されたアセスメントを適切に実践している	1 (3%)	12 (32%)	7 (18%)	5 (13%)	1 (3%)	12 (32%)	38
⑥看護職として標準化されたアセスメントに基づいた子ども理解を他の職種にわかりやすく伝えている	1 (3%)	12 (32%)	7 (18%)	5 (13%)	1 (3%)	12 (32%)	38
⑦保護者に対して、看護職の視点からの子ども理解をわかりやすく伝えている	2 (5%)	10 (25%)	10 (25%)	5 (13%)	1 (3%)	12 (30%)	40
⑧地域の保育園・幼稚園・学校等の関係機関への連携・支援を行っている	1 (3%)	8 (28%)	9 (31%)	3 (10%)	0 (0%)	8 (28%)	29
⑨個別に子どもの看護支援、医療的ケアを行っている	3 (8%)	11 (30%)	7 (19%)	5 (14%)	0 (0%)	11 (30%)	37
⑩服薬管理、アレルギー・怪我や事故、緊急時対応を含む、健康管理を行っている	4 (10%)	12 (29%)	7 (17%)	6 (15%)	1 (2%)	11 (27%)	41
⑪食べたり（摂食）、飲み込む（嚥下）などの困難がある子どもに対する支援を、適切に行っている	3 (8%)	10 (28%)	6 (17%)	5 (14%)	0 (0%)	12 (33%)	36
⑫職員を含む、事業所内全体の感染対策、緊急時対策、事故対策、健康管理などを実施している	3 (8%)	10 (26%)	10 (26%)	3 (8%)	2 (5%)	11 (28%)	39

オ.自由記載

<事業所の取り組みについて>

年に一度 責任者と職員の面談を実施、目指すところを明確化し、それに合う必要研修などを合議の上で受講出来るように配慮し、職場で活かせる取り組みを実践しながら支援員のスキルアップに繋げている。

・経験年数ではなく、常勤か非常勤かによって求める役割や業務の適切さが変わるので、経験年数だけで答えるのが難しかった。

・「標準化されたアセスメント」が具体的に何を指すのか分からなかったので、病院や相談機関などで活用されている検査ととらえて解答している。

・経験年数によって、支援力や指導力の向上が見込まれます。向上によって、職場内のステージも上がって行くことが想像できます。

・職員の経験年数については、自社での経験年数のみを指しているか、それとも個人の前職も含めた経験年数なのかが分かりにくかった。

・直接の支援は、皆が自己研鑽しながら責任もって支援を行っており、経験年数により支援内容を分けているわけではないため、回答しにくい部分があった。

・同法人内のOT・ST・心理職の協力を得て療育を行なうことがある。

・医ケア児が利用する場合も（ケースによるが）同法人内より協力を得ることがある。

・保育士より看護師のほうがどうして低いのでしょうか？

・保育士より介護福祉士のほうが障がい分野では、薬の名前や、身体状態の把握は出来ているが、どうして保育士のほうが強みなのでしょうか？

①専門訓練士OT 1名以外は委託契約のためクラス担当はしていないが、専門的な視点で訓練や助言を受けて、クラスの支援に活かしている。

②地域支援や事業運営等の設問は、管理者や児発管の担う役割が大きい。

①保育士、児童指導員、理学療法士、作業療法士等なり手が少ない

②少しは処遇改善等で手当は良くなってきていますが、まだ仕事量に対する割合には至ってないように感じます。

③期限付きの提出物が多すぎる

④グレーゾーンの子どもたちのケアができていない

⑤なかなかお声がけができない分野なので、もっと保育園、幼稚園、関連機関での親御さんに早めに対処することで改善されることなので、障害児というレッテルをはられないように枠組みを完成していただきたい。

2022年4月に開所のため、まだ職員も最低限で行っておりますが、今後職員の増員を考えており、研修の参加を促します。

2022年8月指定の施設です。

保育士さんは40年以上と5年以上、児童発達支援管理責任者は20年以上のベテランです。

保育士さんは障がい児と関わった経験かないので、このような回答になりました。

ただ、皆さん子どもと関わった経験は豊富なので、回答した経験年数以上の働きをしてきています。

今後も経験年数を重ねながら、数字だけでは測れない子どもの成長にも携わっていただきたいと思います。

PT、STは、非常勤職員で月1~2回の勤務です

アセスメント、職員への指導、保護者対応・支援、関係機関との連携を行うのは、当事業所では、保育・障がい児保育・特別支援教育を専門とする、もと大学教授(経営者)です。しかし、保育士ではないため、アンケートの項目にはとても違和感がありました。また、心理職員ももと大学教授(経営者・心理学博士)であり、支援実践の核になっていきますが、現場は保育士や児童指導員が多くを担っています。従って、これも大変回答しにくいものでした。

ある職種に求められている業務が、事業所ごとに異なるため、高い専門性について答えたかった項目が、その職種の質問リストになかったという箇所がありました。

このアンケート調査の内容を見て、私たちの行っている事業は多種多様の知識と専門性が求められることを再認識して、今後の職員の育成の重要性を改めて感じました。

この実態調査を回答するにあたり、事業所内でのさまざまな視点を見つめ直す事も出来ました。支援の質を高める努力をしたいと思います。

スタッフの経験や年数が圧倒的に足りないと感じました。

スタッフ皆で協力して行っていることが多く、年数で決めるのは難しい。保護者との相談など自発管が行うことが多いので、スタッフでとなると該当なしになるのか？よくわからなかった

すべての業務を全員で分担しているため「何年以上の職員がこれを担当している」という今回のようなアンケートでは回答の仕方が難しいです。

それぞれの専門性が発揮できる状況であることは、こどもさんにとっても豊かな生活につながると思います。尊重しあう関係や統合する力が重要になりますので、認め合う関係が保てるように、管理者(自身の)姿勢が問われているように感じます。

地域の小学校では、障害児童の送迎の際に車両を入場させてくれず、さらに路上駐車もしてはいけず、各事業所で離れたコインパーキングを利用せよと一方的に通達してきて、障害児童支援事業所との連携を著しく断っているように思う。なぜ、送迎車両を学校の敷地内に入場させてくれないかの説明も無い。障害児童支援のクラスをなぜ受け持っているのか、疑問に思う。

メインでその仕事をしているというわけではないと記載が難しいと思いました。

より有意義な運営に適したスタッフ配置を定着させるのが、今後の課題となっています。

リハビリ職(P・T・O・T・S・T・C・P)在籍はありませんが、市からの委託事業のため市リハビリ職と連携を図りながら支援を展開しています。

医療ケア児の受け入れについて、医療型でない放課後等デイサービスも受け入れる事が出来るが、実際問題として医療従事者がいない事業所も多い。また、医療ケアが必要な場合、肢体不自由など重症児の場合も多く適切な介護技術が必要となるが、習得している職員が少ない。(配置基準として介護技術について有無が問われていない為)

医療行為の必要な児童の介助(車いす介助等)は介護福祉士が必要ですが、介護福祉士の必要数がないのは疑問に思います。

印象としては、経験年数というより個人の資質によると思われる。職員の経験年数や資質により支援の質に大きな差が生まれないう、研修、マニュアル作成や事例検討会を行いチームアプローチの実践が大切と思われる。他の児発事業との連携やチームアプローチの実践など加算対象となっておらず、事業所の努力に委ねられているのは課題があると思われる。

何年働いているかという問いでしたが年数よりも個人の資質が問われるところもあるので答えにくい質問でした。5年働いても利用者とのコミュニケーションが出来ないスタッフ、逆に1ヵ月でコミュニケーションを取れるスタッフもいます。勿論、経験も大事ですが年数よりも個人の意識や力量、着眼点の問題かと思います。

介護福祉士と資格取得の為に勉強しているにもかかわらず、人員基準に介護福祉士が該当しない現法律は間違っていると思う。保育士では社会人を育てるための療育の場面、特に小学校3年生以降の児童の療育にはふさわしくないと感じる場面が多い。むしろ介護福祉士の方が適切である。処遇改善特定加算のみで、介護福祉士が求められることに矛盾を感じる。人的基準の見直しを強く求める。

開所して2年半という事で経験値は少ないが、障害を持つ子供を育てた経験などから地域に貢献できる事業所となる様に成長して行きたいと考えている。保育士をはじめ経験値としては少ない職員が大半であるが、日々の打合せの中で支援方法などしっかり話し合った中でプログラムを提供し、利用児童の成長につながる様に取り組んでいる。また、特に保護者との連携、共有に力を注いでおり、支援計画について経過の進捗など定期的なモニタリングは長い時間を設けて全保護者と共有をはかっている。2022年8月1日現在という事で「いる」として入力したが、当事業所の作業療法士は8月1日の入職、若い作業療法士で障害児の経験はない。それでも意識が高く支援に従事している。作業療法士として個別・集団療育を中心に活躍する為の研修プログラムを構築しており1ヵ月が経過した所である。開所して3年目なので、リハや心理以外の職員は1から始めたものばかりです。いろいろな情報がいただけると幸いです。

開設したばかりなので障害児の経験は少ないですが 職員の半分は障がい者の支援経験8年です。

該当しないという項目に多くつけていますが、職員たちがまだ経験値が足りないため、法人の統括や管理者、児童発達管理責任者が主となり適切な対応をさせていただいております。

各事業所が療育の質の向上に向けて取り組んでいけるといいと思いました。

各事業所の事例検討会のような研修があるとありがたい。

学習障害の子ども達が、学校で不適合を起こしていると感じています。特別支援教育士など、LD専門の職員が増えるとよいと感じています。元学校の教師の活用も有効に感じます。

看護師経験が何年かによっても、障害児経験が3年未満であっても看護師経験を活かして行動できることも多い。

障害経験が少ない人へのチームとしての有り方がどのように行われているかでサービス提供量も質も違う。

障害児への健康や医療的ケア等に対するサービス提供の実施は職員が3年以下であろうとその人しか勤務していない時は3年以下の人でも対応する。

PTにおいては、職員の資質(他の経験、コミュニケーション力、分析力、行動力)の影響があるため、経験年数では一概には言えない。

OTは専門の学校で教育を受けて職務についている。(専門の知識に基づいて業務を行っているため)経験で「できる」「できない」と区別できないと思う。

看護職選任で看護師を雇うことができない。支援員としての兼務や他事業と兼務してもらわないと経済的に厳しい。

医療の必要な利用者様の支援はしたいが、やる気だけではどうすることもできない。

看護有資格者はいるが、管理者・児発管の役職についているが今回は経験だったのでそのスタッフのことを記入しています。

関係機関(行政等)との連携業務については、主に管理者および児童発達支援管理責任者が担っています。

勤務期間だけでなく、働かれている方の個性によって対応していただく業務等、変動することがあり、年数だけで判断することに難しい場合もありました。

経営（経済的）に pt st ot 看護師さんをお願いしたいと思いますが、時給（給料）の問題で、経営的（経済的）に難しいと思います。

経験年数についてですが、同一法人で保育園と児童発達支援を運営しており、異動もあるため、障害児支援の経験年数は浅くても保育経験の長い職員が重要な業務を担っています。そのため、経験年数の長い職員と短い職員で担っている業務内容が逆転しているケースが出ております。

経験年数によって能力を押し量るのは一概には言えないのが現実です。そうは言っても水準を作成するために分かりやすい目安ではあることは存じますが、より具体的な能力に応じてポストへの起用する方法を考えなければ、障害児分野も年数が積み重なってきた今、児童発達支援管理責任者などは経験年数を積んだだけで能力に不足のある方が多数発生してしまう恐れがあります。実際に児童発達支援管理責任者の研修へ参加し、グループワークを行った際に、約半数程度の方は管理者に値する能力を有しているとは到底思えませんでした。研修に参加していない(ひどい人は居眠りも)、また能力的に議論に参加出来ていない方にもとにかく一律に資格が授与されている現状は改善の余地があると考えます。

経験年数も重要と思いますが、職員さん毎で持っているスキルが異なること自発的にスキルを獲得しようとしている人では年数では現れない支援の質の差が見られることも現場として感じています。その点の基準を設けることは難しいかと思いますが共有できればと思い記載しました。

経験年数も大事だが、個人の能力によつての違があると思われる。

経験年数や職種、障がいの有無に関わらず、一人の子どもを育てる上での”感性”が重要になってくるのだと思います。子育て経験の有無も確かに必要ではありますが、その職員の生い立ちや今まで経験してきた人生も支援の場では役立つと考えております。3ヶ月であろうと10年であろうと人それぞれの良し悪しもありますので子どもへ良い影響を与えられる支援内容であれば随時チャレンジしています。

経験年数より、適正が課題だと思う。資格、経験年数があっても適切な支援ができるわけではないと日々感じる。

経験年数を重ねると、視点の幅が広がることは日々の業務で実感いたしますので、経験の浅い職員にも職員間で共有しながら様々な視点が広がるよう進めていきたいです。

経験年数関係なく、入職したら他の職員と相談・協力しながら年数関係なく対応しています。年数だけで区切っても質の良い支援なんてできません。

現在の低い介護報酬で国が要求する専門性・及び質の高い支援を提供するのは不可能です。皆、慈善や奉仕の精神、社会に対する責任感で踏ん張っていますが、ギリギリです。このアンケートに書かれていることを標準と考えるなら、その仕事に見合った報酬を考えていただきたい。かかる労力、高い専門的な知識と技術に報酬が全く見合っていない。今の介護報酬では最低限の生活の維持も難しい。

強度行動障害には該当しない行動障害者は各事業所に一定数いると思われまふ。そこに割く人員を考慮すれば、国の考える配置人員の倍程度の配置をしないと安全は担保できません。ここで書いてもあまり意味はないのかもしれませんが、必要な実態調査の的がずれているように思ひます。

現在は、医療の発達や発達に対する社会の認知など、軽度の子たちが増え、それに伴い事業所数も増えています。しかし、重度の知的や肢体不自由、重心、医ケアの子たちが通える事業所はあまり変化がなく、行ける場所も限られています。

現在の制度では、少数派の重度の児童を預かる施設の運営は難しいと思います。

報酬等の改定もありましたが、人員や利用児の確保や制度的な部分が難しく、当事者の方でない限り、立ち上げをする人はあまりいないでしょう。少数派の重度の方々に支援が行き届く社会になってくれるといいと思います。安心して施設を立ち上げできる仕組みや、行政などのバックアップ体制等が整備されるといいと思います。

現場の感覚からすると、資格よりも実務経験等の方が、より重要な指標だと考えます。

言語聴覚士と作業療法士については、月に1～2度の頻度で外部から来て頂いています。

個人の能力により大きく差が生じていると思います。

個別での学習支援を中心にしているため、集団や日常生活支援の問いにはほとんどがいきません。

個別支援を中心に取り組んでいるので、個別支援の質問もあるといいと思います。

国が資格に捉われ保育士、教員、社福祉等の配置と定めたが、結果介護技術や障がい知識がある介護福祉士がいなくなり、介護レベルが低下した。

私達が欲しいのは有資格者ではない。障がい児、者に対応できる経験者です。

安い給料では福祉職ができないから、皆質の低い障がい知識のない事業所が蔓延している。

今回、業務や支援内容をチェックすることで、不足している点などに気づくことができ振り返る良い機会となりました。ありがとうございました。

今回、障害児支援を行う職員の経験年数ということで回答させていただきましたが、

ある程度の経験年数が業務を覚え、質の良い支援へと繋がることは確かですが、

ある程度の年数後は、年数を重ねるだけでなく、常に学び自ら経験を積んでいく姿勢と関わり、学ぶ姿勢が大きく影響するのはと回答をしながら感じた次第です。自身も含め、児事業所の職員に自己研鑽の大切さを伝えつつ、支援の質の向上に努めていきたいと思います。

今回のアンケートを通して改めて、事業所の質向上のために職員が継続して勤めやすい、経験を積みやすい体制づくりが大切だと感じました。

今回の回答では実際の経験年数よりも短くても出来るかもしれないが、当事業所では確認できないため実際より長く記載している部分もあるかと考える。また、経験年数での回答とはなっていたが、実際の現場では経験年数が長くても場面によっては適切な支援が難しかったり、短くてもうまく対応する職員もいる。精神的な疾患を持ちながら働いている職員もおり、適切な研修や職員本人の資質、雇用形態（役職員か正職員かパートタイムか）によっても左右されると考えられる。

今回の設問の仕方が、なぜ、経験年数という点のみに着目して事業者に問うているのか、そこにどれほどの意味があるのか疑問に思いながら回答しました。いくら長く経験を重ねていても、従業している間、どれくらい適切な研修受講や研鑽を重ねているか否かで、事業所の質は大きく左右されると思うので、この問い方はいかがなものかと思うところもあります。

作業療法・理学療法・言語聴覚等の有資格者であることで加算がつきますが、現状、児童指導員とやっている支援は変わらないのではないかと疑問に思っている。本来、有資格者の方々は、ドクターによる処方箋に基づいて支援（本

来は治療と言うのか) をするものだと思うのですが、それもなければ、支援によつての成果を報告する事もなく、加算がついていることに納得は出来ないかと思っています。

作業療法士、言語聴覚士が「在籍」していても形骸化している他事業所の話当事業所利用の父母から聞きます。このような評価や訓練がアップデートされない状況でも、当事業所と同じ診療点数ということが悔しく、残念と言わざるを得ません。

子どもたちの発達支援は、多職種の専門的観点が必要だと常々感じております。在籍が難しい場合は、相談機関などと連携を取り、充実充実した療育を提供していきたいと思ひます。

指導員たちの支援の質が大変良いのに、経験年数に関わらず「児童指導員」「保育士」とひとくくりなこと、専門職名が無いことが残念に思ひます。

指導員としての年数より社会経験や、子育て経験も必要になる仕事だと思ひます。年数と力量は比例しません。年数が浅くても、保護者対応できる人もいます。

支援に必要な人材を集めたくても収入に見合わず集められない。

支援の経験年数を問われる質問が多かったが、人員配置が充実しているわけではないので、職員がいなければ、1年目の職員も担わなければならないのではないかと思ひます。

支援の現場において、通常の学校教育で障害児者に対して学ぶ機会が圧倒的に少ない中、障害児に携わつた経験年数よりも、その職員の持っている知識や取組み姿勢、考え方に支援の質が大きく左右されていると思ひます。これまでいくつかの入退職者を見てきて、比較的長く経験はあつても、知識が不足しており、自分の子育てや自分が育つてきた環境から、結果的に療育が躰的に型にはめようとする傾向があるように思ひます(躰も一つの要素としては重要と思ひますが)。

支援の質の向上をあげる為には職員数を増やすことが必要である。現状の収益では正職員を減し臨時職員で事業運営していかないと回らない。

継続的な質の向上に繋がらない。単価は徐々に下がつていき国の方針質の向上と現状がマッチしていない。

支援の質を高水準で保つていけるだけの資金がたりない。支援員の負担が大きい割に見合つた給料を支払えない。

支援の質を問う場合に「経験のみ」を取りあげると、「経験があれば良い支援ができるという」一義的かつ一面的な質にしかならないと思ひます。医療ケアには当てはまるかもしれませんが、多くの他の場合は「経験歴」では捉えられない豊かな実践の評価を無視してしまうことになりまふ。どのような理念や療育観の下で支援を行っているかを調査する必要があるのではないのでしょうか?放デイの2類型もその意識を含みこんでいると思ひます。そうしてボトムアップ的に出てきた調査結果を広げて、質の評価をどのようにしていくのかを検討する必要があると思ひます。かなりトップダウン的に見た実態調査のような気がしました。

支援環境の一層の向上につながることをお祈りします。

支援計画や普段の支援に新人社員も参加させています。それは、研修やフォローの体制を十分に完備した上での就業体系です。新人でも勉強や実習を通じて良い意見を持った人はいますし、一概に勤務年数だけでは測れない物はあります。

今回の調査で何を調べたいのかはわかりかねますが、経験=支援の充実 では決してないと思ひています。

理想的な支援は、様々な年齢や経験を持ち寄り、児童にあつた適切な支援と計画の形成だと思ひます。福祉は実務経験が物をいう世界ですが、その考え方が人材不足に一役買つている事を理解して頂けると助かります。

施設の運営で色々考えるいい機会になりました。整えなければならない部分もあると感じました。

肢体不自由児の療育を行なう保育士は会計年度任用職員も経験の長い職員が多く、今後入れ替わりの時期に、十分なスキルのある職員がこどもに向かい対応できるかが課題だと思う。

資格も大事なのですが、実務経験があってこそ資格の知識を発揮していただけるのではと思います。仕事に就く前に資格がなくとも実務経験を積みながら学んでもらえるような方も必要だと思います。経験の浅い保育士の方に高校生の子供を見ていただくのは無理があります。実務経験と知識のある方が一番必要だと思います。実務経験3年以上の方が児童指導員として認めていただけたらと思います。ありがとうございました。

事業所でのいろいろな業務は、資格によって違うこともありますが、年数でわかるものなのではないでしょうか。勤務年数が短い人でもよく子どもたちのことを理解して動いている人もいます。資格を持っていて長くいても、子どもたちを理解しようとしなない人もいます。

事業所にはセラピスト(理学療法士、公認心理士)は居ないが、同じ会社に在籍しており。定期的に来ていただいたり、言語聴覚士は、外部講師に定期的に来ていただいている

事業所を新設したばかりで、障害児支援の経験の浅い職員が多い中で支援を行っている。障害児支援の経験は浅いが、それ以外の経験が豊富な人材が揃っているので、子ども達にとって新しい風が吹いていると思う。

児童指導員と保育士とで資格要件とすると保育士の方が加算が上になっていますが、放課後等デイサービスでは小学生から高校生が対象となっているため、専門性とする経験年数が同じである場合、児童指導員の方が専門性が高いケースも良く見られます。児童発達支援では経験が多い保育士が専門職員として扱われるのであれば、放課後等デイサービスでも経験の多い児童指導員が専門職員に該当しても良いのではないかと思います。過去には質の低い支援をして問題になった事業でもありましたが、今は子どもたちのことを本気で思って支援している事業所も、待遇の悪さから人材が集まらず、経営が立ち行かなくなったり、あるいは現場の人手不足でせっかく志をもって入職した若い人たちが疲弊して退職する姿を見ているし、話しにもよく聞きます。専門性は必要、しかし給与は低いとなると、どんどん人材が不足していってしまうと思っています。志を持って勉強して福祉職に入職した人たちが、心身ともに健康で働き、そして障害をもった子どもさんたちの支援を専門性を持って長くできるような環境を整えていただけることを、切に望んでおります。

児童指導員は特別支援学校教諭免許を取得し大学院でさらに障害児の研究をされている方です。その方や通っている大学の教授や関係者の方々からの意見や考察等をいただいています。現場経験は少ないですが、研究者としての経験があるので、ケース会議をはじめ大変心強い戦力になっています。

児童指導員をしながら試験を受け、保育士の資格をとって4か月の有資格者がいます。保育園等での実践経験がなく、個別支援が主の当事業所にいらっしゃるお子さん以外に会う機会がほとんどありません。当事業所内では、お子さんの標準的な発達についてや、幼稚園・保育園等の中の様子について、幼稚園教諭経験のある児童指導員に尋ねることが多いです。支援についてのより具体的な意見は、有資格者より実際にお子さんと過ごした経験のある人からもらえると感じています。

児童指導員を中心に支援を行っていますが、保育(士)経験者の採用の必要を感じています

児童指導員等のスタッフについて、経験年数も一つの指標とは存じますが、それよりも本人の知識や向上心やコミュニケーション能力及び愛情等が支援に欠かせないと思います。

児童発達支援センターとして、正直なところ、当園の在園児の支援についてぎりぎりの支援体制であり、地域の子育て支援の拠点としての、中核機能は果たせていません。

児童発達支援や放デイなどでの専門職は必須だと思われるが心理職の立ち位置を生かすことに難しさを感じる。

児童発達支援管理責任者やスーパーバイザー的な職員を数に入れるのかどうか等、記入する施設によって回答する際の解釈が違うのではないかと思います。

児発センターでの障害児支援の経験年数が少ない方も、障害児保育を行う保育所での保育士としての経験が10年以上ある職員が多い上での回答となっています。

質問内容にあったように、支援する職員は、日によりばらつきがあるため、情報を共有した上で1人1人のサポートを丁寧に行っております。

そのため、日々、特定の職員が対応することは難しい状況です。

社内研修や日々の業務で気づいたことは障害児支援に携わった年数に関わらず職員間で情報共有や改善に向けて動いている。障害児と関わった経験がなくともその他の社会経験や障害者（18歳以上）の支援をしていたから、先に起こる課題を見通しながら関わられる強みもあり、障害児と何年関わっているからこの仕事ができる等は実際に明確に存在していないよう感じます。

社内研修や毎日の支援について振り返りを行なっているため、経験年数で判断していない。不安があればその都度解決している。

また、福祉経験年数が長い職員より、他職種からの転職により入職した職員の方が人間性が高いと感じる。

大切なお子様をお預かりしているので、経験年数での判断ではなく、支援の考え方・方向性の一致や人間性の方が大切との考えで、採用している。結局は、個人の意識の問題だと思います。

主な職員が該当の業務を担当するというより、基本的にどの職員も支援に携わっている

主は生活介護事業で共生型の児童発達支援及び共生型の放課後等デイサービスの指定を受けているが、実際のところ児童の利用者が0名である。

手厚く支援をしたいと思うが、専門員加算だけではリハ職・看護職を雇うには足りない。

低い給与では、なかなか、応募してもらえない。

当事業所では軽度の方から重度の方まで、ご利用がある。ギリギリで判定の出ている利用者さんでも、支援してみると様々な問題の出てくる方もいる。取りこぼしなく支援をしたいと考えると、支援員の人数を増やさないと支援が足りない。

重心の事業所を開設するためには看護師の採用が必要ですが、お給料の問題があり雇用をすることが難しいのが現状です。また、事業所を開所するためにはしっかりと経験のある職員の雇用が必要になります。求人を出してもお給料が安いと入職する職員がいない状態です。きちんとしたお給料を支払えるような国や県からの補助がないと経験値のある職員を雇うことができません。保育士・児童指導員の求人を出しても半年以上採用することが出来ていません。職員の負担になり療育の質が低下していると感じます。また、重心のお子様を利用できる事業所がないと聞きますので、早く作っていただけると良いと思います。よろしくお願いいたします。

小規模な児童通所施設の為、スタッフ全員で支援を行っています

障がいのある大人の利用できる福祉サービスは障がいの特性や支援区分によりある程度、使い分けされている。（療養介護、生活介護、自立訓練、就労 B、就労 A など）

それに比べ、放課後等デイの位置づけが、不明瞭すぎると思う。現に将来、就労 A、就労 B に移行できる児童が通う放デイ、療養介護や生活介護に移行する児童が通う放デイ、それらの児童がミックスに利用する放デイ、様々な状況の放デイがある。

国はそのような実態の中、どこのなんの部分の支援力の底上げをしたいのか・・・

支援力の底上げに力を入れたいのならば、放デイの位置づけをもう少し細分化し、それぞれの障がいに特化した放デイを区分していかなければ、支援力の底上げは上辺だけで終わってしまうような気がします。

現にいちばん星は将来、生活介護に移行される児童（知的に重度、重心）が多い放デイです。保育士、児童指導員のような教育的な知識より、介護福祉士のような介護技術的な知識のスキルアップが必要だと痛感しています。

障がい児支援は療育に偏りすぎて保護者の就労、レスパイト、子どもの保護、安全確保が手薄になっている。

制度発足時には、保護者の時間確保（家事、育児、就労等）も障害児支援の目的にしてあった。療育のみでなく、保護者、兄弟時のための時間を確保するために放課後等デイサービス、児童発達支援を使いやすくするひつようがあるのでは？専門職を置いて療育ばかりでは、家族が疲弊し経済的困難、虐待を助長しかねず、しわ寄せが子供たちに行くことになるのでは？

障がい児施設職員の処遇改善費をアップして頂けると、もっと働く人材が増えるのではないかと思います。

障がい福祉事業についてもっと充実した制度にすべき。

障害に関係なく、中高校生までを預かる放課後等デイサービスでは保育士の技術・経験では対応出来ないことがある。障害経験も質に大いに関わると思いますが、ベースに保育士、看護師を何年経験していたかにより、即戦力となり得ると回答しながら、気づきました。また、反対に資格がない経験だけの職員等は経験年数が多くても質にはつながってないとも感じました。結局は、対人援助職なので質の向上を一律にはかることは難しいのと、職種、経験に関わらず、人間性と組織の在り方が重要だと気付かされたので、今後に活かしたいと思います。

障害児に関わることに以前に保育士、カウンセラー、経験豊富な指導員で成り立っています。日々研修を受けたり関連本を読んでスタッフでシェアし子供たち、保護者が安全で安心できる居場所づくりを心掛けています。

障害児支援は保育園での加算の教師や、小学校の普通級にいる障害児を担任として当たったのは今回の回答には含めていません。

障害福祉施設における人員配置(資格者)は、本当の意味で見直しが必要なのだと思います。各省庁の垣根を越えて障害児達の自立に向けた支援の為に。

障害分野における医療食の適切な評価を引き続きお願いした。

職員で、研修を定期的に行なっています。

職員についての実態調査を行う中で、障害特性を含めた児童理解、療育プログラム等サービスの提供、専門的知識や技術の習得、法制度の理解など、適切な支援に基づく人材育成の難しさを考えさせられました。

職員のコミュニケーション能力の低さに困惑している。

職員の顔を思い浮かべながら記入していますが、技量は 経験 10 年 > 7 年 > 5 年 > 3 年とは限りません。

職員の業務状況は、経験年数よりも個々のスキルによる判断が中心となっています。年数のみ、保有資格のみでの判断は難しいです。

職員の資質も個人個人違いますので、任せられる年数は個々にかなり差があります。

障害福祉の経験は浅くても、保育経験の長い保育士は障害児の対応経験もあり、支援に対する理解も早いと思います。

職員の専門性についてのご質問が多かったと思います。私たちの現場では、どのように子どもたちに寄り添い、いっしょに遊ぶか、ということがもっとも大切な職員のスキルと思っています。その中で、集団を形成し、個としての成長を見守っています。ご質問のなかでは、そのような部分は、直接求められていないように感じました。障害児支援においては、もちろん学術的なエビデンスは必要ではあります（これらのことを理解しないで支援し、現場がトラブルで混乱していることも理解します）が、頭でっかちな支援ばかりが目立つようになるのでは、と懸念します。職員として、スキルアップは必要ではありますが、子どもを理解するのに、教科書が要らない場合もあります。

職員の能力や経験によりますので、経験年数との一致をするかという疑問があります。児童指導員は学校経験や不登校児の対応のスキルが高いので、経験年数が少なくても的確な対応ができます。

職員は年数よりも資質で業務内容が違うように思います。

職員全体で研鑽していきたいと考えております。

職種により一人しかいない場合などに選択の余地がないところがありました

職場内では、3年で一通りの仕事がわかるようになる…という目標があるため、3年目になれば独り立ちとなり担う役割も多い。1年の経験の職員も業務にあたっているが、設問が、適切な業務にあたっているかという項目であったため、3年以上の経験者を該当とした。

心理士ではないのですが、個人的に子ども、家族の関わる心理を学びました。通信での心理カウンセラーは認められないの事ですが少しでも利用者や家族が心穏やかに過ごせる様に日々行ってます。

心理士は外部契約職員として関わっていただいています。

心理職、看護師は、配置していないが、必要に応じて、支援を行っている。

心理職、看護職については配置はしていないが、必要に応じて支援を行なっている。

心理職の方からのアドバイスをいただけたらと思うときがあるのでそろそろ弊社も心理職の方を雇いたいと考え始めている段階です。

心理職員が所属してくれたら、専門的にアプローチできていいな。と思います。

しかし、そういった専門職の職員が働くには、賃金面の見直しをしない限りなかなか厳しいと感じます。

新卒～ベテランまで、同じ内容の支援を提供しているため、回答は平均をとって「3年以上」としています

人材不足が続いています。現在の放課後デイサービス事業所の数やニーズを考えると、障害児支援を専門に学べる大学や専門学校をもっと作ってほしいです。

正直、専門職をこれだけ採用している場合、コロナでのキャンセルが多く雇用の維持が難しい。専門職だから発達や制度を知っているのではないため、指導もしなくてはならない。保育園や幼稚園のように毎月決まった金額が入らないとフランチャイズ以外の事業所は倒産すると考える。本来、国や自治体が行うべきサービスを民間に移行させているのであれば、もっと加算等も簡素化し、手続きを省略すべきである。簡素化によって業務効率も上がるはずである。このような意見要望をどこが取り上げてくれるのか？疑問である。

昔からやっているが今の経験年数で応えるのか、または経験3ヶ月時はしていたなぁと言う振り返りで入力するのがわからず、適当な答えになったところがある

専門職として、児童指導員の専門性を考慮していただきたいと考えます。一つは、放課後等デイサービスで実績を踏んだ職員が、キャリアアップのため、転職を考えてしまうためです。それは事業所にとって大ダメージです。もう一つは、支援の要となるのは、児童指導員です。専門職だけでは、意見がまとまらず、よりよい支援に繋がりません。児童指導員として総合的にその子どもの成長発達において何が必要かを考え、その上でどうしたらそれが実現するか、専門職と話し合い、まとめ、チーム力で良い支援を行うことが重要であると考えます。放課後等デイサービスにおいて、児童指導員は専門職です。

専門職のPT,OT,ST、心理士等が、事業所にいてくれたらどんなにいいかと思うのですが、雇用の競争率が高くてなかなか放課後等デイに来ていただけない状況だと聞きました。ですので、子供達が病院で、言語療法を受けるときに、保護者や病院の許可を得て、見学させていただき、子どもたちの支援や課題づくりに役立たせていただいています。

専門職の経験年数の項目で、当苑のOTは1年未満ではありますが、専門職としての経験は10年以上あり、しっかりとしたエビデンスへの理解があります。専門職については、バックボーンとなる専門職としての経験年数も非常に大事だと思います。また機能訓練を行う上で専門性を確認するならば、Bobathや嚥下、呼吸の認定を取っているかを確認するのも有用かと思えます。

専門職の採用・増強と人件費・経費等収支のバランスが課題です。

専門性の高い看護師や介護福祉士よりも何故保育士のほうが重視されているのでしょうか

増々障害児・者への対応が難しくなると思えます。今後もチーム一丸となり専門性を活かして取り組みたいと思えます。

アンケート回答することにより、認識を又改たに出来ました。

他の事業所がどんな形式でどんな体制で営業をしているのか、また特徴があるのかを知る機会があると有難いです。多職種連携の必要性を切に願っています。

知識として、資格が必要な分野もあるが、それ以上に物事の本質を見抜く力、自分で考え理解しようとする力、知識や資格に頼り過ぎず柔軟に考えられる力が必要だと感じます。福祉業界に関しては経験年数や所有資格に依存し過ぎのよう感じている。

知識や力量、センス等年数で区切って判断することは難しく、“人”によります。

中高生が中心ですので保育士の採用したこともあります但对応できませんでした。

調査の中に、ST/OT/PTさんや保育士さんの質問がございましたので、あえて記入いたします。ST/OT/PTさんは、事業所に居ていただければと思います。特に言語聴覚士さんは特に必要を感じております。言葉が出るようになれば、あるいは自分の思いを言葉で伝えられるようになれば、お子様のストレスは軽減されていきます。何とか配置したいと思いますが、特にお子様への対応が出来るSTさんは限られており、入職していただくには、それなりのお給料が発生してまいります。大手の事業所であるならば、簡単なことかもしれませんが、小規模の会社では、なかなか難しい状態です。また、当事業所は小学生以降のお子様を対象としており、基礎学力の定着を図るとともに、就労に向けてのライフスキルトレーニングに取り組んでおりますが、本当に保育士さんが必要なかと考えてしまいます。勿論児童発達支援事業においては必要なことかと思っておりますが、小学生以降のお子様には、年齢に応じて向き合える指導員さんが必要なのではないかと考えてしまいます。

長い利用時間を希望される利用者（保護者）様よりも言語聴覚療法や専門的な個別の学習を希望される利用者（保護者）様が多く見られています。是非、専門的な支援への評価も考慮頂けたらと思っています。

適切な支援ができる資質と経験年数の間に相関関係は無いと思います。

適切な支援について経験年数で回答を求められたが、支援員の年齢や社会経験の有無によっても適応力が異なり、一概に「障害児支援の経験年数」だけで評価するのは難しい。例えば支援経験1年目でも、短大新卒者と保育士経験10年の職員とでは、障がい児の理解や保護者へ対応等に大きな差があるのが現状です。

適切な支援を求めるレベルにより、回答が変わる可能性があります。職種による違いだけでなく、本人のスキルによるものが大きいと思われれます。

適切な支援を行うには、やはり職員は重要です。もちろん、資格者は必要ですが資格はなくても資質の高い職員はおります。経験を積むことも大切ですが、運営上資格のない職員を育てるという余裕が資金面で難しく感じます。当事業所では、産休が同年に3名重なりました。産休・育休期間の職員配置が大変でした。そうした場合の配慮など考えていただきたく存じます。

当センターのような高い専門性を求められる施設は、常勤の職員を配置できる、安定的な報酬体系が必要と考えます。当園は経験年数ではなく、各担当職員が支援、窓口等を担っており、経験豊富な職員が助言やフォローし、対応しています。

また当事業所の配置ではありませんが、愛川町としてPT、ST、相談員等の嘱託あり

当施設は重症の医療的ケア児をたいしょうとしていますので主に生命の維持、体調管理をメインとしています。質問に対応しない部分が多くあり答えになっていないかもしれず申し訳ございません。

当事業所では、子どもたちひとりひとりの特性に応じて細やかに対応していくために、マンツーマンで関われる職員配置をとっている。その厚い人員体制のなかで可能な限り「丁寧な子育て」を目指すとの方針で療育を捉えている。

当事業所では、人材育成が課題です。療育の質の保障と人材確保のバランスが、経営上も困難な状況です。

当事業所において各スタッフそれぞれが担っている役割と提供すべき支援の内容の再確認をしたことで現況と今後の支援の在り方を理解することができた。

当事業所の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士は、外部から定期的に勤務しています。

当法人には、就労継続支援事業所も開所している。放課後等デイサービスの職員としてキャリアを積むべく、それぞれの職種と従事した年月から取り組もうとしていると、人手が足りないということで、異動を命ぜられてしまう。どうにもならない現状があります。

入社後の研修制度がしっかりしており、試験に合格しないとお子様の前にでてレッスンができません。言語聴覚士も理学療法士もみなさんが本社の試験を受けています。

入所、生活介護と一緒に建物内で運営していますので看護師、管理栄養士がいますので助言、対応しています。

配置基準含め、資格や知識はとても重要ですが、障害分野においては、学校でもあまりやらなかったという声が多かったです。障害の種類もそうですが、特製の理解も人によって症状が全く違うので難しい。

必ずしも資格保持者なので、専門的知識を持って支援ができるとは限らない。資格による人員配置基準、報酬単価は良質な支援に直結するとは考えにくい。

福祉で働こうという人がいない。サービスの質を担保するために職員を酷使せざるをえない。何らかの対策がないと、破綻する。最低給与の保証や指導員の給与金額の指定など、何らかの対策はできないか？質の高いサービスの提供をするための土台をしっかりしてほしい。

平均として3年以上と記入していますが人の出入りが激しく、実態としては未経験からこれらの業務を当てがわれる。しかしその中で適切な支援が出来る人材は限られているのが現状。未経験でも3か月以上から任せられる人もいるが3年以上の経験があっても適切な支援が出来ない人が圧倒的に多い事が見られる。年数や資格では現状として現場ではあまり意味をなしていないと感じます。基準人員や加算として資格は目安として判断されるが現場でそれによる専門性の高い支援を行えるかというのは別問題である事が多い。加算の為、人員として配置される結果、資格を持たない適切な支援が出来る人材が移動となり現場の負担が増加する。

保育士、児童指導員 個人的なスキルにバラツキがあり1年目でできる人と3年目でもできない人がいる場合は、1年目以上に○をつけています。

保育士、児童指導員が医療的ケア児との関わりや経験年数も重要だと思います。看護師だけが医療的ケア児に関わるわけではないので。

保育士、児童指導員とも、保育士等で提携発達むの子どもさん方と接して六る方、もともと子どもと遊ぶことが好きな方は、仕事のつかみ方が上手です。

保育士、幼稚園教諭、小学校教諭 20年以上の経験があるが障害児しえんは2年目であり経験を生かした支援ができている。

保育士3名で自発とデイを展開している事業所です。ST,OT等のいない現場ですが、保護者へ最善のサポートが出来るように日々努めています。

保育士が加算など考慮した上で人材としては欲しいところですが、保育士の言い分は「保育園で働きたいから保育士になったのに、障害児施設では働きたくない」と何人も言っていました。一方で子育て経験者など少し勉強すれば戦力になる人もたくさんいます。しかし、資格がない方に手当を支払うほどの余裕はないので、採用にはつながりにくい。短期間の講習を受けて児童指導員になれるなどの制度があってもいいんじゃないでしょうか？ぜひご検討ください。あと、もっと現場の声を厚生労働省へ直接届ける機会がもっと必要だと思います。

保育士として障がい児支援の職に就く前にどんな職場でどのような働き方をしていたかによって同じ経験年数の職員でもスキルの違いがでてくると思います。また、チームワークで補えるところと補えないところがあると思うので、個人のスキルアップのための努力をしていかなければならないと思います。

保育士によっても質にバラツキがあるため、3か月ですぐにできる職員もいれば10年以上経験していてもできない職員もいる。そのため、経験年数ももちろんだが個人の能力も踏まえて児発管になれる年数をもう少し短くし、その分研修を厚くして頂けたらと思っています。

保育士の専門性は加算項目等で優遇されていますが、違う資格取得者も優遇されてもいいのではないかと思う場面が多く見られる。

保育士の保育と障がい児の支援は全く違うと思います。保育士経験があっても障がい児支援が無い場合は必要性を感じないです。

保育士も児童指導員も個人資質があるので、経験年数だけでは適切な障害児支援をできるかどうかは判断できない。保育士資格、児童指導員資格は関係ない、必要ない、やる気と思いやりと優しさと、どうしてこの仕事に就きたいか？志高く障害児支援に関われるか、子供達の為に親御さんの為にと自らを律する事ができるのかが重要。資格があるから取り敢えずこの仕事につけるのではなく、やりたいからやるの気持ちを持った方々に職員として働いて欲しい、この場を提供したいと管理者、経営者の私は思っています。

保育士等の有資格者がいるだけで実態はお預かりの専門性を生かしていない事業所が加算を得ている場合が多数存在している。プログラム等上質な支援を行っている事業所を加算対象にするなどの報酬改定を希望しています。ご検討ください。また、高学年や高機能自閉症等の対応として教員免許の資格も有効と考えます。児童指導員と同等ではなく、差をつけて質の良い療育を行うための視点も入れてお考えいただけると良いかと思います。

保育補助、学童指導員の発達支援員など資格は無くとも3年以上の年数を積み子どもたちの支援に励んでいるパート職員や、外部からの講師として言語聴覚士の先生を呼び個別対応、職員研修、保護者面談等を行っています。

放課後等デイサービスは世間が思う以上に専門性が必要とされ、過酷な現場も多いです。もっと実態を発信し、離職の多いこの業界の事業所の職員がもっと働きやすい環境になることを願っています。

本人支援だけではなく、本人を取り巻く環境としての保護者支援にもっと価値を持った方がいいと思う。専門知識をひけらかすだけではなく、保護者の気持ちを受けとめ、共に子どもの成長発達を促すチームとしてかかわっていく事業所が増えることを願います。

問題を抱えている児童がいると囚われて人手不足になり、特別配置をしています。金銭的にはとても大変な状況です。

有資格者の配置を評価していただける事もありがたいのですが、無資格の職員も含めた「職員総数」の多さも、現場の手厚いサービス提供と、今後の人材育成の観点から評価していただきたいです。

令和3年の法改正での専門職加算の変更において、保育士の価値が下げられていると感じずにいられません。作業療法士や理学療法士がいる事業所の加算報酬が高いのは分かりますが、保育士の加算報酬が下げられたのは非常に残念です。生活力の向上をプログラムとして療育支援している放課後等デイサービスにおいてニーズが高いのは保育士です。保育士の社会的な価値が下げられているのも潜在保育士が増えている一因ではないでしょうか。